特67
964

435
1
61

明治二十二年十二月

村山會報告書

第四回

非賣品

四回村山會報告書目次

第一　規約
第二　紀事
第三　會計及寄贈
第四　圖書
第五　本會ト氣脈ヲ通スル會合ノ概況
第六　會員
第七　文苑
(一)論說
我鄉ノ缺點　宮城浩藏君
偶感一則　佐藤里次君
自家心事自家知　安達峯一郎君
佛教論理解釋　大塙茂馬君
寒月ニ對シテ感アリ　多田恒太郎君
隨筆　佐藤啓君
江ノ島鎌倉紀行　阪口周作君
偶感　安達幸次郎君
述意　石川忠次君
妄想　武田郁藏君
代議士選擧者ノ心得　佐藤仲次君
團結ノ必要ヲ述ヘテ村山會員諸君ニ望ム　芹澤友吉君
夢ニ亡國ニ遊フ　仁科三也君
苦痛ト快樂　仝　上
体育ニツキテノ管見　近藤直次郎君
親睦ヲ得ル方法「サンドー、スペース」ノ解　小松太次郎君
夢ヲ記ス　井上章吉君
法律ノ性質併セテ法律家ノ重スヘキヲ說ス　高梨利雄君
國家ノ富强策ハ工業ヲ隆盛ナラシムルニ在リ　杉原小八郎君
青年ニ對スル勸言　安喰長三郎君
村山地方々言彙集　仝　上
樂ノ話　松本慶次郎君
(二)詩歌
日光山雜詩外詩三首歌二首　金田留平君
題しらず　那須哲磨君
花下步月外詩一首　高橋庄次郎君
村山會報告書ヨリ題す　永澤郁君
秋日客中外詩一首　武田郁藏君
寒江釣雪　近藤直次郎君
四季の花合せ外歌二首　風間金次君
偶成外歌二首　原田源助君
題義士後彈圖　仁科三也君
早春鶯外詩一首　佐々木忠藏君
寄村山會友歌外一首　河合寺節君
(三)小說　渡邊貞雄君
わかれの涙　長登淳君

第四回村山會報告書

第一　規約

(一)村山會規約

第一章　名稱

第一條　本會ヲ村山會ト稱ス

第二章　目的

第二條　本會ハ在京ノ村山郡人ノ相會シ交誼ヲ親密ニシ智德ヲ涵養シ身体ノ健全ヲ計リ併セテ辨論ヲ練磨スルモノトス

第三章　會員

第三條　會員ヲ分チテ名譽會員通常會員及客員ノ三種トス

第四條　名譽會員トハ村山郡人タルト否トヲ問ハス又其住所如何ニ關セス本會ノ目的ヲ贊成シ之ヲ補助スルモノニシテ隨意ニ來會スルモノトス

第五條　通常會員トハ在京ノ村山郡人ニシテ毎會出席スルモノトス

第六條　客員トハ在京ノ村山郡人ニシテ毎會出席シ得ザルモノ地方ニアル村山郡人及ヒ村山郡以外ノ人ニシテ本會ノ目的ヲ贊成シ通常會員二名以上ノ紹介ニヨリ當日出席通常會員多數ノ承諾ヲ經テ入會シタルモノニシテ隨意ニ來會スルモノトス

但シ客員ハ本會一切ノ決議ニ與カルヲ得ス

第七條　本會通常會員タラント欲スルモノハ通常會員二名以上ノ紹介ニヨリ幹事ニ申込ムベシ

第八條　通常會員ニシテ三回以上無斷欠席ノ者ハ之ヲ客員トシ其後尙一ケ年間本會ニ音信ナキトキハ之ヲ除名スルモノトス

第九條　會員ニシテ轉校又ハ轉宿ノ節ハ之ヲ幹事

[illegible]
二 會計及寄附
第四 [illegible]
第五 本會ト氣脈ヲ通スル會合ノ概況
第六 會員
第七 文苑

(一) 論説

緒論 宮城浩藏君
[illegible] 佐藤里次郎君
[illegible] 安[illegible]一郎君
[illegible] 大[illegible]君
[illegible]ニ感アリ 多田[illegible]太郎君
[illegible] 佐藤[illegible]啓君
[illegible]鳥海會ヲ起シ[illegible]行 阪口周作君
[illegible] 安達幸太郎君
[illegible] 石川忠次君
代議士選擧者ノ心得 武田郁藏君
[illegible]ノ必要ヲ論シテ村山[illegible] 佐藤[illegible]伸次君
夢ニ[illegible] [illegible]君
[illegible] [illegible]君

「[illegible]ス」ノ解 [illegible]井上章吉君
法律ノ研究法ヲ論シテ法律家ノ重スヘキ所ヲ論ス [illegible]杉原八郎君
國家ノ富強策ハ工業ヲ隆盛ナラシムルニ在リ 安喰長三郎君
青年ニ對スル勸言 仝上
村山地方々言蒐集 松本慶次郎君
樂ノ話 金田留平君

(二) 詩歌

日光山雜詩外詩三首歌二首 那須哲磨君
題しらず[illegible] 高橋庄次郎君
花下步月外詩一首 永澤[illegible]郎君
村山會報告書ニ題ス 武田郁藏君
秋日客中外詩一首 近藤直次郎君
寒江釣雪 風間金次君
四季の花合せ外歌三首 原田源助君
偶成外歌二首 仁科三也君
[illegible] 佐々木忠藏君
[illegible]外詩一首 河合幸[illegible]君
村山會友歌外一首 渡邊貞雄君

(三) 小說

[illegible] 長谷[illegible]君

第四回村山會報告書

第一 規約

(一) 村山會規約

第一章 名稱

第一條 本會ヲ村山會ト稱ス

第二章 目的

第二條 本會ハ在京ノ村山郡人。相會シ。交誼ヲ親密ニシ。風儀ヲ涵養シ。身體ノ健全ヲ計リ併セテ辨論ヲ[illegible]ス

第三章 會員

第三條 會員ヲ分チテ。名譽會員。通常會員。及。客員ノ三種トス

第四條 名譽會員トハ。村山郡人タルト否トヲ問ハス。又其住所如何ニ關セス。本會ノ目的ヲ贊成シ之ヲ補助スルモノニシテ。隨意ニ來會スルモノトス

第五條 通常會員トハ。在京ノ村山郡人ニシテ。每會出席スルモノトス

第六條 客員トハ。在京ノ村山郡人ニシテ。每會出席シ得ザルモノ。地方ニアル村山郡人。及ヒ村山郡以外ノ人ニシテ。本會ノ目的ヲ贊成シ。通常會員二名以上ノ紹介ニヨリ。當日出席通常會員多數ノ承諾ヲ經テ入會シタルモノニシテ。隨意ニ來會スルモノトス

但シ客員ハ本會ノ一切ノ決議ニ與カルヲ得ス

第七條 本會通常會員タラント欲スルモノハ。通常會員二名以上ノ紹介ニヨリ。幹事ニ申込ムベシ

第八條 通常會員ニシテ。三回以上無斷欠席ノ者ハ之ヲ客員トシ。其後尚一ケ年間本會ニ音信ナキトキハ之ヲ除名スルモノトス

第九條 會員ニシテ。轉校。又ハ轉宿ノ節ハ。之ヲ幹事

No 959
23

ニ報知スルモノトス

第十條　會員ニシテ本會ヨリ退會セント欲スルモノハ。其事由ヲ略記シ。之ヲ幹事ニ届出ベキモノトス

第十一條　會員ニシテ本會ノ面目ヲ毀損スルモノアルトキハ。懇ニ之ニ忠告シ尚ホ悛メザルトキハ之ヲ除名スルモノトス

第四章　會同

第十二條　會同ヲ分チテ甲會。乙會。及ビ大會ノ三種トス

第十三條　甲會ハ。主トシテ智德ヲ淬勵シ。辨論ヲ練磨スル爲ニ設ケタルモノニシテ。毎會第一日曜日午後一時ヨリ開會シテ同六時ニ閉會スルモノトス

但シ會場ハ當分。神田美土代町二丁目一番地自由亭トス

第十四條　乙會ハ。主トシテ身体ノ健全ヲ計リ交誼ヲ親密ニスル爲メニ。設クルモノニシテ。一年四回之ヲ開キ。其會場。會期。方法等ハ甲會ニテ衆議之ヲ定ムルモノトス

第十五條　大會ハ。主トシテ交誼ヲ親密ニスル爲ニ。設クルモノニシテ。毎年一月ニ之ヲ開キ。會期。會場等ハ豫メ衆議ニヨリ之ヲ定ムルモノトス

第五章　會費

第十六條　會費ハ一ケ月金五錢トシ。出席スルト否トヲ問ハス。毎前會ニ於テ之ヲ納ムルモノトス

但シ當會ニ於テ。次會ノ欠席ヲ申告スルトキハ。次會ノ會費ヲ納ムルニ及バス

第十七條　新ニ入會スル者ハ。一時ニ當會。及次會ノ會費ヲ。當會ニ於テ納ムルモノトス

第十八條　客員ハ。其出席シタル當月ノ會費ノミヲ納ムルモノトス

第十九條　大會費ハ。其部度。衆議ニヨリ之ヲ定メ。本會ノ貯蓄金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

但シ臨時參會スルモノハ。當日ノ會費ヲ収ムル者トス

第廿條　本會收入金ハ本會々同。報告書出版費。及ビ。其他諸雜費ニ充ツルモノトス

第六章　職員

第廿一條　本會々計報告其他一切ノ事務ヲ處理スル爲ニ幹事三名ヲ置ク

第廿二條　幹事ハ通常會員中互撰ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第廿三條　幹事ノ任期ハ六ケ月トス

但シ再撰スルモ妨ケナシ

第廿四條　本會所有金ヲ保管スル爲ニ主計一人ヲ置キ通常會員ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第廿五條　本會圖書ヲ保管スル爲メニ圖書保管人二名ヲ置ク

此規約ハ。本會ノ原規ナル故ニ。容易ニ變更スルヿヲ得ストハ雖トモ。五名以上ノ發議アリテ。本會ノ議題トナリ。通常會員三分ノ二以上ノ贊成アルトキハ。之ヲ改正スルモノトス

（二）圖書縱覽假規約

第一條　本會圖書ハ村山會員ニ限リ閲覽ヲ許スモノトス

第二條　本會圖書ヲ自宅ニ携帶ノ上閲覽セント欲スルモノハ左ニ規定セル手續キヲ履行スベシ

其一　日曜日晩、圖書保管人ノ許ニ至リ圖書出入簿ニ記名調印シ並セテ望ミノ圖書ノ標題冊數ヲ掲ケ保管人ヨリ圖書ヲ受取ルベシ

其二　携出期限ハ一週間以内トス

第二　紀事

（從明治廿二年一月　至仝　十二月）

◎一月五日（第五十五回）

○例年ノ如ク午後第四時ヨリ新年宴會ヲ神田明神社内開花樓上ニ開ク、當日參集セルモノ四十七名外ニ客

員北畠義林、井上登美太、佐藤伊之吉、村田金右衛門ノ四君モ出席セヲレタリ、幹事ハ報告書ヲ全員ニ頒チ終リテ河合龜助、安達峯一郎、北畠義林諸君ノ演說アリ一同解散セシハ八時過キナリキ

◎二月三日（第五十八回）

○午后第一時ヨリ本會々場ナル神田美土代町自由亭ニ於テ開會々者三十五名

○當日ノ演說者幷演題ハ左ノ如シ

奧羽ノ將來　祝・辰己君
憲法論　東晋吉郎君
會場取締ニ付一言ス　武田源藏君

○當日議決セシ事項左ノ如シ

(一) 毎會演說者ヲ三名以下ト定ムルヿ
(二) 甲會ニハ可成的討論題ヲ掲ケテ討議スルヿ
(三) 本會ニ會長一名ヲ置キ本會ヲ統括セシムルヿ
(四) 本會ノ幹事ハ從來二名ナリシヲ爾從三名ト改ムルヿ
(五) 村山倶樂部設置ノ準備ヲ爲スヿ
(六) 毎月一回ノ運動會ヲ一年四回ト改ムルヿ

○議決ノ事件ハ右ノ如ナルモ尙ホ會員諸君ノ建議ニシテ消滅シタル事項アリ後日參考ノ爲メ左ニ掲ク

(一) 本會々費ハ出席スルト否トヲ問ハス徵收スルノ規則ヲ廢シテ出席者ニ限リ徵收スルヿ、以上芹澤友吉君外四名ノ建議
(二) 本會ニ於テ二ヶ月一回ノ雜誌ヲ發行スルヿ、會員ハ該雜誌ヲ購讀スルノ義務アルヿ以上安達峯一郎君外二名ノ建議
(三) 本會々場ヲ麴町區飯田町五丁目富士見樓ニ移スヿ、以上鈴木太助君外四名ノ建議

○當日幹事改選ヲ擧行セシニ左ノ三君最高票ヲ得タルヲ以テ本會ヨリ委托セシニ承諾ノ意ヲ表サレタリ

松本慶次郎君
武田源藏君
佐々木忠藏君

◎二月十一日（第五十七回）

○本日ハ正ニ是レ吾人帝國臣民ノ永ク紀念ニ存スヘキ天長節並ニ憲法發布式ノ佳辰ナリ、普天ノ下率土ノ濱、孰レカ　陛下ノ萬歲、帝國ノ無窮ヲ祝セサル者アランヤ、是ニ於テ本會ハ自由亭樓上ニ於テ賀筵ヲ張ル會スルモノ四十五名名譽會員佐藤里治君モ亦來會セラル午后五時ヲ報スルヤ　兩陛下ノ御影ヲ掲ケ會員起立シテ同聲萬歲、々々、萬々歲ト高唱シテ席ニ就ク酒肴出ツルヤ松本慶次郎君幹事ノ資格ヲ以テ此賀筵ノ成立ヲ陳シテ曰ク本日ノ會合ハ全會ノ議決ニ由ラサルモ蓋シ前回ニ於テ議決事項ノ夥多ナルヨリシテ事ノ此ニ及ハサリシ者ト臆斷シ幹事三名ノ同意ヲ以テ開會スルヿニ決定セリ次ニ本日本會ニ對シ特ニ金拾圓佐藤里治君、金五圓宮城浩藏君、金貳圓永井正紀君、金貳圓松田榮太郎君、金壹圓佐藤伊之吉君ヨリ寄附アリタリト、次ニ仁科三也君祝辭ヲ朗讀セラレ佐藤啓君、武田源藏君、鈴木太助君等交々起チテ憲法ノ頒布ヲ祝シ陛下ノ仁德ヲ頌シ併セテ吾人臣民ノ帝國ニ對スル義務ヲ述ベラレ終リニ佐藤里治君モ亦起チテ君カ今回憲法發布式ノ盛典ニ列シタル狀況ヨリ君カ多年縣下ノ爲メニ盡力セラレタル所以ト君カ地方有志家ノ資格ヲ以テ、本會名譽會員ノ地位ヲ以テ、本會員ニ期望スル事ヲ演セラル、既ニシテ酒數行歌ヲ者アリ吟スル者アリ舞フ者アリ醉フテ倒ル、者アリ歡呼ノ聲門外士民ノ歡聲ト相和シテ一層ノ喧囂ヲ極ム然レ𪜈亂ナラス暴ナラス和氣團々其間ニ磅礴タリ一同十二分ノ歡ヲ盡シテ解散シタルハ十時過キナリシ

◎三月三日（第五十八回）

○例刻開會來會者二十名午后五時解散ス

○演說者並演題左ノ如シ

會員請フ參會時間ヲ誤ル勿ランヿヲ　大泉金吾君

帝國憲法第三條ノ疑義　大塲茂馬君

大塲君ノ疑義ニ答フ　松本慶次郎君

佛敎衰頽ノ原因　東晋吉郎君

○當日決議シタル事項左ノ如シ

(一)名譽會員ニ關スル事項　此事タル已ニ二月ノ例會ニ起リタル動議ニシテ本日ヲ以テ漸ク結了ス當日會塲ニ提出サレタル動議ヲ揭クレハ第一○名譽會員ノ名稱ヲ全廢スルヿ、第二○名譽會員ノ名稱ヲ全廢シ更ニ補助員トイフ名稱ヲ用ヰルヿ、第三○名譽會員ノ名稱ハ之ヲ保存シテ更ニ補助員ヲ置クヿ、第三動議ニ可決ス

(二)運動會ヲ催スヿ、其會所、期日等ノ決定ハ次回ニ讓ルヿ

(三)圖書保管ハ是迄渡邊百三郎君ニ囑托セシカ今后鈴木太助君之ニ任スルヿトナシ圖書所在ハ本鄕臺町羽陽館ト定メタリ

◎四月七日(第五十九回)

○例刻開會來會者二十五名午后四時四十分解散ス

○新入會員左ノ如シ

金田留平君　天童町　近藤直次郎君　仝上　(以上通常會員)

山內莞爾君　上ノ山田中　豐君　大石田　(以上客員)

○演說者及演題左ノ如シ

財產ノ解　小松太次郎君

大和魂　杉原小八郎君

官吏ノ衆議院議員トナルノ弊ヲ論ス　佐藤啓君

日本ノ道德　大塲茂馬君

○運動會ニツキ左ノ如ク決ス

(一)本月第二日曜日即チ十四日飛鳥山ニ於テ催スヿ

(二)當日午前第八時富阪下鍬兵工塲ニ集マルヿ

(三)大旗一旒ヲ新調スルヿ

◎四月十四日(第六十回)

○前回ノ決議ニヨリテ運動會ヲ飛鳥山ニ開ク當日午前第八時會員三十名鍬兵工塲ヲ出發シ山形縣村山會ト大書シタル大旗ヲ押立テ徒步行進九時三十分飛鳥山ニ達ス此日天氣晴朗春風習々滿山ノ櫻桃已ニ十分ノ笑ヲ呈シ眼界ノ及ブ所盡ク花ナラサルナク快言フベカラス於是先ツ擊劍試合ヨリ高飛、巾飛、二人三脚、一人一脚、旗取競走、角力等ノ競技ヲ演シタリ此日同所ニ於テ宮城縣學生青森縣津輕協會學生ノ大運動幷ニ山形縣新庄學生ノ運動會アリ流石ニ廣キ飛鳥山モ東北人ヲ以テ充溢シタルヿ奇トイフベシ午後一時宮城及ヒ津輕ノ幹事ヨリ三縣聯合運動會ヲ催シタシトノ照會アリタレハ本會々員ハ奮テ之ニ承諾ヲ表シ新庄人ト合シテ一トナリ總人員無慮千餘人先ツ試ミシハ八百ヤード競爭ニシテ次ニ行ヒシハ擊劍試合ナリ本會員ハ共ニ充分ノ勝ヲ占メ競技ノ終リシハ午後四時三十分ナリ是ニ於テ本會員ハ一同歸途ニ就キ道灌山、日暮里谷中天王寺ヲ經テ上野摺鉢山頭ニテ解散セリ當日本會ヨリ競技優等ニ賞品ヲ授與シタルモノ拾二名アリキ

◎五月五日(第六十一回)

○例刻開會來會者二十六名新入會員左ノ如シ

二藤部三太郎君　大石田村　(以上通常會員)

○當日ノ演說者幷演題ハ左ノ如シ

東北七州學生懇親會ニ出席シテ感シタルヿヲ述フ　佐々木忠藏君

佛敎ノ大意　大塲茂馬君

成功果シテ吾人ヲ幸スルモノナルカ　渡邊百三郎君

現時ノ時勢ヨリシテ吾人ノ方針ヲ論ス　鈴木太助君

前演説ノ批評　安達峯一郎君

討論題（佛教ト耶蘇教トハ就レカ當時ノ日本ニ適スルカ）發題者ハ大塲茂馬君ニシテ二三ノ會員熱心ニ論セラレタレ𪜈採決セスシテ止ミタリ

◎六月二日（第六十二回）

○當日來會者僅カニ九名蓋シ朝來降雨非常ニ劇シキト諸學校試驗前ナルトニ由ルナラン是ニ由リテ各自膝ヲ接シテ笑語シ午後三時三十分解散セリ

◎七月七日（第六十三回）

○出席者十一名諸學校試驗ニ際シタルヲ以テ斯クハ出席者寡少ナリシナラン

○本會客員ナル竹下政吉君ハ曾テ米國ニ渡航セラレシカ這般歸國ニツキ出席セラレ米國幷ニ布哇國ノ狀況ヲ陳ヘラレタリ

◎九月八日（第六十四回）

○出席者十三名蓋シ夏季休業ニテ歸國セラレシ會員諸君ハ未タ悉ク上京セラレス出席者ノ少ナキ之カ爲メナリ

○演説者幷ニ演題

地役ニ關スル疑義　大泉金吾君

○新入會者

武田郁藏君　山形　石川忠治君　山邊（以上通常會員）

◎十月六日（第六十五回）

○例刻會合者二十二名新入會者左ノ如シ

高澤坦藏君　山形　鈴木彌三郎君　尾花澤　安達幸二郎君　山邊（以上通常會員）

○演説者並演題左ノ如シ

村山會ハ會員ノ思想ノ發達ト共ニ發達セサルベカラス　杉原小八郎君

國粹保存ヲ辨シテ諸君ニ望ム所アリ　河合龜助君

吾人ノ大本領ヲ辨シテ愛國心ノ解ニ及ブ　安達峯一郎君

壯士論　大塲茂馬君

佛教改革論ノ緒言　安喰長三郎君

再ヒ時間確守ノ事ヲ論シ併セテ本會維持ノ方案ニ關スル二三ノ意見ヲ述フ　大泉金吾君

○建議案並ニ議決事項左ニ掲ク

（一）幹事ノ員數ニ關スル建議　佐藤啓君外四名ヨリ

幹事ヲ二名ニ減スベシト云フ建議アリシカ贊成者少數ニテ消滅ス

（二）運動會ヲ催スノ議決

來十一月十日（第一日曜）飛鳥山ニ於テ運動會ヲ開クヿ

當日午前第八時マテ神田三崎町練兵塲ニ會シ后出發スルヿ

來月ノ甲會ハ運動會ノ爲メ休會スルヿ

○幹事ノ改選ヲ行ヒシニ左ノ三君投票多數ヲ得因テ本會ニテハ三君ニ幹事ヲ委任シタリシカ三君ハ之ヲ承諾セラレタリ

松本慶次郎君

安達峯一郎君

佐々木忠藏君

◎十一月十日（第六十六回）

○當日ハ則チ飛鳥山ニ運動會ヲ催スヘキ日ナリ前宵ヨリ曇天ニテ今ニモ大雨來ラントスル空合ナルヲ以テ會員一同心痛一方ナラサリシカ三崎練兵塲ニ集合シタル頃ハ稍晴天ノ兆ヲ現ハシタルニヨリ勇氣頓ニ加フ是ニ於テ來會者都合二十八名本會所藏ノ大旗ヲ樹テ各自ハ青紅白紫ノ小旗ヲ手ニシ八時三十分練兵塲ヲ發シ水道橋ヲ渡リ白山ヨリ駒込ニ出テ飛鳥山ニ到リ角力、鬼遊、擊劍、六百ヤート競爭、高飛、巾飛、旗奪競走、一人一脚競走、等ヲ試ミ下午三時半開散是日

ヤ飛鳥山ニ於テ東京和佛法律學校生徒ノ大運動會アリタルカ爲メニ運動ニ恰好ノ場所ヲ先占セラレタルカ爲メニ場狹ク力餘ルノ憾ナキ能ハスト雖モ亦十二分ノ快ヲ盡シタリ本日競技優等者ニ本會ヨリ賞品ヲ授與シタルハ一等賞ニテハ安喰長三郎、小松太次郎、安達幸次郎、杉原小八郎ノ四君二等賞ニテハ鈴木太助、小松太次郎、安喰長三郎、柏倉四郎治ノ四君ナリ

◎十二月一日（第六十七回）

○本日參會シタル者二十九名ニシテ會員中演說ヲナサントスルモノアリシモ此會合ハ本年ノ最終ニ屬スルヲ以テ團欒笑語シテ茲ニ本年ヲ忘ルヽニ若カスト云フヿニ一決シ依テ特ニ本日ハ演說討論ヲ廢セリ

○本日ノ決議セシ事項左ノ如シ

（一）報告書ヲ編纂スルヿ

報告書ニハ前年ノ如ク會員ノ詩文若クハ歌ヲ掲載スルヿ

但シ十名以上ノ投稿ナキトキハ掲載見合セノヿ

會員投稿ノ期日ハ本月十五日迄トス

編纂事務ハ幹事ニ委任スルヿ

（二）來明治二十三年一月七日午後第二時ヨリ大會ヲ開クヿ

會場ハ神田連雀町今金ト定ム

當日ハ前例ニヨリ酒宴ヲ張ルヿ

通常會員ハ宴會費トシテ各金十錢客員ハ金五十錢持參ノヿ

出席セントスルモノハ本年中幹事マテ通知スルヿ

三ケ月以上欠席シタル通常會員ニシテ出席スル時ニハ欠席中ノ會費幷ニ當日ノ會費ヲ持參スルヿ

（三）圖書保管ノヿ

從來鈴木太助君ハ本會圖書ノ保管ノ任ニ當クレシカ爾後安達峯一郎君保管スルヿ

第三　會計及寄贈

（一）會計決算　明治二十年度

入之部

一金五拾五圓三拾錢六厘	前年繰越高
一金廿貳圓三拾五錢	會費收入高
一金九拾七圓五拾五錢	寄贈金高
合計金百七拾五圓廿錢六厘	

出之部

一金廿壹圓四拾八錢	一月大會費
一金廿五圓九拾七錢貳厘	憲法發布祝賀會費
一金廿貳圓	第三回報告書印刷費
一金拾壹圓六十八錢	甲會費九回分
一金拾四圓拾九錢三厘	乙會費二回分
一金貳圓四拾五錢	書籍購求費
一金貳圓〇貳錢	報告書遞送費
一金四圓〇八錢	雜費（郵稅、紙、帳簿、文庫其他）
合計金百〇三圓八拾七錢五厘	
差引殘金七拾壹圓三拾三錢一厘	

（三）寄贈

明治廿二年中寄贈者姓名並ニ金額（五十音順）

一金參圓	板垣不二男君
一金壹圓	北畠義林君
一金壹圓	工藤治平君
一金拾五圓	佐藤里治君
一金壹圓	佐藤伊之吉君
一金六圓	鈴木太助君
一金三拾錢	鈴木理學君
一金八圓	多田理助君
一金壹圓	高宮吉之助君
一金拾四圓	永井正記君

一金壹圓六拾五錢　松本慶次郎君
一金貳圓　松田榮太郎君
一金三拾錢　增戸靜枝君
一金貳拾圓　宮城浩藏君
一金壹圓　村田金右衛門君
一金三拾錢　本木庸三君
一金拾貳圓　矢野通義君
一金九圓　柳澤重固君
一金壹圓　井上登美太君
本會ヘ寄贈ヲ約束セラレタル諸君姓名並ニ金額
一本會ニ於テ要スル費用ノ必要ナル分
板垣不二男君

一金二圓　河合好吉君
一山形新聞　佐藤里治君　重野鎌次郎君
一本會ニ於テ要スル費用ノ必要ナル分
坂口太兵衛君
一金拾圓　原田務君
一金六圓　鈴木太助君
一金八圓　多田理助君
一金六圓　永井正記君
一金拾五圓　宮城浩藏君
一金拾二圓　矢野通義君
一金六圓　柳澤重固君

第四　圖書

（一）政法部

佛國行政法　安達峯一郎君贈
愛國正議

外國貿易之理、高橋佐助君贈
民法人事篇
佛國民法契約篇　安達彦造君贈
第二回
憲法義解、本會購求
利用論、長登淳君贈

（二）文學部

英文寺小屋
英文菅原傳授女子教育論　安達峯一郎君贈
周易　齋藤十一郎君贈

續唐宋八家文
執中學意申檄
執中學則註解
執中學派主教大意　佐藤伊之吉君贈
累解
國體論　高橋佐助君贈
學理汎論記
演說學　那須哲磨君贈
日本蒙求
國文軌範
言葉の八街　松本慶次郎君贈
竹取物語
西國立志篇、飛鳥田爲太郎君贈
文法註解、垂石千代松君贈
心理學、佐々木忠藏君贈
雄辯法、本會購求
經國美談、武田源藏君贈
歐洲美談、安達彦造君贈
雪中梅
新日本談　高橋佐助君贈
連理旅行
海底
西洋膝栗毛

該撒奇談
美少年錄　鈴木太助君贈
梅雨日記
英國奇談　佐藤謙三郎君贈
警世奇話　安達峯一郎君贈
該撒奇談
花間鶯　本會購求

（三）歷史部

義經再興記
英將史談　高橋佐助君贈
萬國歷史
開國始末
佛國革命前二世紀事　本會購求
文明東漸史

（四）地理部

山形縣地圖、齋藤十一郎君贈
出羽風土記、荒井太四郎君贈
萬國地理、本會購求

（五）雜書部

決鬪　日下一郎著
決鬪　自著　大塲茂馬君贈

端艇訣、齋藤十一郎君
仙臺新繁昌記、那須哲磨君贈
桑港圖
英文米國旅行記　石川謙二君贈
近況新事志、高橋佐助君贈

（六）新聞雜誌部

維嶽雜誌　每號　庄內同鄕會贈
山形新聞　每號　佐藤里治君、重野謙次郎君贈
和歌山青年會雜誌　每號　和歌山青年會贈
羽陽同盟會雜誌
山形共同會雜誌　佐藤伊之吉君、安達峯一郎君贈
西村山郡教育會雜誌　每號　山內莞爾君贈
諏訪青年會々誌、諏訪青年會贈
山形新報、重野謙次郎君贈
出羽新報、佐藤里治君贈
英文基督教報知新聞　米國ハリス君贈

第五　本會ト氣脈ヲ通セシ會合ノ概況

（一）天童責善舍

○天童責善舍ハ天童町ニ在リ天童住民ノ團体ナリ目的ハ智識研磨德義淬勵幷ニ地方自治ノ基礎ヲ强固ニスルニ在リ會員凡ソ五十名舍員ヲ第一類第二類ニ分チ其他補助員ナルモノヲ置ク其目的ヲ達スルカ爲メニ擧行スル所ノ事項ハ曰ク演說曰ク討論曰ク講義又時々懸賞問題ヲ以テ競文ノ資トナストイフ

○此團体ハ現時村山會ノ名譽會員柳澤重固君、通常會員佐々木忠藏君之ヲ發起シ通常會員佐藤仲次君、近藤直次郎君客員阿部庫司君、野呂猪之烝君等ノ再興ニ係ル所ノ者ナリ

○現時此團体ノ舍長ニハ寒河江惣助君幹事ニハ長谷部廣吉君、阿部直次郎君之ニ任シ其他會計係、評定員等ノ役員ヲ置キテ事務ヲ整理ストイフ

○此團体ノ本會ト氣脈ヲ通セシハ明治十九年九月ニ在リ爾來疎遝ノ憾ナキニ非ラスト雖モ其意氣投合脈絡串通スルハ多年一日ノ如シ聞ク此團体ハ今ヲ去ル八九年前ノ創設ニ係リ而シテ其間一盛一衰アリト雖モ地方ノ爲メ稗益ヲ與ヘタルヿ實ニ大ナル者アリト本會ハ切ニ望ム爾來此團体ノ益ニ奮迅シテ屈スルヿ莫カランヿヲ

（二）村山友善會

○村山友善會ハ山形市ニアリ去ル明治二十年一月ヨリ本會ト連絡シテ氣脈ヲ通シ居リシニ由リ今般本會ニ於テ報告書ヲ發スルニ當リ同會ノ概況報導ヲ委托セシニ同會幹事清水多美彌君、小角金五郎君、前田良作君、井上包太郎君連名ニテ「別段本會報告書ニ登錄相願ヒタキ事件コレ無キ故左樣了承イタスヘキ旨並ヒニ爾後益々奮勵シテ同會振起ノコト盡力致スベケレハ不相變從來ノ連絡交情ヲ保タレタキ」趣キヲハ十二月十八日付ノ郵書ニテ本會幹事安達君マテ申來ラレタリ

○元來同會ハ村山會ト目的ヲ同シクセル貴重ナル地方一團体タルヲ以テ本會ハ其ノ益々盛大ニシテ愈々鞏固ニ本會及ヒ他ノ連絡團体ト相共ニ提携扶持シテ鄉里振起ノ盛業ヲハ可成的早ク且ツ圓滿ニ成就セント欲スルヤ切ナリ友善會ノ諸君子ハ辛ニ本會ノ衷情ヲ察セラレヨ

（二）山邊同志會

○山邊同志會ハ山邊村有籍若シクハ出身ノ有志者ヲ以テ組織シ現時會員四十七人アリ其目的ハ地方有志ノ士ヲ團結シ協同一致シテ國家ノ元氣ヲ振作シ地方ノ弊風ヲ改良シ社會共同ノ利益ヲ增進スルニアリ其目的ヲ達スルノ方便トシテ總會、常會、臨事會、三種ノ集合ヲナシ談話、討論、演說、講義、運動ヲ擧行ス

○此團体ニテハ會頭、副會頭、幹事、書記等ノ役員ヲ置キテ之ヲ整理ス現時會頭安達貞藏君、副會頭石川尙益君、幹事垂石大郎助君、佐藤直次郎君、之ニ任セリ

○此團体ヨリシテ本會ニ申込マレタル條件ハ左ノ如シ

一、東京村山會ト山邊同志會トハ互ニ連絡ヲ通シ左ノ條件ヲ履行ス

二、山邊同志會々員ノ上京スルモノハ會員二名以上ノ承諾ナクトモ村山會通常會員タルヲ得ベシ
　但シ上京ノ際ハ本會々員ノ証票ヲ持參スベシ

三、例會ノ景況ハ當分山形新聞紙上ニテ互ニ報告スルモトス

四、両會ニテ重要ナル事件ナルトキハ互ニ相諮問スヘキモノトス

五、兩會ニテ報告書其他重要ナル文書ヲ調製セルトキハ互ニ交付スルモノトス

六、兩會ニテ互ニ相質問セント欲スルトキハ兩會幹事ノ手ヲ經テ質問案ヲ送ルベシ
　但シ可成早ク應答スルヲ要ス

七、新正ニハ相互ニ會名ヲ以テ賀狀ヲ贈付シ祝意ヲ表スヘク又ハ兩會員ノ上京或ハ歸省スルトキハ可成兩

會ヘ出席盡力スヘキヿ

但シ會員証票ハ相互ニ持參スヘシ

○此團体ノ會員表ヲ通覽スルニ資產家アリ老成人アリ書生アリ教育ニ從事スル者アリ法律ヲ研究スル人アリ向後此團体ノ機關ノ益々充備スル曉ニハ我縣下ニ於テ耀々乎タル光輝ヲ發揮スルヤ必セリ我友同志會ヨ我鄉ノ改良スヘキ事項甚タ多シ企圖スヘキノ事業殊ニ滋シ請フ自ラ任シテ敢テ或ハ屈スル勿レ村山會微小ナリト雖モ何ソ盡力セサルヘケンヤ

第六 會員

（一）名譽會員

鄉貫	住所	姓名（五十音順）
西、海味村	山形新築	佐藤里治
東、天童町	山形始審裁判所	原田務
東、天童町	麹町區上二番町卅九番地	宮城浩藏
東、天童町	福島始審裁判所	柳澤重固
南、山形香澄町	磐井支廳	矢野通義

小計 五名

（二）補助員

鄉貫	住所	姓名（五十音順）
北、名取村	靜岡始審裁判所	板垣不二男
南、上ノ山町	赤坂區田町二丁目十八番地	河合好吉
南、山形市	山形香澄町	重野謙次郎
東、天童町	明治學院	鈴木太助
東、中村	中村大字大蕨	多田理助
南、上ノ山町	京橋區南傳馬町一丁目一番地	永井正記

小計 六名

（三）通常會員

鄉貫	住所或ハ從學校	姓名（五十音順）
東、天童町	工手學校	安喰長三郎
東、山ノ邊町	法科大學	安達峰一郎
東、山ノ邊町	英語學校	安達幸次郎
北、元飯田村	專門學校	安達敬太郎
南、門傳村	專門學校	安達彦造
北、楯岡村	順天堂醫院	阿部恒治
西、谷地村	赤坂田町七丁目五番地紫田熊太郎方	東晋吉郎
東、山ノ邊村	成城學校	石川忠治
南、上ノ山町	法科大學	祝辰己
北、名取村	東京法學院	板垣玉治
西、慈音寺村	高等商業學校	大泉金吾
南、山形市	東京法學院	大塲茂馬
南、上ノ山町	明治學院	河合龜輔
南、上ノ山町	海軍醫學校成醫會	河合良朔
南、上ノ山町	麹町區中六番町二十九番地松本方	河合孝朔
東、天童町	東京唱歌會	金田留平
東、長崎村	順天求合社	柏倉四郎治
東、天童町	東京唱歌會	風間金次
西、溝延村	明治法律學校	小松太次郎
東、天童町	日本橋久松高等小學校	近藤直次郎
西、海味村	專門學校	佐藤啓
東、天童町	專門學校	佐藤仲次
東、天童町	明治法律學校	佐々木忠藏
東、天童町	慶應義塾	坂口周作
南、上ノ山町	東京法學院	杉原小八郎
北、尾花澤村	明治法律學校	鈴木彌三郎
東、天童町	明治法律學校	芹澤友吉
西、左澤村	進德館	清野貞之助
北、楯岡村	東京府尋常師範學校	高橋庄二郎
東、天童村	東京物理學校	高澤坦藏
東、天童町	農林學校豫備校	武田郁藏
東、中村	農林學校豫備校	多田恒太郎
東、山ノ邊村	國民英學會	垂石千代松
西、白鳥村	東京法學院	永澤朗
西、睦合村	專門學校	長登淳

北、名取村	慶應義塾	那須哲磨	西、吉川村	浦和官舍遠山正俊方
南、上ノ山町	神田區猿樂町二丁目一番地佐々木方	仁科三也	東、天童町	天童町
北、大石田村	成立學舍	西塚亨太郎	東、山ノ邊村	山ノ邊村
北、大石田村	專門學校	二藤部三太郎	東、天童町	天童町
東、天童町	法科大學	松本慶次郎	南、青田村	明治法津學校
南、上ノ山町	英語學校	增戸靜枝	東、天童町	麹町區上二番町二番地
南、上ノ山町	工手學校	森軍藏	西、寒河江村	寒河江村
西、要害村	農林學校豫備校	本木庸三	東、天童町	士官候補生
南、山形市	順天求合社	矢野繁三郎	東、天童町	工科大學撰科
東、天童町	專門學校	渡邊百三郎	北、東根村	東根村
東、天童町	東京唱歌會	渡邊貞雄	西、谷地村	
東、豐田村	國民英學會	井上千代松	南、山形市	京橋區瀧山町五番地
小計 四十八名			南、山形市	香澄町三十番地
（四）客員			北、道滿村	道滿村
鄉貫	住所或從學校	姓名（五十音順）	西、大谷村	在米國
東、天童町	天童町	相澤貞吉	北、楯岡村	明治法律學校
			北、仝上	楯岡村

西、谷地村	慶應義塾	菊田行藏	東、大清水村	神田區小川町一番地金澤屋方
西、溝延村	慶應義塾	菊地與八郎	南、上ノ山町	芝區愛宕町二丁目二番地杉山方
北、楯岡村	楯岡村	工藤治平	東、天童町	天童町
南、上ノ山町	東置賜郡大塚村	小松幸太郎	南、山形市	神田區小川町五十二番地
東、天童町	本鄉臺町廿八番地	佐藤伊之吉	東、寺津村	寺津村
東、長岡村	明治法律學校	佐藤治三郎	東、長岡村	長岡村
東、青柳村	法科大學	齋藤十一郎	西、谷地村	谷地村
東、天童町	深川御船藏前町五番地	佐藤友治	東、天童町	山形市橫町
西、清助新田村		佐藤謙三郎	東、天童町	山形市
東、天童町	天童町	佐藤一郎	東、今町村	東京法學院
東、天童町	神田區北神保町十二番地	佐竹義政	東、天童町	在布哇國
東、天童町	天童町	坂口太兵衛	北、大石田村	醫科大學撰科
東、天童町	慶應義塾	坂口周助	東、高揃村	第一高等中學校
東、陣場村	陣場村	齋藤安喜之助	東、山ノ邊村	山ノ邊村
西、谷地村	谷地村	櫻井源藏	西、水澤村	麹町區土手三番町十五番地酒井極方
西、寒河江村	成城學校	澁谷義三郎	西、寒河江村	寒河江村

東、天童町　新橋鉄道局　根岸銀次郎
東、天童町　福島縣岩瀬郡役所　野村寛
東、天童町　神田區北神保町十二番地　野呂猪之烝
南、上ノ山町　佐竹方　東京農林學校　原田源輔
東、長崎村　東京農林學校　服部房治
西、谷地村　谷地村　菱川源松
北、楯岡村　成立學舍　二村研
北、野田村　野田村　本間安助
東、大清水村　大清水村　松浦吉三郎
東、大清水村　大清水村　黄木吉之助
北、山口村　麹町區富士見町一丁目廿九番地　松田榮太郎
北、東根村　東根村　三浦五郎
南、上ノ山町　寒河江村　山内莞爾
東、山元村　山口寛司

小計　六十四名

右村山會員總計百二十三名

第七文苑

（一）論說

我郷里ノ缺點

名譽會員　宮城浩藏君立案
通常會員　安達峯一郎君執筆

佛儒モンテスキウ其著書萬法精理ニ論シテ曰ク「北半球ニ於テハ南人ノ北人ヲ征服セルコト其數僅カニ四回ニ過キズトイヘドモ北人ノ南人ヲ征服セルコトハ其數十七回ノ多キニ及ベリ……　……」ト。然ルニ我郷里ハ大日本帝國ノ極北ニ位スル一大地方タルニモ係ハラズ常ニ他地方ノ牛後トナリ、委靡トシテ振ハザルガ如キ觀アルハ是レ果シテ何等ノ怪象ゾヤ

余輩ハ少暇ヲ得テ歸省スルノ途次、關山ノ洞門ヲ出テ故郷ノ天地ニ入リ月山ノ高ク天ヲ摩シ藻川ノ長ヘニ其間ヲ横絶シ十里ノ田畝、青ヲ漲ラシ黄ヲ漾ハシ無數ノ村落恰

舒ニ點綴シ優然トシテ人烟ヲ吐クヲ望ム毎ニ未ダ嘗テ以太利北部ノポー河畔（歐洲第一豐饒ノ地）ヲ追想シテ覺エズ幾タビカ詩聖ボッカチチノ「人界中ニモカヽル樂園アリケリ」ノ絶唱ヲ微吟セズンバアラズ。若シ歐洲人ノ言フ如ク我帝國ニシテ天然ノ公園ナリトセバ我郷里ノ如キハ言フ迄モナク其最上乘タルモノニ非ズシテ何ゾヤ

曉開窓抄千里白、寒鴉點綴枯樹枝。我郷里ハ雪國タルニ相異ナシ、殊ニ日本三雪ノ一タル尾花澤ノ如キモ我郷里ノ天地ニ横ハレル一雄村タルヲ知ラバ誰レカ其ノ雪深キ地方タルヲ爭ハンヤ、然レドモ之ガ爲ニ業ヲ廢スルニ至ラズシテ幼少ノ小學生徒スラ筆硯ヲ携ヘテ登校スルノ傍ラ雪ヲ握リテ丸トナシ之ヲ積ミテ疊トナシ吶喊驅馳シテ活戰ニ擬シ、知ラズ知ラズノ間ニ尚武ノ氣象ヲ養ヒ兼テ健偉ノ体格ヲ發達セシムルヲ得ベシ。コレ豈ニ雪少キ地方ニテ得ベカラザル特利ヲ受ケシカモ冱寒地方ニテ避ケ難キ蟄居ノ大害ヲ免ルヽモノニ非ズヤ

中宵煩熱不得睡、起執團扇向清流。郷里三伏ノ熱ハ殆ント余輩ヲ惱殺スルニ足レリ、然レドモ鹿兒島人士ノ暑ヲ東京ニ避ケ東京人士ノ凉ヲ我郷里ニ求ムルモノ尠カラザルヲ知ラバ我郷里ノ比較上清凉ニシテ南方人士ヲシテ健羨セシムルニ足ルヲ悟了センコト敢テ難カラザルベシ

寒已ニ甚シカラズ暑モ亦烈ナラズ、風物和煦ニシテ關東地方ノ如ク烈風塵ヲ揚グルノ不快事少ク、東京ノ脚氣、水戸諏訪地方ノ間歇熱ノ如キ地方病アルコトナシ。天與ノ幸福寧ロ厚キニ過グルナカランヤ

傳ヘ聞ク、鹿兒島地方ハ土地瘠貧ニシテ米穀ヲ植ウルニ適セザル處多ク滿目、薩摩芋畝ナル處モ尠カラズ故ニ田夫ノ体格强健ナルガ如クニ見ユルモ一タビコレガ重量ヲ計ルニ至レバ比較上著シク其ノ少キヲ見ルト、何ゾ其レ憐ムベキヤ。我輩ハ郷里ヲ以テ世界無比ノ腴地ナリトハ思ハズ然レドモ到ル處トシテ米穀ヲ產セザルコトナキヲ以テ、又其產出高ノ他地方ニ比シテ多量ナルヲ以テ故郷

チ以テ豐腴ノ地ナリト斷言スルヲ憚カラザルベシ、コレ決シテ我輩一家ノ私言ニ非ズ、地理學者モシカイヘリ、統計年鑑ノ余輩ニ指示スル所モ亦此ノ如シ、余輩豈ニ皇天ニ感謝スル所ナクシテ可ナランヤ

敢テ問フ、鄉里同胞甘餘萬ノ生靈中ワンデルビルド、ロッチルドノ如キ富豪アリヤ、曰ク無シ、又問フ我鄉里ニ於テロンドン賤民ノ如ク馬糞ヲ以テ臥床トシ、パリ以太利街ノ如ク一室中ニ數區ヲ畫シテ許多ノ家族混住シ其狀恰カモ野獸ノ巢窟ノ如キモノアリヤ、曰ク無シ。

ツラ〳〵我鄉里ノ實狀ヲ察スルニ大富者ナシトイヘドモ大貧者ナク各々皆其所ニ應ジテ生計ヲ營ムモノヽ如シ、是レ實ニ社會學上喜ブベキ現象ニシテ國家ノ爲ニ賀スベキ吉事ナリト謂ハザルベカラズ、同僚以國博士ッテルノスドロ氏ハ東京貴賤生活ノ情態ヲ觀、嘗テ余ニ謂ヒテ「貴國ノ首都ハ歐州各國ノ普ク大患トスル一大病ヲ有セズ、貧富懸隔ノ太ダシカラザルハ余ノ心ヨリシテ貴國ノ爲ニ賀スル所ナリ」トイヘリ。錦繡帳裡絲竹管絃ヲ弄ビテ閑ニ日ヲ消スル王子公孫ノ傍ラニハ燒芋ノ一片ダモ口ニスルコト能ハズシテ深更餓ニ泣クノ貧人乞兒アル、則チ我國人ノ所謂地獄極樂ノ兩界ヲ具フテフ東京ヲ見テダニモ泰西學者ノ眼ニハ健羨ノ光リハ輝クナリ。希クハ此等外客ヲシテ我鄉里ノ實狀ヲ一見セシメタキモノニコソ

人或ハ云フ、邨山人ハ浮薄ニシテ節操ナシト。余輩ノ曾テ歸省セルヤ無數ノ有志ニ接シ其ノ談論ヲ聽キ其行事ヲ觀、其大低眞摯温直ニシテ賴ミ多キ美質ヲ備フルニ感服セリ。或者ノ言ノ如キハ是レ下卑賤俗ノ輩ヲ見テ偶然發シタルノ語ナラン。下卑賤俗ノ輩ノ浮薄ニシテ節操ナキハ固ヨリ怪ムニ足ルナシ、下等賤俗ノ輩ヲ見テ全班ヲ評セバ何レ邦、何レノ處カ浮薄ノ民ナラザラン。獨リ知ラズヤ一國ニ於テ一國ノ精神原動力ト爲リ一地方ニ於テ地方ノ先輩有力家トナルベキモノハ下卑賤俗ノ徒ニ非ザルヲ

又曰ク鄉人狡猾ニシテ猜疑心ニ深シト。掌大ノ天地、數多ノ小領地ニ分レ殆ンド相敵視シツヽ三百年間武斷政治ノ下ニ生息セル我鄉里ノ士人ハ知ラズ知ラズノ間因習ニ陶溶セラレ天空海濶ノ大度量茲ニ去リテ管見狐疑ノ小局促逐ニ其胸裏ニ蟠マルニ至ルノ傾アリシナラン、然レドモコレ既往ノ事ナリ。見ズヤ在京ノ靑年ハ一致、力ヲ協セテ邨山會ナルモノヲ組成シ甘年前相疑ヒシ陋念ヲ棄テヽ屢々一堂ニ相會シ雍々ノ氣象常ニ春風ノ薰ズルガ如キヲ。又見ズヤ鄉里ニ於テ久シク相敵視シタリシ羽陽同盟會、山形義會ノ二社交的團体モ已ニ混成シテ一丸トナリ公共ノ弊實ヲ發見スル毎ニ舊前シテ之ヲ破碎スルニ躊躇セザルコトヲ。何物ノ愚物ゾ、數年以來吾鄉里人心ノ上ニ起レル一大革新ヲ認識シ得ザル

噫、此美ナル人情、此佳ナル風景、此豐腴ナル地質、此中ヲ得タル氣候、此大貧者ナキ美事。我帝國ノ極北ニ位スル余輩ノ鄉里ハ實ニ此五長ヲ有セリ。然ルニ今ニ於テ獨リ日本帝國ノ一雄區タル能ハザルノミナラズ山形縣內ニ於テダモ鷄口ノ地位ヲ占ムル能ハザルガ如キ陋觀アルハ是レ果シテ何等ノ現象ゾヤ咄々怪事

現實ノ世界ヲ離レテ空華夢幻ノ境ニ理想ノ天地ヲ求ムル禪哲者流ハ余輩ヲ以テ俗物ナリト訾ラバ訾レ、余輩ハ鄉里ニ向ヒテ一種微妙ノ感情ヲ抱クモノナリ、故鄉ニ關シテ一吉事アル毎ニ秘密ナル愉情胸中ニ橫ハリ一凶事アル毎ニ說破スベカラザル不快腦裡ニ浮ブ、鮮魚ノ鄉里ニ少キヲ誚ルモノアレバ鮮魚ハ中毒ノ恐レアリト主張シ言語ノ格ニ入ラザルヲ嘲ルモノアレバ是レ質朴剛毅ノ明徵ニ非ズヤト反駁シ、稻兒（イナゴ）ハ日本一ノ美味アリト誇リ熨斗（ノシ）梅ハ歐洲ニモ無キ最上ノ好菓ト稱ス、目ヲ瞑シテ深ク思ヘバソノ自ラ笑フニ堪ヘタルヲ悟ルト雖モ事ニ當リ物ニ觸ルヽノ實際ニ於テハ此等ノ感情油然トシテ禦クベカラズ、古ヘノ諺ニ「狐ノ死スルヤ故丘ニ首ス」トアリシヤニ

覺フ、余輩ハ動物進化論ヲ以テ科學上ノ定說ナリトハ信ゼズト雖ドモ余輩ノ故鄕ニ對スル感情ノ如キハ動物ヨリ遺傳セルニ非ザルカノ感ナキ能ハズ、何ヲ隱サウ余輩ハ故鄕ニ對シテ贔負眼ヲ有スルモノナリ

是ヲ以テ余輩ハ故鄕ノ現象ヲ觀察シ今日衰態ノ由リテ來ル所ヲ極知セント欲スル每ニ未ダ嘗テ心ヲ沈メテ深ク考ヘ博ク問ヒテ公ニ判スルノ必要ヲ感ゼズンバアラズ、余輩ハ幾度カ沉思セリ、而シテ今ヤ少シク鄕里今日ノ如キ不振ヽ陋觀アル眞因ヲ發見セルモノヽ如シ、請フ試ミニ聊カ之ヲ說カン

夫レ一國家ヲ組成スルノ要素ノ多々アルハ何ゾ啻ニ一人体ヲ組成スル器官ノ比ナランヤ、玆ニ一個ノ好健兒アリ身長闊羽ヲ凌キ膂力張飛ヲ駕キ血色朱丹ノ如ク湯氣沸々ト立昇リ眼光電火ニ似テ熱線裂シク人ヲ射ルモ總明敏智ナル精神ノ其頭腦ニ儼存シテ身体各部ヲ統轄スルニ非ンバ唯是一個ノ盛血囊ノミ一個ノ飯袋子ノミ、王朝時代ノ雲客月卿モ之ニ倣スベク輭骨無腸ノ金衣公子モ之ヲ蹴飛スベシ、一ノ國家ニ於ケルモ亦然リ、財寶國中ニ充塡シ兵艦海岸ヲ掩フニ足リ工場ノ烟ハ富士ノ白雪ヲ黑抹スベク內國ノ風光ハ外客ノ俗眼ヲ仙了スルニ足レリトスルモ國家ヲ組成スル各要素則チ政事、農工商業、軍事、學術等ニ各種ノ好人物アリテ其主腦トナリ精神トナリ以テ各部ヲ總理スルニ非ンバ恰モ人体ニ精神ノ宿ラザルト一般ニシテ國際場理恰好ノ地位ヲ占ムル能ハザルノミナラズ內憂外患ナキモ其滅亡センコト旦夕ノ間ニアラントス、今夫レ一ノ地方ヲ把來リテ其自治的ノ性質ヲ有スル点ヨリ觀察スレバ是レ儼然タル一個ノ小國家ナリ。假令ヒ天賦ノ幸福如何ニ多キモ假令ヒ如何ナル美俗ヲ存スルモ先進人物ノ輩出スルアリテ提撕警醒スルヿナクンバ未來永劫一雄區ナリト稱ヘラレンコトアルベカラズ是レ理ノ常少シモ怪ムニ足ルモノ無シ

今我鄕ハ實ニ貴重ナル前述ノ五長ヲ具備セルニモ關セズ帝國內萬般ノ現象ニ於テ未ダ嘗テ一頭地ヲ出シ光燄ヲ吐ク能ハザリシハ其レ或ハ此五長ヲ圓滿ニ利用スルニ堪フル大人物ノ他地方ニ比シテ幾分カ少キ所アルニ起因セルニハ非ルカ。」心理學大家ヘボン氏曰ク「眞個ノ大人タラント欲セバ明カニ自己ノ短所ヲ認識セザルベカラズ」ト、余輩ハ鄕里ノ短所ヲ認識スルニ於テ中心眞ニ情ヲ爲シ難キモノアリト雖モ余輩モ亦平素深ク鄕里ヲ愛シ同志ノ諸君子ト相携ヘテ之ヲ振起セント欲シ且ツ鄕里振起ノ一事タル帝國一般ノ光榮利益ヨリ言フモ極メテ賞贊スベキ美事タルヲ固信スル一人タルヲ以テ玆ニ明カニ我鄕里ノ欠点短所ヲ認識シ、他地方ニ比シテ我鄕里人物ノ幾分ガ少キノ事實ヲ明言セザルベカラズ

然ラハ則チ之ヲ爲ス如何、之ヲ爲ス如何人物養成ナル哉、人物養成ナル哉、濟々タル多士、我鄕ノ五長ヲ利用セバ我鄕里ヲシテ我帝國ノ一大雄區タラシムルニ於テ何カ有ラン、貞任、木强ノ一匹夫ニ過ギザリシモ尙能ク烏合ノ兵ヲ卒ヰ奧羽ノ野ニ轉戰シ、義光、小侯ヨリ身ヲ起シテ山形ヲ以テ奧羽ノ大都ト爲シ衡ヲ中原ニ爭ヘリ。月山ノ峯ハ依然トシテ高キニ非ズヤ、最上ノ流ハ長ヘニ淸キニ非ズヤ、然ルニ貞任ノ偉膽安クニカ在ル

義光ノ雄圖尋ヌルニ處ナシ。書キ出ヅルダニ感概ノ種。語ヲ寄ス、世上幾多義俠ノ士君子ヨ、鄕里振起ハ帝國一般ノ幸榮ト一致シ、余輩先天ノ感性ニ合シ、天地ニ俯仰シテ愧ツル所ナキ盛業ニシテ人物養成ハ我鄕里ヲ振起スル最良方便ナリ。蓋ヅ御身ノ力ヲ假サヾル、余御身ノ腕トナラン、蓋ヅ御身ノ卓見ヲ假サヾル、予御身ノ通辭タラン。願クハ我鄕里ヲシテモンテスキウノ唱出セル大原則ニ對スル一大例外タラシムル勿レ、」

（了結）

赦……赦……。讀者諸君子ハ必ズ予ノ不敏ナルヲモ顧ミズ時ニ文筆ニ從フヲ怪マルヽナラン、眞ニ然リ眞ニ然リ、高恕ヲ請フノ外ナシ、」殊ニ今回ノ如キハ試課多忙ノ時ニ加フルニ原稿調製

期日ノ切迫セルヲ以テ立案者ノ細閲斧正ヲ俟ツノ暇ナク倉皇剞劂ニ付スルノ已ムベカラザルニ至レリ。立案者ノ大意ダケハ自ラ發揮シ得タリト信ズト雖モ文筆ノ責ニ至リテ余ノ飽クマデ任セント欲スル所ナリ、讀者諸君子幸ニ之ヲ了セヨ。十二月十九日午後四時於法科大學圖書館樓上峰一郎シルス

本篇所々ニ点ヲ附シテ注意ヲ喚起シタル者有ルハ編者ノ作爲ニ出テタルニアラス編者ハ總テ寄稿ノ儘ヲ謄載スルヲ勉メタリ以下旃レニ倣フ觀官之ヲ諒セヨ

編者識ス

偶感一則

名譽會員　佐藤里治君　立案
通常會員　安達峰一郎君　執筆

誰レカ云フ「邯山人ハ因循ニシテ卑屈ナリ、猫頭大ノ天地ニ楯籠リ目前ノ苟安ヲ偷ムノミ。未來永劫、帝國ノ大演劇場ニ顔出シスルノ期アル可ラズ」ト。見ズヤ我鄉里ノ少壯有爲ノ青年ニシテ遠大ナル目的ヲ抱キ精爽ナル氣力ヲ勵マシ、慈親ノ膝下ヲ辞シ故鄉ノ山河ヲ後ニシテ笈ヲ東都ニ負フモノ次第ニ增加スルノ現象アルヲ、余ハ敢テ誇張的文學ノ言詞ヲ假テ一雨毎ニ增加ストハ高言セザルベシ然レドモ試ミニ或ル一年秋初ニ於ケル在京邯山青年ノ數ヲ把リ來リテ之ヲ前年秋初ノ數ト比照セバ毎年著シク增加セルノ跡ハ顯然トメ掩フベカラザルニ非ズヤ。

此等一人ノ青年其志ヲ達セバ是レ鄉里一振起スルナリ、十人ノ青年其志ヲ達セバ是レ鄉里十振起スルナリ、百振千起、我鄉里ガ遂ニ帝國ノ一雄區タルノ光榮ヲ享クルニ至ラムコト是レ豈ニ天下至明ノ通理ニ非ズヤ

青年諸士ノ自ラ振興スルト否トハ實ニ我鄉里ノ盛衰ニ關シ、我鄉里ノ盛衰ハ延イテ帝國ノ運命ニ關スルコト鮮少ニ非ズ。諸士ニシテ徒ラニ都下ノ惡空氣ニ心神ヲ腐爛セシメ奮ヒテ自ラ振興スルコトナクンバ假令ヒ在鄉ノ父兄千辛万苦シテ百般ノ實業ヲ興ストモ其理事者指揮役トナリテ其實權ヲ握ルモノハ皆他鄉人タルニ至リ邯山郡ハ邯山郡ナル資格ニ於テ全ク其面目ヲ汚損シ日本帝國ノ爲ニハ自治制ノ實効ヲ見ル能ハザルノ悲ミアルニ至ラントス、昔シ佐久間象山ハ「我身二十ニシテ國家ニ關繫スルヲ知ル」トイヘルガ如ク諸士ハ年齒未ダ三十ナラザルニ已ニ其身ハ鄉里ノ盛衰ニ關シ帝國ノ運命ニ係リ其成否ハ余輩ヲシテ或ハ雀躍セシムルニ足リ或ハ失望ノ深淵ニ沈マシムル足ル、青年諸士ノ責任タル願フニ亦大ナラズヤ。之ヲ思ヒ之ヲ思ハヾ彼ノ滿都ニ横ハリ紛然雜然トシテ諸士ヲ惑ハシ、陷レ、欺キ、騙シ、諸士ノ損害ニ於テ衣食逸樂セントスル所ノ無數ノ誘惑物ノ如キハ何ゾ諸士ノ心ヲ動カスニ足ランヤ、何ゾ諸士ノ志業ヲ中折セシムルニ足ランヤ。

青年諸士ガ皆能ク自己ノ責務ヲ覺知シ勇邁奮前、敢テ少シモ退クコト無キハ余ノ切ニ欽羨ニ堪ヘザル所ナリ、諸士ノ志氣潔爽ニシテ理想トスル所ノ甚ダ高尚ニシテ常ニ鄉里ノ開拓者ヲ以テ自ラ期シ、改革者ヲ以テ自ラ任ズルハ我鄉里ノ後來ノ爲メ又我帝國ノ進歩ノ爲メニ大白ヲ擧ゲテ喜ヲ表セント欲スル所ナリ、然レドモ何人ノ言ヒ出セルニヤ、「當世ノ教育ハ虛飾ニ流ルヽコトナキカ、近來多少ノ學業ヲ修メ歸鄉セラルヽ諸士中志望ノ高尚ナルハ吾人ヲシテ同感ヲ表セシムルニ足ルモ地方ノ實況ハ無頓着ニシテ且ツ卑近ノ事業ヲ厭フガ爲メ唯袖手坐食スルノミニテ遂ニ地方ハ自己ノ技倆ヲ施スノ地ニ非ズト浩嘆セラルヽ方モアルガ如シ」トイフ事ハ幾度トモナク余輩ノ耳朶ニ響ケルガ如シ、余ハ此一事ニ對シ辨解スルノ太ダ難キニ苦シム。蓋シ人類ハ境遇ノ奴隷ナリトマデ冷評セラレシ動物ナレバ俊秀拔群ナル青年諸士ノ中ニモ多年讀書推理ニ從事セルノ結果トシテ理想界ニ進入スルコト甚ダシキニ過ギ、理ニ於テ應ニカクアルベキ事ヲバ現實ニ

カクアルモノト思ヒ誤リ紛々擾々ノ亂雜世界ニ處スルニ理義一片ノ單刀直入的手段ヲ以テセントシ、事ト心ト違ヒ、遂ニ世ヲ罵リ所ヲ尤ムルニ至ルモノ必ズ無シトハ斷言スベカラズ、是レ獨リ諸士ノ不幸タルノミナラズ實ニ國家ニ取リテ大ナル損害ナリト謂ハザルベカラズ。境遇異ニシテ職業同ジカラズトモ皆是レ身ヲ立テ國ニ報ヰル所以ナルヲ思ハヾ何ゾ互ニ相抵排スルヲ須ヰン、學者ハ徒ラニ理想空華ノ境ニ聘思スルコトナク實業家ヨリ現實世界ノ情況ヲ聞キ、實業家ハ唯ニ有形具体ノ末ニノミ拘泥スルコトナク理想圓滿ノ域ノ如何ナルヤヲ學者ニ質シ。學業ヲ卒ヘ始メテ現實世界ニ入ルモノハ自己ノ尙ホ現實世界ニ於テハ無知ノ小兒タルヲ顧ミ先進實際家ノ無學ナルヲ見テモ之ヲ侮ルコトナク、又實際家ガ學事ニ關スルトキハ已レノ位地ノ高キニ誇ルコトナク常ニ已レガ理想界ノ小兒タルヲ省ミ禮ヲ執ルコト極メテ恭シカルベシ。カクアリテコソ一鄕モ茲ニ振ヒ一國モ茲ニ起ルベケレ。誰カ云フ「地方ハ自己ノ技倆ヲ表ハスノ地ニ非ズ」ト、爲スベキノ事業、除クベキノ弊害、首ヲ并ベテ諸士ノ前ニ陳列セルニ非ズヤ。語ニ曰ク「泰山ハ土壤ヲ壤ラズ故ニ高ク、黃河ハ細流ヲ擇バズ故ニ大ナリ」ト、事ニ本末アリ物ニ順序アリ、卑近ノ事業ヲ厭フノ諸士希クハ猛省スル所アレ一身ノ國家ニ關スルヲ知リ、數多誘惑物ヲ足下ニ蹴散ラシ、理想現實ノ兩界決シテ一方ニ偏スベカラザルヲ覺リ、卑近ノ事業モ大業ノ基ニシテ古豪傑ダモ皆快ク之レニ從事セルヲ思ハヾ我鄕里青年諸士ノ前途モ亦甚ダ多望ナリト謂ハザルベカラズ

曩ニ一書ヲ裁シテ名譽會員佐藤里治君ニ請フニ邨山會ノ爲ニ一文ヲ惠與セラレムコトヲ以テセルニ君ハ公私事務ニ忙殺セラルヽノ身ナルニモ關セズ其意見ノ大綱ヲ書綴ラレ余ニ書ヲ與ヘテ之ヲ敷衍スベキ旨ヲ托セラル、余固ヨリ文筆ノ技ニ拙ク加フルニ學期試驗ノ最中、原稿調製ノ期限一日ヲダニ餘サズ、里治君ノ厚意ニ背クコト多シト雖ドモ稿ヲ起スノ暇ナク回ラヌ筆ヲ叱シテ乾燥無味ノ文字凡ソ二千有餘ヲ列記スルノ已ムヲ得ザルコトトハナリヌ、里治君ノ感想ヲ表出スルニ於テ或ハ過キ或ハ及ベズシテ其眞意ヲ發揮セザル所モ決シテ少カラザルベシ。此文若シ讀者諸君ノ意ニ滿タザル所アラバ偏ヘニ是レ執筆者ノ罪ナリ、此文ニ關スル毀譽褒貶ハ總テ執筆者ノ甘受セント欲スル所ナリ

十二月十七日夜於羽陽館樓上　蜂一郎シルス

自家心事自家知

安達峯一郎君稿

偶々案頭ノ「文學評論」(Revue littéraire)ヲ繙ケルニ佛國文學者ブリッソン氏ガ頃日ボルドー府ノ近郊ナルブルーヂノ古城(碩儒孟德斯鳩(モンテスキウ)ノ住邸)ヲ訪フノ記ヲ載ス。行文輕妙ニシテ趣味雋高、以テ全日ノ苦學ヲ慰スルニ足レリ、殊ニツノ孟氏ノ居室ニ入リ孟氏ノ書机ニ對シ孟氏ノ椅子ニ靠リ孟氏ノ愛筆ヲ執リテ俯仰感概スルノ一段ニ至リテハ筆飛ビ墨舞ヒ余ヲシテ覺エス神思恍惚トシテ孟氏ノ丰采ヲ想見シ轉タ景仰ノ情ニ堪フルコト能ハザラシメタリ。」噫絕代ノ偉人、文苑ノ天使、比較法理學ノ祖、德義ノ代表者タル我孟德斯鳩。君ハ人ト爲リ、沈厚周詳ニシテ好ミテ事物ノ理ヲ觀察シ必ズ其本柑ニ透徹セズンバ已マズ其文辭ハ簡潔ニシテ人ヲシテ咀嚼シテ餘味アラシメ其行事ハ純高ニシテ萬世ノ師表ト爲スニ足レリ、殊ニ其著書「萬法精理」ニ至リテハ眞ニ政治世界ノ破天荒ニシテ佛國ノ自由旨義依リテ以テ立チ北米ノ大共和國依リテ以テ成レリ。其德其功、是レ豈ニ文筆ノ能ク頌贊シ得ル所ナランヤ。」余ハ他年歐州ニ遊バン時ハ、必ズ其墓ヲ祭リ其城ニ到リ其子孫ヲ訪ヒテ絕東ノ帝國尙ホ其知己ニ乏シカラザルヲ告ゲントス。

今、茲ニ孟氏ガ自ラ書記ヲシテ筆記セシメタル自家ノ性格ヲ譯出シ聊カ敬慕ノ意ヲ寓ス。若シ夫レ原文ノ玉ノ如ク譯文ノ泥ニ似タルニ至リテハ偏ヘニ讀者ノ高恕ヲ仰カンノミ

十一月廿九日夜羽陽館樓上ニ於テ峰一郎識ス

希臘ノ古詩人歌ヒテ曰ク　自家心事自家知ト。余ノ今自ラ書記ヲシテ余ノ心事ヲ叙述セシメ之ヲ後世子孫ニ貽サント欲スル豈夫レ偶然ナランヤ

余ノ交際世界ニ在リシヤ太ダ之レヲ愛シ退隱シテ著作ニ從事センコトナドハ嘗テ思ヒニダモ寄ラザリシガ一タビブレド城ニ退ケル後ハ其清閑ニシテ凝思ニ適スルヲ喜ビ交際場裡ノ事ハ夢ニダモ思ハザルニ至リヌ。現在ノ境遇ニ滿足スル余ノ如キハ眞個ニ幸福ナル天民ナル哉

余ハ始メ當世ノ貴族タルモノニ向ヒテ兒童的ノ恐怖ヲ抱キタリシガ一タビ彼等ト相知ルニ及ベルヤ直チニ之ヲ輕蔑スルノ念ヲ生ジヌ

余ノ最モ賤ムモノハ輕小才子ト奸大才子ト是ナリ

余ノ性偏中最モ多ク余ヲ害セシモノハ余ノ尊敬セザルモノヲ輕蔑スルノ一事ナリ

余大人ヲ見レバ其性質ヲ分析觀察スルコトナシ。凡人ヲ見ル毎ニ其性質ヲ分解シテ其好所ヲ發見シ之ヲ助成セント欲スル念事ニ切ナリ

余ハ自身ニテ做シ得ル事ハ何ナリトモ自ラ之ヲ爲スヲ以テ主義トセリ。余ガ多少ノ財産ヲ儲蓄シ得タルハ皆此主義ノ賜ニシテ中庸ト質素トハコレ我立命安心ノ地盤ナリキ

俗世界生存上ヨリ來レル不快ヲ醫スル最良ノ藥劑ハ實ニ讀書ノ一事ナリキ。余トイヘドモ毫モ憂愁ニ沈ミシコト無キニハ非ズサレド書ニ對スルコト僅カニ一時間ニ及ベバ未ダ曾テ鄙吝ノ念頓ニ消シテ心胸濶然タラズンバアラズ

余ハ太陽ノ光明ヲ見ル毎ニ神魂飛揚スルノ感アリ。余ノ

毎朝寢ヲ出ツルヤ一種微妙ニシテ言フベカラザル怡情アリテ襟懷ノ間ヲ往來スルモノヽ如シ

余ハ總明敏智ノ人ト交ハルヲ以テ樂トナスハ固ヨリ言フマデモナケレドモ亦凡庸暗愚ノ人ト交ハルヲモ一種ノ快樂トセリ

於戲、福ナルカナ余ノ運命、余ハ生來未ダ曾テ憂愁ニ沈ミシコト無シ況ンヤ失望落膽ノ逆境ニ於テヲヤ

余ノ稟性ハ激ニ失スルコトナク又弱ニ陷ルコトナシ　余ノ情感ハ恰モ外圍ノ萬象ニ刺戟セラレテ愉快ヲ覺フルニ適スレドモ之ガ爲ニ苦痛ヲ亨クルマデニハ鋭ナラズ

余ノ少年タリシ時ハ余ノ心ヨリシテ余ヲ愛スト信ゼル幾多ノ女流ト相遊ブヲ以テ頗ル快トシケルガ之ヲ信ゼザルニ至レルヤ直ニ之ト交ヲ絶チヌ

余ハ女流ニ向ヒテ「タワイ」モナキ雜談ヲ言ヒカクルヲ以テ一種ノ樂ト爲シ又少シモ骨ノ折レザル親切ヲ爲スヲモ喜ベリ

余ハ生レナガラニシテ本國ノ幸福名譽ヲ愛スルノ情アリト雖モ其功名赫灼タルヲ喜ブノ念ニ至リテハ未ダ曾テ之ヲ抱カズ

余ノ諸外國ヲ巡遊セルヤ之ヲ愛スルコト本國ノ如ク心ヨリシテ何レノ國民モ皆ナ康福ノ境遇ニ在ラムコトヲ祈レリ

余ノ交遊セル所太ダ多ク屢々世人ノ暗愚ナリト冷評スル群中ニモ才智ノ人尠カラザルヲ發見セリ

余ノ一タビ他人ヲ信ズルヤ秋毫モ己レヲ隱スコトナレサレド余ノ信ズル眞友ハ極メテ少シ。ソクラチスガプラトート世ヲ同ウシタルヲ喜ビテ皇天ニ感謝セシ事思ヒ當レリ

余ハ心ヲ動カスコトナク涙ヲ見ルコトヲ得ズ

人アリ余ニ謂ヒテ　君ハ某氏ノ君ヲ評セル言ヲ知ル乎トイフ毎ニ余知ルヲ欲セズト答ヘタリ。人ノ告ゲントスル所虛ナラバ詐言ノ故ヲ以テ此人ヲ惡ムニ至ルベク若シ

眞ナラバ評者ニ對シ多少ノ鄙情ヲ抱カザルニ得サルニ至ラン

余ノ始メテ交際社會ニ入リシヤ人皆余ヲ以テ才智ノ人ト傳唱シ當世ノ縉紳名流モ余ヲ侍スルコト太ダ厚カリシガ其後余ガペルシヤ物語ヲ著ハシ盛名都鄙ニ籍々タルニ至リテハ交情忽チ變シ温乎タル謖辞モ悄乎タル冷語トナリヌ。噫奇ナルカナ人情ノ紆索世故ニ熟スルモノノミ唯之ヲ解スルヲ得ム

顧フニ余ハ怯懦ナリケリ　時トシテハ体機ノ作用頓ニ遲鈍トナリ舌頭ハ縛セラレタルガ如ク　思想ハ密雲ニ掩ハレタルガ如ク發音用語頗ル明瞭ヲ欠キ我ナガラ靦然ニ堪ヘザルアリキ　サレド才智ノ人ニ向ヒテハ此ノ如キコトナシ　ソハ此等ノ人ハ輙ク余ノ所思ヲ了解シ得ベシト信セルニ依レリ。曾テリュクサンブール王宮ノ宴ニ待セルニキンスキー公爵「佛國ノ貴賓ハ我國王ガ此ノ如キ陋宮ニ住ハセ玉フヲ見テ定メテ驚カレシナラム」トイヒケレバ余ハ「否トヨ、某ハ貴國人民ガ王宮ト太ダシキ相違ナキ家屋ニ住スルヲ見テ欽羨ニ堪ヘズ」ト對ヘニキ。曾テビエモンノ王廷ニ在リ、ビクトル王從容トシテ「御身ハ僧正モンテスキウノ姻戚ナリトカ。僧正ハ曾テ朕ト相見シコトアリキ」ト宣ハセケルユヱ余ハ「然リ陛下、陛下ハ羅馬ノ大セザルノ如ク一謁ヲ賜ヒシモノヽ名ヲ忘レ給ハズ」ト對ヘ奉リヌ。曾テ英京リチモンド公ノ夜會ニ招カル。我公使館書記官ボアヌ氏ハ幾度トモナク全英國ハ佛朗西ノギユエンヌ州ヨリモ小ナリト繰返シケル故　荒誕者奴ト叱責シケレバ女王ハ「朕ハ鄉ガ殊勝ニモ我王國ヲ辨護セルヲ嬉シク思フ」ト御詞アリケリ其時余ハ「陛下ヨ、外臣ハ爭デカ陛下ノ治メス邦國ノ大國ニ非ズト想像シ得ベキヤ」ト答ヘ奉リヌ

余ハ性來太ダ著書ヲ好メドモ終ヘテ後之ニ對スル毎ニ慚愧ノ念胸裡ニ蟠然タラズンバアラズ。何等ノ奇病

余ハ膝ヲ屈シテ財産ヲ增スヲ好マズ。唯所有地ヲ耕シテ之ヲ直チニ天帝ノ手ヨリ領受セント欲ス。人アリ曾テ余ニ告ケテ曰ク「政府余ニ養老年金ヲ與ヘント欲ス」ト、余ハ「未ダ曾テ人ニ屈セシコトナキニ由リカヽル恩典ニ預ルノ理ナシ」トイヘリ

疑モナク余ハ一個ノ眞民ナリ　何レノ國ニ生レタランモ想フニ應ニ然リシナルベシ、余ハ常ニ現位ニ滿足シ現有ノ財産ニ滿足シ現存ノ政府ヲ變シ殊ニ上天ガ余ニ賦與スルニ余ノ平凡ナル才智ニ相應シキ中庸ノ志望ヲ以テセルニ至リテハ幾度カ感謝ノ涙ヲ灑ケリ

余ヲシテ我畢生ノ心血ヲ注キタル「萬法精理」ノ將來ヲトハシメバ多數ノ人ニ愛讀セラレザルベキモ必ズ多數ノ人ニ首肯セラルベシ。余ハ決シテ人ヲ喜バシメンガ爲ニ書ヲ作ラズ心窃カニ眞理ノ發揮者タルヲ期セリ。

ヤヽ余ノ鍾愛スル萬法精理！余ハ汝ノ衣樣ヲ新タニシ汝ノ欠點ヲ補ハント欲スレドモ余ハ多年讀書ノ毒ヲ受ケテ今ヤ將ニ全ク明ヲ失ハントス、今余ノ腦中ニ存スル幾多ノ光明ハ遂ニ後世ニ貽ス能ハザルカ　噫此光明コソコレ眞ニ余ノ永眠ノ友ナルカナ

（完結）

佛教論理解釋

大塲茂馬君

國史昭々忠武傳、倭魂未穢二千年鍾斯偉績男兒事、病臥捻毫寫此篇　一音にて數字義あり一音一字にて數多の音味あり「ゼン」と一音を發すれは聞くもの善、漸、膳、前等の數多の字義を解すべし又善なる一音一字を示すも道德上の善なるや法律上の善なるや宗教上の善なるや理論上の善なるや實際上の善なるや如何を知る能はざるへし況んや此等の一音多義一字數意の曖昧模糊なる音聲文字合して一談一話一文一章を爲す解釋なるもの無くんばいかでか正當なる意義を得るを得んや」

一自稱壯士あり一老翁の門を叩き暫時談論の末老翁壯士に向て曰く子の言は所謂世間知らずの暴言なり少しく世間を見て而して來れと坐を去れり時ま自稱壯士憤然獨語

して曰く咄老翁我を目するに世間知らずの痴漢とせりいざ高處より登り世間を見ばやと直に車を淺草富士に馳せ大枚四錢を投じ望遠鏡を以て四方八方を打眺め其心蓋し我こそ全世界三大都の一なる東京全市を眼界に置けり何ぞ世間知らずの譏を受くるあらんと心に誇り歸りて後ち復び老翁を訪ふて曰く翁嚮きより余か言を以て世間知らずの暴言とせり余は既に東京全市の光景を眼界に置けりと言んとするや否や老翁啞然大笑して坐を去らんとす壯士艶然として曰く翁何ぞ我を嘲弄するの甚しきやと老翁益笑ふ壯士怒て其説を求む老翁義に依て語に依る勿れ（按するに釋迦の遺言）と簡短なる言を發して去れり壯士暫時默頭きて赭面大に悟る所あり悄々として家に歸れり、

げに高處に登り世間を眺れば其にて世間と見知りたりと言ふへけれとも世間知らずとは世間の人情知らずとの義なり此等の自稱壯士の一類世に多し之と名けて輕忽子又は迂狂先生といふ

又過日或る新聞紙上の雜報欄内に一滴の涙重さ千斤と題せり身は華奢なる洋服を裝ひ洋品を以て外貌を粉飾し非常に見識ぶる自稱紳士あり其姿容極めて醜惡なるも黒髮黒眸明に本邦人たる如しされど其實其精神は紫髯奴の御雇壯士にあらずんば綠眼奴の歸化臣妾なり此題を一瞥して曰く一滴の涙の重さ千斤ある謂なし是れ日本人は支那人と同しく東洋人なれば針小の事を棒大に述べ能く世人を欺くと言ひつゝ看過せり余傍にあり憤然其新聞を手に取り其題下を讀下せば（大意拔書）日月天皇陛下某處に行幸せられんとするに際し憲兵巡査は其道路を警備せり其時道理なき八九歳の童子其路を横切らんとせり巡査は之を差止め大に叱したり童子は大に畏れ戰栗しつゝ其命に服順せり然に赤髯奴の馬車を驅り其道を横斷し去るを見て思はず涙數行下りふるへつゝ巡査に問て曰く西洋人は何故に御叱りなきやと余讀て此に至り忽ち憤然忽ち潸然讀む能はず又余と同感なる四千万同胞は之を聞て或は落涙せ

ん然らば一滴の涙重さ千斤豈虚ならんや此等の妄は我を賤み彼を貴ひ妄は我を侮り彼を敬する紫髯奴の自雇壯士綠眼奴の歸化臣妾の一類は異學異數の我國に侵入せる今日に當りては不祥ながらも或は稀ならざるへし余此輩を名けて西洋心醉漢或は日本に生れたる外國人の奴隷といふ

又一僧あり急用ありて羇旅の途にあり小僧に謂て曰く急ぎ道なれは餘計なることを爲さずして疾く歩むべしと小僧其命に從ひ行く暫くにして僧は心匆々なれば知らず〳〵其携ふる處の物品を遺失せり小僧は其現況を知りつゝ拾はず其後僧より問はるゝに際し答て曰く師先きに餘計なることを爲さずして歩むべしと命せられたるを以て拾はず來れりと僧大に怒り後より來り余が後に落ちたるものありたるときは何物なりとも必ず拾ふへしと嚴命せり其後僧は馬に騎して途を急げり其途中馬は糞を放れり小僧直に師の傘を開き其糞を拾ひ受けたり其後雨降り僧の傘を求むるに際し小僧師に答へて曰く師先きに後に落ちたるものは何なりとも必ず拾ふへしと嚴命ありたるを以て止むを得ず傘を開き之を拾ひ受けたりと

嗚呼解釋なる哉解釋なる哉人性相近く生來賢不肖の別甚だ稀なるに關せず忽にして言語に絶する阿呆小僧となり忽にして言ふも忌々しき西洋沈醉漢となり赤髯奴の隷屬となり忽にして笑ふへく憐むへき輕忽子迂狂先生となる一に解釋の如何に依らずんばあらず解釋豈輕忽に附すへけんや

解釋の方法に種々ありと雖ども大別して二と爲す其一は文理解釋にして其字義顯然たる如く文法上其文章の意味を解釋するものにして其他一切の事柄を附會せさるものにして俗に字義通の解釋とは即ち是なり此解釋は通常法律文書の如き嚴正にして文飾なき文書を解釋する爲に用ひ其他一般の場合に用るときは不測の笑を招くとなしとせず其二は論理解釋にして獨り文法上其意味を解釋する

に止らす論理上時と場合とを考察し論理に契合する解釋を求むるを以て專とす故に時々論理解釋と相背馳するなしとせず而て此解釋は種々の場合に用ゆるものなれとも殊に佛教には四依不四依といふことありて其一に曰く義に依て語に依らすとありされば佛教は轍頭徹尾文理解釋を排して論理解釋を採用すべきを知るべきなり

世は廣く人は多し一見一聞人をして嘔吐せしむへき輕卒漢迂狂先生西洋沈醉赤髯奴の隷屬阿呆小僧の一類は世間甚だ少からず世の佛教を批評するもの或は偶像教とはやし立て或は多神教と罵り畏怖の宗教と嘲けり甚しきは消極的の宗教とし遁世的の宗教とし構造の宗教として排斥するもの七千餘卷の經典を繙き八萬四千の經典を咀嚼せざるも之か一班を窺知りたるものなるや余は此等の批評者を指して輕忽子迂狂先生西洋沈漢赤髯奴の隷屬阿呆小僧の亜流なりと斷言するを憚らざるなり

夫れ佛教の教義は玄妙幽深なるに係らす其對手として濟度すへき衆生は多くは愚夫愚婦ゝあらすんは凡夫なり此故に時々哲理を含畜せる比喩謎話等を以て教義を談ずるあり論理に鋭敏なる秀才者は之を聞て論理解釋を下し哲理を發見し迷を轉じ悟を開き以て佛道ゝ悟入するの資料を得べきも論理に暗鈍なる下根者即ち愚夫愚婦は之を聞て玄理を發見する能はざるも之を信じて排惡治善の道を得て一身一家を修むるを得即ち一舉両全否一舉両益の方策なり然れとも迂狂先生西洋心醉漢阿呆小僧の一類は何れの利をも得す却て之を誹謗するは如何なる迂夫か狂夫かは知らざれども世界中笑ふへく憐むへきは此輩なり

余は左に演説に擬して一話を擧げ佛教解釋の方針を示さんとす

昔時天竺に千人の兒を有する一婦人あり一千の兒を寵愛すること掌中の玉の如く一人として疎からさりき而して其子の形狀は異類異形逐一名狀に堪へすと雖ども其大畧を擧れは爪牙猛獸の如く能く物を嚙攫し毛髮毒蟲の如く能く物を刺し眼光烱々蛇蝎の如し口腮は嚙々虎狼の如し或は身の長大を現すと奈良の大佛の如くかと思へば忽に矮短を示すと淺草の觀世音の如し或は八頭を働かし四足を動かし忽にして二三の口を用ひ忽にして數十の手腕を使ひ活潑暴戾到らさるなく殊ゝ神通自在を得て天に翔け地に潛り隱顯出沒奇々怪々となり而して母子の所業如何と聞ふ常ゝに他人の愛子を取り食ふを以て專業となす故に其母一度號令を下せば千人の群兒は晝となく夜となく四方八方に散乱し縱横無盡ゝ踊廻り百方無量の幻術を逞ふし隱顯縹渺の惡策を施し或は鐵壁石室を破り豪家最愛の一子を掠め或は鰥寡孤獨の窮廬を侵して浮兒の精血を吸ひ或は路頭に戲むる孩提弱の弱腕を捻切り或は田野に苦役する幼稚を嚙殺し苟も人の子と見れは餘さす殘さす取り食て已れの腹を肥さんとしけり（以下畧之）夫れ手、物を盜み口、人を欺き獄中に繫かるゝ囚徒のみ惡人といふ司らす居を風光明媚の地に卜し美味を食ひ高宮に安臥して何不足なき貴紳にして或は賄賂と貪り或は豪商に私し或は他人の娘子を驅て已れの狂情と恣にし或は法網を潛り不法の利滋を一攫せんとするもの亦鬼子母神せさるを得さるなり云々（以下畧之）

批評者甲あり前演説を聞くや否やから〳〵打笑ひ鬼子母神の如き怪物は道理上あり得可からさるものなるに關せす佛教者は慚色なく眞面目に談すること笑止なれ世上又佛教の如く虛誕を吐くもの其數稀なるへしと嗚呼早呑込ゝ早呑込も亦極たりといふへし古人曰惡て其美を知る少しと評者甲は如何に我國を嫌惡し如何に東洋を賤卑するやは知らざれとも日本の宗教の美を知らずして無實の醜点を塗り付けんとするは如何なる乱臣賊子ぞや如何なる敵國人ぞや然とも批評者甲夢我夢中に辨別せしものにて本心より出でたるものにあらされは恕すへく憐へき所あり故に余は輕忽子迂狂先生西洋沈醉漢赤髯奴の隷屬阿呆小僧の亜流といはんのみ

批評者乙あり曰く鬼子母神の談は一概に虚と爲す可らず進化説に依れば大古にありては人間すら未だ進化せず半猿半人の怪物たるを免れざれば鬼子母神の如き怪物も或はありたるやも知る可らずと此評者猥に我宗教を侮らず賤まず之を尊奉して百方辨護せんとするは愛國者なれとも惜ひ哉鬼子母神を以て怪物と爲すに至りては未だ一瑕なしといふ可らず

批評者丙あり案を打て歎賞して曰く是れ現今風俗壞敗の情態なり鬼子母神決して怪物にあらず明治昭代に於て見るを得べき一類の人間なりと寔是丙批評者こそ解釋の正鵠を得たるものにして論理に英敏なる秀才者なり余は丙批評者に代り簡短に説明を述ん

鬼子母神とは悪人を形容せし譬にて千人の子を有すとは數限りなき煩脳妖魔の野心を抱くことを比喩にて示せしなり異形異類にて神通自在とは夜叉の如き内心の外部に顯るゝや貪慾の術となり諂諛の策となり詐僞の秘訣となり奇々妙々巧に勝れたるに譬へたるなり又人の子を取り食ふとは人を倒し他を害して飽くまで自己一身を肥さんとするに譬へしなり尚一層精細に解明せれは爪牙猛獸の如く能く物を嚙攫し毛髪毒蟲の如く能く物を刺害すとは貪慾を加害の爪牙とし資産を有毒の毛髪とし處々の貧民窮家に最高利を以て金を貸付け苛酷無惨に責めはたり或は不良の手段を以て良民を陷害する等其觸るゝものとして皆害せられざるなき有樣に譬へたるなり又眼光烱々蚺蛇の如く口腮は嚼々虎狼の如しとは身は深宮にありと雖とも射利淫慾等の魔心の眷屬子分は千里の外を睥睨し人の内密を探り人の隱匿を偵ふて己れの狂慾を遂げ他人辛苦の血脂を絞り上げ飽くを知らざるに譬へたるなり又身の長大を現し形の短少を示すとは利に奔り名に死するの徒權威の貴紳に對するときは其鼻息を伺ひ巧言令色之に媚び之に諛ひ身を縮め恰も蛆蟲然たるも已より下位の者に對するときは全く反對にして氣儘氣隨の熱を吹き傍若無人の擧動を爲し其傲然たる比すへきものなきに譬へたるなり又八頭を働かし四足を動かし忽にして二三の口を用ひ忽にして數十の手腕を使ふ云々とは煩脳迷夢の頭は八ツ九ツに分れ貪慾の足は駟馬よりも疾く二枚三枚の舌を用ひ數多の手段を用ひ事實を詐り法理を私し法網を潛り暗々裡に他人の權利を妨げ他人に義務を欠き一攫千萬忽ちフロックコートを購ひ高帽を戴き胸に金側時計を閃かし足に佛蘭西製の靴を穿ち我こそ迷時新天地の紳士なり豪商なりと見識ぶる溌姿放逸の獰猛者流と意味するなり

寒月ニ對シテ感アリ

多田恒太郎君

孤月中天ニ懸リ清光輝々トシテ片翳ナク枯木ニ積メル六出ノ李花ヲ欺キテ点塵ヲ留メス夜深ク人定マリテ四顧寂寥遙カニ犬吠ノ聲ヲ聞クノミ俯仰清絶言フ可カラス是レハ此レ嚴冬雪後ノ月夜ナリ之ヲ陽春三月ノ紅塵ニ比スル其氣ヲ養ヒ情ヲ尙フスル果シテ如何ソヤ而メ未タ冬嶺ニ雪ヲ踏ミ寒江ニ氷ヲ碎キテ月ヲ賞セシモノアルヲ聞カス是レ寒暖時ヲ異ニスルニヨルカ抑モ月ノ清素ハ花ノ妖艶ニ如カサルニ因ルカ嗚呼人事亦斯ノ如シ行ノ清素心ノ高潔人見テ以テ諂諛阿諛ヨリ下レルト爲スモノ甚タ多ク人情ノ澆季實ニ驚クヘキモノアリ予寒月ニ對シ感慨ニ堪ヘサルナリ時ニ月色愈々清明破窓ヲ照シ予ヲシテ眠ルヿ能ハサラシム

隨筆

佐藤啓君

蒼穹を磨する秋鶻の如く以て歐州全土を睥睨したるヂスレリー氏黄泉の客となりし以來智謀膽畧世を空ふせしコルナアコッフ氏續て鬼籍に入り馬に上りて槊と横へ馬を下りて政を議したる俊邁男子獨眼龍ガンベッタ氏亦逝けり雄才大畧四海を負ふ所の大政治家は唯一鐵血率相ビスマーク公を剩すのみ其他西半球に於ては米にブレインあり東半球には英にソリスベリー　パーチルあり支那に李

鴻章あるわりと雖とも豈に此鐵血宰相の脚下にだも近づくを得べきものならんや

嗚呼歐州今日の外交の狀勢を省みよや悲哉各國相互に犄角の勢をなし更に尺寸だも戒心を怠る事あらざるなり驚露は永雪に其爪を磨し獅英は霜風に其牙を研き常に他國の間隙に乘じて呑噬の慾を逞ふせんとせり然るゝ此兩强國の間ゝ屹立して能く其權勢を挫き之れが慾を擅にせしめず以て歐州各國權力の平均を保たしめ骨岳血川の慘を演ぜしめざらしむるは實ゝ日耳曼國ゝして其采配を取るの士は即ちビスマーク公其人なりとす公は日國の全權を掌握し其一顰一笑は治亂のバルメートルとして歐州全土の注意を惹起せしめ又內地に在ては濟國安民の大偉業を奏し昔髭毛を蒙り腰に葦の帶を束ね蝗虫野蜜を食せしヨハネの猶太に於けるが如く恰も獨逸國の救世主と迄に尊崇せられ公の名を聞かば飛鳥も高く上りて遊魚も深く沈むか如き威勢を有す何ぞそれ斯の如く雄壯なるや

鐵血宰相の現時の威勢は實ゝ斯の如し然れとも遡りて三十有余年前の公の境遇を省みよや唯是れ雜駁粗野なる幽舍紳士たりしに過ぎざりしなり當時豈に現今の地位に上りて一世を睥睨するが如きの事は夢だに知了したるものならんや公かポヘミアより其家翁に寄せたるの案牘は實ゝ之れを確証するものなり

前略小生は書を讀み又退屈すれば煙草を吸ひ時ときは散歩をも試み又時としては鰻を食せん爲め之れ丞料理し又折々は狼狩りの遊びにも加はることと有之候夫より外は一日に一度づゝ橙子畑を見廻はり又一度は半小屋をも巡見せざるべからず又室內ゝ寒暖計四つ程据置たれば其昇降を檢する爲め一時間毎にこれを見廻り候斯の如く日々爲すべき仕事澤山に有之候故れ寺などへ參り候暇少も無之事と御推察可被下候（鉄血政略ヨリ抜載）

之れ當時のビスマークの境遇にして唯これ橙子畑の守番たりしに過ぎざるなり橙子畑を見廻はすの眼何んぞ俄に日耳曼帝國の相印を帶びて世界を睥睨するを思ふものならんや唯豪膽にして屈せず沈默にして騷がず能く境遇に應じ巧に機會に乘じたる爲め終に今日の如く日耳曼帝國の救世主と迄仰がれ其一顰一笑は歐洲治亂のバルメートルと迄介意せらるゝに至りたる所以なるのみ

抑も我國封建時代にありては人爲的を以て數等の階級を作り農は農たり工は工たり士は士たり商亦商たり數代を經るも尙ほ且つ然り乃公は乃公の祖先の爲に現在の地位に安んず汝は汝の父の如くなれとは殆んと神詫の如く信仰せられたりし左ればにや此等の習慣によりて有爲英邁の資を存するの少壯者も空しく墳墓の地ゝ窟居し祖先の業を株守するもの滔々として然り之れ豈に蛟龍雲を求めずして自ら池中に蟄し千里の駒空しく自ら櫪の中ゝ斃るゝものゝあらずして何んぞや

蘇峯子言ふ老人は過去を夢み青年、將來を夢むと實に然り生を覆載間ゝ受けたるの少壯者諸君ゝ世には決して生れながらの英雄なきなり王公將相寧ろ種あらんや諸君と余とは皆英雄なり豪傑なり諸君は能く其語を服膺せよ然して其未來ゝ於て決して又細君と對坐して小使帳を点檢するを終世の樂事として夢みる勿れ村閭の耕民に對し肩を怒らすを夢みる勿れ唯是れビスマークハ橙子畑の守り番たることを夢みよや（了結）

江之島鎌倉紀行

阪口周作君

維時明治二十二年十月二十五日慶應義塾秋期大遠足會ヲ江之島鎌倉地方ニ催サントノ告示一度出ツルヤ予輩欣躍一モ二モナク同意ヲ表シ當日ニ至テ寢ル目モ眠ラズ心中獨リ紛乱鷄鴉ノ曉ヲ報ゼザルヨリ起キ出テ草鞋脚袢ト紛騷スルヿ云ヘン方ナク漸ク旅裝ヲ整ヘ午前四時五十分項勇シク打紛レテ塾庭ニ至ル參集スルモノ數百人此時ヤ曉霧閉塞天空朦朧秋風ハ凜々トシテ膚ニ徹スト雖ヒ躊躇ノ

色ナク吶喊天地ヲ震動スル許ニテ暫時ハ鳴リモ息マサリシ品川停車場ニ着セシ頃ハ漸ク鴉モ秋ノ夜ノ長キ眠ヲ覺破サレタル頃ナリキ已ニシテ時針六時ヲ過グルヤ須臾ニ見ル臨時滊車新橋ヨリ至ルヲ一同之ニ乘ゼントシテ其雜沓云ハン方ナシ發車刻至ルヤ秒時ノ猶豫ナク神奈川ニ向ツテ進行シ七時同地ニ下車シ人涙打チテ東海道ヲ西ニ向ヒ繰出セシ有樣ハ先陣後隊整々堂々トシテ封建時代ノ諸大名ガ參勤交代ノ行列モ斯クヤト想フバカリナリ歩々左折右曲數時ノ後戸塚ニ至ル茲ニ予輩ヲシテ閉口セシメシモノハ曩キニ神奈川ヲ發スル頃ハ身成リモ輕便ニ裝ヒ衆人ニ先ヲ驕慢自負大股ヲ張リ梶原源太ヲ氣取リシモ果テハ小才利キタル佐々木奴ニ追ヒ越サレ神氣自若ハ失望落膽ノ氣色ニ變ジ或ハ先トナリ或ハ後トナルナド雁行ヲ以テ評スベシ予輩ノ感情是ニ於テカ勃興セザルヲ得ンヤ曰ク世人往々一時ノ風潮ニ眩惑セラレ工農ヲ務ムルヲ慚ヲ輕佻浮薄政令ニ抗シテ自由ト叫ビ粗暴懶怠徒ラニ日月ヲ費シ彼ノ洋々タル大洋ニ浮泛スル一葉ノ扁舟ノ如キモノハ反テ實着ニシテ大山ハ土壤ヲ讓ラス河海ハ細流ヲ擇バズトノ氣慨ヲ以テ進ム者ノ爲メニ先鞭ヲ附ケラルヽノミナラズ遂ニ茫然トシテ空シク一身ノ處分ニ因シムモノ多キヿヲ驚テ鎌倉ニ至リ直チニ案内ヲ命ジテ建久ノ覇蹟ヲ探リ鶴ケ岡八幡神社ニ禮拜スルニ其構造日本固有ノ美術ヲ極メ彼ノ日光ノ德川祖廟ニ髣髴タルモノアリ階下ニ一老銀杏樹アリ今尚ホ枝幹鬱茂ス蓋シ二千年前ノモノナラン是レ即チ古昔實朝ヲ殺害セントシテ公曉ノ潛ミシ老樹ナリト嗚呼怨ムラクハ此ノ一老樹彼ノ兇人ヲシテ保匿セシメタルヿヲ余輩是ニ於テ不覺日本近時ノ狀態ヲ回想シ考一考スルニ外國交通後外部虛飾ノ文明ハ多ク輸入スレ𪜈内部眞成ノ文明ハ左マデ進歩ノ形象ヲ顯サズ而メ未タ人權侵害ノ惡習ヲ脫セズ其例近ク井伊大久保森諸公ノ凶事ニ在リ今亦大隈伯ノ遭難ヲ見ル愁憂交々予輩ノ腦裡ヲ痛マシムルノミナラズ大ニ我國文明ノ体面ヲ汚スヲ歎セズシバアラズ更ニ進ンデ護良親王ノ欺殺セラレシト云フ洞窟ノ今尚ホ首塚ト共ニ其形跡ヲ存スルヲ觀ルヤ歎一歎慨一慨同行ノ袖ヲ引クヲ知ラズ源頼朝尼將軍等ノ墓石ハ微カニ青草中ノ一笘石タルニ過ギズ坐ロニ古今成敗ノ有樣ヲ腦中ニ影出スル時ハ血涙滂沱タルモノヲキニアラズ春風怡蕩快樂ノ鄉今ハ變ジテ秋風蕭殺狐狸鴟梟ノ巢窟トナリ諸大名ノ金殿玉樓ハ徒ラニ數頃ノ田畝ト化シ去レルヲ見ルノミ漸クニシテ踵ヲ轉ジテ七里ケ濱ヲ過ギ江之島ニ着セシ比ロハ金烏既ニ西山ニ呑ク頃ナリキ旅舍ヲ叩イテ樓ニ登リ鮮魚ヲ呼ビテ空腹ヲ補フ既ニシテ眠ニ就カントスルモ耳敏ク神清ク感情胸ニ溢レテ容易ニ眠ルヲ得ズ聽クモノハ秋風ノ颯々トシテ樹木ノ梢ヲ過グルト波涙ノ岸汀ヲ洗フトノミ四隣寂々トシテ聲ナク斷腸ノ情ニ堪ヘザリキ翌朝鷄鳴ノ曉ヲ報ズルト同時ニ臥床ヲ出テ昨日ノ遊跡ヲ思ヘバ夢耶幻耶唯々恍トシテ念頭ニ史談ノ浮ブノミ既ニシテ旅舍ヲ辞シ同行ト共ニ當島ノ風景ヲ探ラント上ルヿ數町絶頂ニ踞シテ四方ヲ回觀スレバ洋々タル蒼海ハ望ミ際涯タリ精神自カラ豁如タリ富岳西ニ巍立シテ國粹ヲ表シ伊豆ノ諸島又眼中ニアリ脚下ハ此レ斷崖絶壁其狀臥龍ノ如キアリ伏虎ニ似タルアリ千態万狀紙筆ノ能ク寫シ得ル所ニアラズ時ニ金風破瀾ヲ揚ケ岩石ニ激シテ白霧四ニ飛散スル狀覺ヘズ腋下汗冷カニ心動キ眼眩ス唐宋名家ヲ地下ニ訪ヒ以テ其筆ヲ借ルニアラザルヨリハ誰カ能ク此眞狀ヲ記シ得ベケンヤ嗚呼造物者斯ノ如キ絶佳絶美ノ風景ヲ我國ニ附與スル豈ニ天ノ我國ニ惠ミタルモノニアラザルナキカ而シテ世人放擲今日ノ如クニシテ止ム遺憾ト云フベシ若シ此好地ヲ拓キ内外國人ノ避暑地保養場トナサバ之ニ依リテ利得スル處少々ニアラザル可シ之レ一ハ以テ天惠ヲ全フスルノ策ニシテ又一ハ我國富國强兵ノ一部ヲ補フニ足ルベキノ策ニアラズヤ景色ノ美ニ心醉スルト同時ニ轉タ感情ノ起ルアリ記シテ以テ后日ノ參考トナス

偶感

安達幸二郎君

嗚呼窈窕タル淑女、予ハ汝ヲ憎ムニ非ルナリ、予ハ汝ノ無罪ナルヲ知ル、雖レ然、予ノ汝ヲ見ルヿ蛇蝎啻ナラザル所以ノモノ抑々何ゾヤ、曰ク世間幾多ノ青年才子ガ往々汝ノ爲メニ勇銳ノ氣象ヲ損シ淫靡柔弱ノ風ニ陷ルヿアレバナリ、世間幾多ノ青年才子ハ必スイフナラン、鳳眼蠶眉ハ苦艱憂欝ノ解慰者ナリト、嗚呼青年才子ノ心中實ニ憐ムベキカナ、汝ハ他ニ浩大無量ノ樂園アルヲ知ラザルカ、但シ此樂園ハ有道ノ君子ニアラザレバ遊ブヲ許サヾルベシ、夫レ我邦太古武ヲ以テ國ヲ立テ敵愾ノ心盛ニシテ餘威海外ニ及ビタリシカ中世漸ク凌夷シテ淫靡柔弱ノ風忽チ生シ人々柔懦無氣力ニシテ膽薄ク骨弱ク和歌ヲ詠シテ淫奔ノ媒トナシ奥山ノ鹿鳴ヲ聞テ涙ヲ流スヲ知ルノミ豈復タ一人ノ活潑丈夫アランヤ、此時ニ方リ元冠ノ役アラシメバ如何、洋夷ノ强迫アラシメバ如何、實ニモコハキ限リニコソ、故ニ予ハ大聲疾呼ス、國ヲ愛シ身ヲ思フ青年ハ宜ク男女ノ交際ヲ斷ツベシト、然リ而シテ予ハ德ヲ好ミ美ヲ愛シテ朋友契結ノ益アルヲ知ルナリ、論語ニ友ノ遠方ヨリ來ルアリ亦不樂乎ト、實ニ朋友ノ相愛ハ神聖ナリ、清淨潔白ナル奥ノ雪ノ如ク美艶秀麗ナル吉野ノ雪ノ如シ、誰カダモンピチヤスノ如キ玄關長ノ如キブライトコブテンノ如キ交際ヲ羨望セザラン、而テ今世人手ヲ把リ友タルモノ一旦利害相反スルトキハ日本人ガ南洋人ノ肥瘠ヲ見ルガ如キモノ滔々皆ナ然ラザルハナシ、嗚呼ダモンピチヤスノ如キ交ハ今日求ムベカラザルカ、玄關長ノ如キ武古ノ如キ水魚ノ交ハ今日求ムベカラザルカ、聲ヲ擧ゲテ嗚號ス世上有德ノ君子願クハ明敎ヲ垂レヨ。」夫レ人ノ尊ブ所精神ノミ人ニシテ高尚ナル精神ナクンハ犬馬ト何ゾ撰バン、予ハ日本人ニ日本魂アルヿヲ認識ス、カノ虎ヲ鷄林ノ山中ニ斃シ馬ヲ鳴綠江ニ飲セシカ如キ壯快ニシテ千載ノ下人ヲシテ舞ハシムル事跡ヲ見テモ日本人ニ雄偉果銳ナル日本魂アルヲ認識シ得ベシ、此日本魂ハ武斷時代ニハ實ニ尙武ノ氣象トナリテ存セリ、而テ今日ノ勢ヲ見ルニ尙武ノ氣象滅裂シテ恰モ風吹キ花散ルノ狀ノ如シ、誰カ嗚呼ノ感ナキヲ得ンヤ、サレド予ハ日本魂アルヲ認識ス、但タ其形ヲ自治ノ精神ニ變セシノミト固ク信ズルナリ、願クハ予ガ固信ヲシテ果シテ實ナラシメヨ」而シテ予ノ慨歎已マザル所以ノモノ實ニカノ無膽公子ノ輩出スルヿ是ナリ、彼等ハ既ニ生活ニ餘裕アリ、出デヽハ市井男女ノ羨望スル所トナリ、入リテハ奴婢ノ追從スル所トナル、彼等ハ實ニ膽弱ク骨薄ク、古代王朝ノ月鄉雲客ト相去ルヿ遠キニアラズ。聞クナラク、普相比公ハ暇サヘアレバ銃ヲ肩ニシ彈囊ヲ負ヒ、一兵卒ニ出立ヲテ陸軍士卒ニ立交リ操練ヲ事トシテ健康ヲ養フヨシ、又我ガ西鄉翁ハ嘗テ市ケ谷陣營ニテ士卒ト伍ヲナシ油揚饅飯ヲ上食トシ、蚊ニクハレタルヿアリシトカヤ、願クハ此美談ヲ黑燒ニシテ無膽公子ニ飲マセタキモノナリ、」予ヤ今麻布營外寂寥ノ地ニ獨住シ、問フニ師ナク尋ヌルニ友ナシ、況ンヤ夜更ケ孤燈沈々、萬籟寂然、トシテ四ニ人聲ナク熒々タル明星玻窓ヲ透シテ孤床ニ入ル際、地圖ヲ按シテ萬國ノ盛衰ヲ考フレバ豈ニ幾多ノ感慨ナキヲ得シヤ、予ハ恍惚トシテ或國ノ滅亡ヲ想像セリ、其首都ハ昔ニカハラヌド、カノ高厦大屋ニ住ヒ活潑壯快ナル運動ヲナスモノハ其民族ニアラズシテカノ眼碧ニ髮赤キ人ノミナラム、數千年ノ昔ヨリ奉シ來リシ天皇モ今ヤイヅコニ在スラン、キヨウトノ美術ハ徒ラニ異人ノ汚ス所トナラン、フジノ峰ピハノ湖ハ空シク異人ノ筭スル所トナラン、所々ノ神靈ハ啾々トシテ草葉ノ陰ニ叫ブラン、此時ニ方リ東洋ノマコーレー雄麗ナル筆ヲ揮ヒ悲壯激烈ナル亡國ノ詩ヲ咏シ能ク紅毛人ヲシテ感動已マザラシムト雖モ果タ何ノ效カアルベキ、然ラバ則チ之ヲナス如何、之ヲナス如何、時ニ時辰錚々十二ヲ報ズ乃チ筆ヲ投ジテ慨然！

十二月十七日夜　　幸二郎シルス

述意

石川忠治君

余久巷處僻陋、心氣憂結、獨惆悵狹室、往者快々焉、來者赧然焉、偶得欣暢誰與爲歡、余雖尫弱孺兒、亦言有爲世無慊也、曷得區々屈居閨內、乃奮然出鄉里、而磊落奇偉之士與得談心奧、余將不有遑恰顏擾舞」爾來專從事於學問、夙起夜寢、朝啜淡汁、夕嚌疏菜、以凌饑、布衣短褐以厘避寒、而自爲足、淡泊無心自許爲狂兒、外物不膠心、誹訾不介意、只吾所志是望不止焉、他日得凌山崩屋倒之海波蹤潺々茫々之浩洋遠達千里之淵、然後仰不愧天、俯不愧地、外不愧衆、內不愧心也、然運命在天、休光不可期、禍福不可計、戚憂擁前、獻欷迫後亦不可知、孽任心從意以傲遊歟、明君在上報德其貴重、肯不可忍也、抑我所謂所望者、非祿位是望、只在務所以爲太平之臣民之義務耳、孜々汲々死而後止、豈不樂乎」余以謂、當時我邦猶行客遭崎嶇羊腸之盤路、勉而非超、以稟聊、當此時、有人心者、安遑々事外乎哉、宜盡力以終責任矣不肖忝爲會員、敢而瀆冊端、諸士幸裁、

忘想

武田郁藏君

地勢ノ便宜ヨリ我邦ヲ大貌列顛合衆王國ニ比シ英國ガ歐洲商業ニ於ケルガ如ク巴那麻地狹開通ノ後ハ我邦ヲ亞細亞商業ノ中心トナスヘシトハ是レ我邦實業家ガ二十余年來冀望シタル所ニ非ラズヤ實ニ彼ノ巴那麻運河開通ノ事業ハ將來我邦ヲシテ商業上無上ノ好位置ニ置カシメントスルト共ニ大ニ我邦實業家ヲシテ功名心ト愛國心トヲ興奮セシメタリ現ニ五六年前京濱間ノ有力ナル或ル實業家ハ實際熱心ニ之カ計畫ヲナシタル事モアリテ大ニ世人ノ注目スル所トナリシカ當時我邦ノ實業世界ハ端ナクモ憐ムヘキ光景ヲ呈シ居リテ素業ノ蹉跎タル金力ノ欠乏セル豪商良賈ノ僅少ナル万事皆豫想ノ外ニ出テ徹頭徹尾如何トモナスベカラス遂ニ此壯快ナル大計畫ト殊勝ナル功名心トハ空シク慨嘆ノ涙ト共ニ消滅スルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリト聞ク豈ニ嘆スヘキノ至リナラスヤ

嗚呼我邦已ニ亞細亞商業ノ中心トナルベカラサルカ然ラハ何レノ國カ果シテ此幸福ヲ受ケ能フベキカ他邦ニシテ若シ商業ノ中心場タラハ我邦未來ノ商業ハ果シテ如何ニ成リ行クヘキカ是レ誰シモ腦裡ニ浮ビ出ツベキ所ナラスヤ請フ試ニ之ヲ論セン

我邦ハ已ニ幸福ヲ受クベカラス然ラハ何レノ國カ果シテ幸福ヲ全フスル者ナル支那カ或ハ朝鮮カ思フニ彼等ハ亦タ全ク此幸福ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノニ非ラス何トナレハ彼等ノ實業彼等ノ金力ノ欠乏セル我邦ヨリ更ニ甚シキヲハ誰シモ承認スヘキ所タレハナリ然ラハ前印度カ或ハ其レ後印度諸邦カ念フニ彼等モ亦未タ此ノ幸福ヲ受クル能ハサルベシ何ントナレハ彼等ノ位置ハ全ク之ヲ受クルノ資格ヲ欠乏スレハナリ然ラハ何レノ國カ眞ニ此天授ノ幸福ヲ全フスル者カ吾人ノ豫想ヲ以テ之ヲ察スレハ彼ノ東洋英國領地ノ一ナル支那冷汀灣口ノ一島香港コソ眞ニ此幸福ヲ全フスルノ最モ恐ルベク息ムヘキノ大敵ナリト信ス

夫レ香港ハ支那ノ東海大河ノ河口ニアル一島ニシテ舟揖ノ便ニ富ミ航適自在現時支那商業ノ中心場ニシテ碧眼紅髯ノ豪商猾賈島內ニ塡充シ大陸四百余州ノ生血ハ現時實ニ彼等ノ爲メニ吸収セラレツヽアルナリ今其レ此島ニシテ果シテ亞細亞商業ノ中心トナランカ英國ハ是レ東西洋ノ商業主權ヲ有スルモノニシテ彼等ノ殘虐橫柄ナル現時ニ倚數層ヲ加フベク所謂敵ニ糧ヲ齎ラシテ虎ニ翼ヲ貸ス者ニシテ東洋ノ不幸是レヨリ大ナル者アラザルベシ愛ソ知ラン是レヨリ東洋諸邦ハ次第ニ其生血ヲ絞取セラレ疲弊ノ極終ニ現時ノ印度ノ如クニ至ルヲ

嗚呼其レ慘怛ヲ極メタル哉何ソ歐州諸強國カ年來彼ノ强欲ヲ東洋諸邦ニ逞フスルヤ思ヒ起セヨ彼ノ赫々タル亞細亞全州四十年前ノ形勢ヲ當時亞細亞全州ノ各國ハ實ニ隆盛ヲ極メタリキ各國獨立ノ天授ヲ全フシタリキ一國モ碧

眼紅髯族ノ干渉ヲ受ケタルヿナカリキ然ルニ彼ノ英國ノ猾兒「クライブ」カ一タヒ足ヲ印度ニ置キシ以來彼ノ繁榮ヲ極メタル「モーゴル」王國三千年ノ榮華モ已ニ早ヤ空シク一朝ノ夢ト化シ去リ二億ノ遺民半バ已ニ饑死ノ鬼トナレリ滔々タル「ガンヂス」ノ水ハ千秋其流レヲ絶タス皚々タル喜馬拉ノ雪ハ万古其色ヲ變セサレドモ優勝劣敗ノ人間世界タル僅カニ四十年ノ年月ニ隆昌繁榮ヲ極メタル都邑モ變シテ虎狼嘯風ノ荒野トナリ壯宏粲爛タル宮殿モ化シテ雜草芒々タル田野トナリ人ヲシテ思ハス麥秀ノ歌ヲ唱ヘシムルハ果シテ此レ誰ノ行爲ソヤ冷々タル「フーグレー」ノ西岸寂寥タル「デルハイ」ノ古城何レカ懷舊落涙ノ種トナラサルベキ「ラングーン」ノ都城モ早ヤ西人ノ有トナリ順化ノ都府モ又彼等ノ有トナラントス

殘ス所ハ唯我邦支那朝鮮ノミ噫炎々タル猛火蕩々タル洪水ハ將ニ我隣家ヲ燒キ我隣國ヲ漂ハシ去ラントス危急ノ秋ハ至レリ來レリ起キヨ我邦有爲有力ノ實業家何ソ奮テ消火ノ器械ヲ造リ防水ノ堤坊ヲ築キ以テ彼ノ碧眼ヲ挫カザル

代議士選擧者ノ心得

佐藤仲次君

吾人カ一日千秋ノ如ク旦夕寢食ヲ忘レテ國會開設ヲ熱望セシ二十三年ノ國會モ今ハ早ヤ眼前咫尺ノ中ニ迫レリ指ヲ屈スレハ今ヨリ後殆ント七ケ月ノ星霜アルノミ是ニ於テ平政府ニアル人々ハ國會ノ準備ニ骨ヲ折リ民間ノ人々ハ自カラ國會議員トナラントスルニ骨ヲ折レリ然ラハ則チ憲法モ已ニ發布セラレタレハ從テ結構ナル國會モ出テ來ル可ク申シ分無キ議員モ亦タ出テ來ル可シ嗚呼東洋代議政体ノ光榮豈熾ナラスヤ

諸君若シ歐洲史ヲ繙イテ通讀一過セハ其革命擾亂ノ爲メニ屢々天下ヲ漂ハシタル毒血ハ殷トシテ深ク其慘迹ヲ印スルヲ見ン而シテ其慘毒ヲ流カス原因ヲ査察スレハ多ク

ハ皆ナ政治上ノ不平ト政權爭奪トノ二ヨリ生シタル結果ニシテ畢竟スルニ立國爲政ノ大道猶ホ未タ確然タラス政体ノ基礎脆弱ナリシニヨルノミ近世ニ至リテハ人智漸ク進ンテ復タ往時ノ無謀ナル蠻爭ヲ事トセサルニ至ル是レ立憲ノ政体漸次各國ニ行ハレテ政治ノ基礎ヲ立テ天下ノ衆ト共ニ苦樂利害ヲ同フスルノ美風熾ナルニ至リシ故ニアラスヤ抑モ立憲代議政体ノ主要タルヤ國民多數ノ意思ニシテ憲法ノ規定スル所ニヨリ眞ニ政治ノ實際ニ行ハシムルニアリ言ヒ換ヘナハ代議政体ナル者ハ元ト施政上ノ便宜ニ基イテ起レル政体ニアラスシテ人權ノ原理ニ基イテ起レル政体ナリ所謂人民參政ノ權利トハ只タ政費ノ收支國法ノ廢立等ニ係ル事項ヲ議定ス可キ權利ノミナラス國家萬般ノ政務ヲ舉ケテ之ニ參與ス可キ權利ノ謂ヒナリ斯カル重大ナル權利ヲ有シ國民多數ノ意思ヲ代表スル者ハ抑モ何ソヤ曰ク國會議員候補者即チ是レナリ

蓋シ國會ナル者ハ腐敗シ易ク恐嚇シ易ク誘導シ易ク激發シ易シ或ハ英雄ノ智辨之レヲ滿着スルヿアリ或ハ奸相ノ術數以テ其志ヲ動カスニ足ルモノアリ是レ選擧人ノ宜シク議員ヲ選擧スルヿニ當ツテ注意ス可キ要点ニシテ議員ノ其當ヲ得タルト否トニ歸因セスンハアラス彼ノマンチエスター選擧區ノ人民カクリミヤ戰爭ノヿニ於テ漫リニパーメルストン子爵ノ爲メニ籠絡セラレテ其多年間同生義ノ好ミアル代議士ブライト氏ニ背キタルカ如ク若シ一ノ解散或ハ一ノ改選アル毎ニ選擧人民ニシテ其心ヲ二三ニスルアラハ如何ニ賢良方正ノ代議士アルモ將タ之ヲ如何トモスルヲ得ンヤ果シテ然ラハ選擧區人民ノ決心堅固ナレハ代議士ノ決心モ亦タ堅固ナル可ク代議士ノ決心堅固ナレハ是レ所謂善良ノ國會ト云フ可キナリ

已ニ此ノ如ク國會ノ運動好結果ヲ奏スルト否トハ議員其人ヲ得ルト否トニ因リ議員其人ヲ得ルト否トハ一ニ選擧人ノ選擧ニ心ヲ用ユルト否トニ歸因セスンハアラス選擧人ノ選擧ニ於ケル其結果偉且ツ大ナラスヤ其責任豈貴且

ツ重ナラズヤ然レ𪜈余輩各國ノ選擧場裡ヲ通觀スルニ奇異ナル現象ヲ呈スル者多キハ豈咄々怪事ニアラスヤ

彼ノ英米國ノ選擧場裡ノ現象ハ果シテ如何ナリシヤ夫レ米人ハ誇ツテ曰ク我カ國民ハ世界中最モ幸福ナル最自由ナル樂土ニ棲息スト英人ハ又タ曰ク代議制度ノ發明ハ實ニ英國ニ在ツテ存スト而シテ今英國ノ選擧制度ノ弊害ヲ一言セン乎彼ノハーチングトン委員會ヘ提供シタル通信ニヨレハウエンドソルニ於テハ人々カ家屋ヲ買入ルヽニ當リテヤ小作者ノ意ハ措イテ問ハス直チニ戶數ヲ計算シ已レニ屬スル投票數ト認定シ家屋ハ投票ノ數ヲ測知スル尺度ト云フカ如キ有樣ナリ又タ彼ノブラックポルン府ニ於テ同府々會議員カ告發セラレテ其資格ヲ剝奪セラレタル一事ハ製造家ハ已レカ傭役スル勞役者ニ脅迫ヲ加ヘタルニ據レリ抑モ此事件ノ由來タルヤ一千八百六十八年保守党ノ畫策ニ出テシ有名ナル螺旋狀ト稱セル回狀ヲ制定シタルニアリ其狀ニ曰ク我党ハ自党ノ勢力者及ヒ製造家ヲシテ最モ高度ニ其威權ヲ利用セシメ勝ヲ制シ以テ寺院及政府ノ憲法ヲ保守スル爲メ候補者ヲ國會及地方議會ニ提出スルヿヲ期ストウエリヤム、ヅヨンソン氏ハ適切ナル言語ヲ吐イテ曰ク余カ目擊セシ町村ニ於テハ投票場ノ側面ニ一個ノ家アリ幾多ノ投票人此處ニ來集スルヤ人アリ之ヲ該家ニ誘引ス内ノ一室ニハ候補者ノ子息金囊ヲ擁シ机ニ靠リ殆ント両替店ノ如シ是レ所謂金銀投票兩換店ニシテ數百ノ撰擧者ハ各手ニ若干ノ貨幣ヲ携ヘテ戶外ニ出ツルヲ實見シタリト米國ニ於ケルモ亦タ然リバジオット氏嘗テ言ヘルトアリ合衆國ニハ選擧秘密制度（Caucasus syestem）ナル者アリテ其目的タルヤ名利者流カ人民ヲ欺瞞シ自党ノ人ヲ選擧セシムルニアリ此制度ノ有害ナルハ人民自カラ名利者ノ機關タルヲ知ラスシテ卓然獨立ノ選擧ヲ爲セリト謬想スルニアリト其選擧ノ結果ヲ以テ意ニ介セサル夫レ此ノ如シ其心術實ニ憫笑スルニ堪ヘサルナリ是故ニ立法者ヲ選擧スルニ方リ正シク其判斷力ヲ用ヰルノ貴フ可キヲ認識シ以テ其良心ニ恥チサルノ投票ヲ爲スノ人ハ僅々一小部分ニ止マレハ是等少數者ノ意思カ選擧上ニ及ボス所ノ影響ハ他ノ多數者ヲ支配スル所ノ不正不法ノ勢力ノ爲メニ壓倒セラルヽヲ通例ナリトスサレハ其結果トシテ只タニ國中ノ人才ヲ網羅スル能ハサルノミナラス賢良方正ノ人物獨立獨行ノ學者ハ反テ斯ル輩ム共ニ議會ニ列スルヲ屑トセサルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ルハ何ンゾヤ

斯ノ如ク人文發達シテ富强万邦ニ冠タル且ツ代議制度ヲ運用スルヿ久シク隨ツテ老練ヲ以テ名アル英米國ニ於テスラ尙ホ且ツ此弊アルヲ免レズ況ンヤ我國ノ代議制度ノ明年ニ始メテ開カルヽニ於テオヤ余輩窃カニ恐ル必スヤ名利者流ノ四方ニ起リ或ハ甘言以テ選擧人ヲ誘導シ或ハ威迫欺瞞ノ姦計ヲ籌ラス者アランヿヲ余輩ハ知ル一昨年ノ末ヨリシテ地方議會ノ紛紜ハ猶ホ遑々熾ンナラントスル傾向アルカ如シ抑モ此紛紜タルヤ或ハ選擧人民ト地方行政官トノ爭アリ或ハ選擧人民ト代議士トノ爭アリ或ハ選擧人民中ヨリテ代議士ニ辞職ノ勸告書ヲ送ル者アリ一ノ地方代議士ニシテ他ノ代議士ト椅子ヲ共ニスルニ忍ヒスシテ職ヲ辞スルモノアリ其甚タシキニ至リテハ神奈川縣會ノ解散トナリ秋田縣會ノ解散トナレリ此ノ如キ大息ス可キ活劇珍事ハ已ニ吾々ニ向ツテ將來ノ選擧場裡ヲ推測シ得可キ前提ヲ與ヘタルニアラスヤ

說イテ茲ニ至レハ何人ト雖𪜈眞正ニ國家ノ前途ヲ思フノ人ハ成ル丈ケ善良方正ナル議員ヲ出シ粲然タル國會タランヿヲ願ハサル者ハアラサルヘシ然ラハ則チ選擧人ヲシテ適當ノ人傑ヲ選擧セシムルハ如何セハ可ナル乎前途ノ弊害ハ如何セハ芟除スルヲ得ベキ乎曰ク選擧人ヲシテ人物鑑識ノ標準ヲ認識セシムルニアリ曰ク選擧ニ關スル要件ヲ知得セシムルニアリ以下順次個條ヲ分チテ之ヲ述ベン

第一、候補者ハ如何ナル主義ヲ有スルカヲ注意セヨ

書家ニ「胸ニ成卿アリ」ト云フ言アリ代議士ノ胸中ニモ亦タ成卿ナカルヘカラズ即チ代議士ノ胸中ニハ政務上ノ成卿ヲ有シ内治ハ斯ク爲ス可シ外交ハ斯ク改ム可シ財政ハ期ク改革ス可シト豫シメ精確ナル切實ナル成案ヲ有セスンハアラス是レ選擧人ノ第一着ニ注目ス可キ点ニシテ彼カ主義ハ我カ日常抱持スル所ノ政治上ノ主義ト一致スルヤ否ヤヲ能ク觀察セサルヘカラス夫レ代議士タル者ハ如何ニ懸河ノ辨ヲ有シ如何ニ政才ニ富ムト雖ヒ其根本タル主義ニシテ腐敗センカ適々以テ人民ヲ蠱毒スルニ過キサレハナリ蓋シ主義ハ心髓ナリ精神ナリ其國會議員必要欠ク可カラサルハ猶ホ脊髓ノ人体ニ於ケルカ如ク柱梁ノ家屋ニ於ケルカ如シ左レハ假ヒ希世ノ智辨ヲ有シ有爲活潑ノ資ヲ具フルモ其主義ニ於テ異ナランカ吾人ハ決シテ投票スルノ限ニアラサルナリ

第二、候補者ノ道德ノ厚薄如何ニ注意セヨ

若シ國會議員ニシテ道德腐敗セン乎國家ノ不幸誠トニ之レヨリ大ナルハナカル可シ是レ余輩カ前述セル英米ノ例ヲ見テモ知ル可キナリ其結果果シテ代議政体ノ目的ヲ達スルヲ得可キ乎審カニ言ヘハ正當ナル立法ヲ爲スヲ得可キ乎公益ヲ保獲スルヲ得可キ乎大臣ノ行爲ヲ監督スルヲ得可キ乎余輩ハ斷シテ否ト答フルヲ躊躇セサル可シ是レ撰擧人ノ最モ注意ス可キ点ナリトス先ノ英國外務大臣ロースベリー卿ハ曰ク單ニ道德堅固ノ四字ヲ掲ケテ選擧人ノ注意ス可キ最大ナル要綱ナリト云ヘリ殊トニ我國ノ如キ政治上ノ道德ナル者ハ未タ少シモ發揮スルヲナク殆ント政治ト道德トハ別物ノ如ク思ヒ政治世界ニ於テハ法律以外ニ道德無キ者ノ如クニ見做シタル今日ニ於テオヤバジオット曰ク英國ノ貴族ハ賄賂ヲ啗ハス所ノ人ニシテ決シテ自カラ賄賂ヲ貪ル者ニアラス彼等ハ腐敗ノ泉源ナリ何トナレハ彼等ハ他人ヲ腐敗セシムル魔力ヲ有スレハナリト余輩ハ又タ近頃世上ニ沸騰セル東京府會及大坂府會議員ノ賄賂事件ヲ聞ク毎ニ未タ嘗テ寒心大息セズンハアラザルナリ嗚呼百万圓内外ノ地方税收支豫算ヲ決スル府縣會ニシテ猶ホ且ツ然リ況ンヤ八千万圓ノ國税收支豫算ヲ議スル國會ニ於テオヤ如何ナル狂言ヲ演出スルヤモ計ル可ヘカラザルナリ選擧者タル者宜シク謹慎以テ勉メサル可ケンヤ

第三、候補者ノ果シテ政治上ノ智識經驗ヲ備フルヤ否ヤニ吟味セヨ

代議士ヲ選擧セント欲スル者ハ須ラク先ツ其候補者ノ果シテ政治上ノ智識ヲ有スルヤ否ヤヲ觀察セサルヘカラス蓋シ政治上ノ智識トハ大凡之ヲ大別シテ二ツトナスヲヲ得第一、政學的ノ智識第二、時事的ノ智識是レナリ政學的ノ智識トハ即チ國家ノ組織政治機關ノ構造及之レヲ運動スルノ方法ニ關スル智識ニシテ細カニ之ヲ言ヘハ中央政府地方自治國會法選擧人民ノ權利ニ關スルカ如キハ皆ナ此ノ部内ニ含畜セラルヽ者ナリトス時事的ノ智識トハ列國ノ形勢及ヒ我國ノ之レニ處スルノ關係我カ國ノ形勢我カ邦ニ於イテノ過去ヨリ遺傳シタル要素新タニ生スル所ノ要素等ノ顯密聚散ニ關スル智識ニシテ若シ政治家タル者カ時事ニ暗カランカ其語ル所ノ妄誕迂闊ナル殆ント人ヲシテ失笑セシム可シ更ラニ之ヲ言ヘハ時事ニ通スル者ト時事ニ通ササル者トノ間ニハ其政治上ノ問題ニ付テ大ナル意見ノ相違アルヲ免カレス何トナレハ二者ノ材料トシテ考フル事件ニ付テ已ニ非常ノ相違アリトスレハ其判斷ニ於テモ更ラニ非常ノ相違アルハ素ヨリ怪シムニ足ラサルナリ然ルニ之レヲ是レ察セス只タ單ニ某學校ノ卒業証書ヲ握有セルニ眩惑スルカ或ハ其人ノ豪富タルノ一点ヲ見テ之ヲ撰擧スル者アラハ豈大ニ國家ノ爲メニ不幸ヲ慨嘆セサルヲ得ンヤ

第四、候補者カ果シテ其意見ヲ確信シ之ヲ實行スルニ足ルヘキ胆略ヲ備フルヤ否ヤニ注意セヨ

國會議員タル者ハ須ラク信心堅固ノ志慮厚カラサルヘカラス更ラニ言ヘハ富貴モ移ス能ハス威武モ屈スル能ハス

正ヲ踏ンテ懼ルヽコトナキ大丈夫ノ議員タラサルヘカラス若シ議員ヲシテ晨ニ改進主義ヲ取リ夕ニハ保守主義ニ党スルカ如キ朝變暮更實ニ定マリナキ議員ハイカデカ其主義目的ヲ貫徹スルコトヲ得ンヤ又タ吾人ハ何ヲ標準トシテ斯ル豹變的タル代議士ヲ選擧スルコヲ得可キ乎斯ル代議士ハ是レ實ニ選擧人ニ對シテ詐僞ノ所爲ヲ行フタルモノト何ンソ異ナランヤ苟クモ代議士タル者ハ一度ヒ一定ノ主義又ハ一定ノ說ヲ執リタル以上ハ例ヘ外ヨリ如何程英雄ノ智辨之ヲ瞞着スルモ或ハ奸相ノ術數以テ其志ヲ動カスモ毅然トシテ已レカ持セシ主義ヲ實行スルノ勇氣ナカルヘカラス薄志弱行ノ人ハ代議士タルニ不適當ノ者ト斷言シテ可ナリ

第五、選擧人ノ代議士ヲ選擧スルハ國家ニ對スル義務ナルコヲ注意セヨ

學者曰ク善良ナル選擧人ハ善良ナル國會ノ地盤ナリト總テ國會ノ堅固ニシテ大丈夫ナル所以ノモノハ撰擧人ノ堅固ニシテ大丈夫ナル地盤ノ上ニ立チタレハナリ彼ノポルミグハム選擧區ヨリ出テタル代議士カ常ニ英國國會議場ニ於テ其勢力ヲ振ヒタル所以ノモノ職トメ其選擧區ノ人民カ大丈夫ナル地盤ノ上ニ立チタル故ナリ若シ夫レ政治ヲ以テ無心ナル器械的ノ者ト思ハヾイザ知ラス苟クモ之ヲ以テ一ノ生命アリ一ノ高尙ナル目的ヲ有スル者トセハ吾人ハ善良ナル選擧人出テ來ランコヲ願ハスンハアラス然ルニ獨リ怪シム選擧人ノ代議士ヲ選出スルニ當テヤ其投票權ヲ私用シ之ヲ以テ私利ヲ營ムノ卑劣手段ヲ用ヒ之ヲ以テ賄賂ト交換スルノ資本トナスハ果シテ何ノ意ヅヤ蓋シ彼等ハ投票權ヲ以テ單ニ一個人ノ權利ナリト謬信スレヒ一個人ノ權利ニアラス即チ投票權ハ社會ニ對スル義務ニシテ之ヲ正理公道ニ訴ヘテ使用ス可キモノニシテ決シテ之カ一私利ノ爲メニ用フ可キ者ニアラザルナリ世ノ選擧者タル者宜シク爰ニ注意セスンハアルヘカラズ

第六、公共心ニ富ムヲ要ス即チ愛鄉心（local feeling）ヲ重ンシ公共心（national feeling）ヲシテ之カ犧牲ニ供セサルヲ要ス

國會ナル者ハ全國一般ニ關スル公共ノ事項ヲ議ス可キ所ナレハ選擧者タル者須ラク地方代表主義ヲ棄テヽ公共主義ヲ取ラサルヘカラス且ツ選擧者タル者ハ國會議場ニ賢良方正ノ人物ヲ出タスハ唯々諾々的ノ人物ヲ出スニ比スレハ遙カニ國民一般ノ利益ナルコヲ覺悟セサルヘカラス左レハ若シ自己ノ選擧區ニ於イテ適當ナル人物ナキトキハ宜シク他ニ才俊ノ冀北學士ノ淵叢ニ就イテ之ヲ求ム可キナリ何ニヲ苦ンテ愛鄉心ノ奴隸トナリ劣等人物ヲ曲庇選出スルカ如キコヲ爲サンヤ若シ誤マリテ斯ル劣等人種ヲ撰擧スルコアラン乎其結果トシテ直チニ選擧者ノ頭上ニ墮落シ來ル所ノ應報ハ其希望ト正反對セルニ一驚ヲ喫スルナラン之ヲ之レ自業自得ト云フ可クシテ敢テ怪シムニ足ラサルナリ選擧者宜シク注意セサルヘカラス

以上陳述シ來ル所ハ唯タ單ニ撰擧人ノ心得ベキ重モナル條件ノ大畧ニ過キスシテ固ヨリ之ヲ以テ盡クセル者ニアラスト雖ヒ代議士選擧人タル者若シ前陳ノ個條ヲ標準トシ又タ前述セル選擧ニ關スル要件ヲ知了シテ以テ選擧ニ着手シナハ則チ適當ナル人物ヲ得他日東洋代議政体國ト世ニ知ラルヽニ庶幾カラント考フルニ過キサルナリ吾人カ開ク所ニヨレハ日比谷ニ於テ建築ス可キ國會議事堂ハ其地盤鞏固ナラサルカ爲メニ砂利ヲ以テ能ク其地盤ヲ固メタルト我カ當路者ノ建築ニ心ヲ用ヰラルヽ斯クノ如シ左レハ此國會政治ノ地盤タル選擧人民ニ於テモ宜シク心ヲ用ヰ堅ク守ラスンハアルヘカラス殊トニ我國開闢以來始メテ開設セラル可キ明年ノ國會ナレハ此國會ヲシテ標準國會タラシムルモ一ニ選擧者其人ノ方寸ニアリ腐敗國會タラシムルモ亦タ選擧者其人ノ心意ニアルノミ滿天下ノ選擧者諸君ヨ諸君ハ此重任ヲ帶フルモノナリ宜シク猛省スル所アレ

團結ノ必要ヲ述ヘテ村山會員諸君ニ望ム

芹澤友吉君

團結ノ必要ナル素ヨリ諸君ノ已ニ熟知スル所今更茲ニ陳辨ヲ要セサルナリ殊ニ團体ヲ容ツクルノ人ニ向テ團結ノ必要ヲ說クハ釋迦ニ說法ト一般余其事ニ益ナクシテ却テ笑ヲ招クノ愚タルヲ知ル然レ𪜈余ヤ一片村山會ヲ思フノ情他人ノ嗤笑ヲ顧ミルニ遑アラス聊カ茲ニ一言ヲ試ミント欲スルモノナリ

一條ノ繩ハ脆シ然レ𪜈之ヲ束ヌレハ能ク千鈞ヲ擧クルニ足ル一片ノ羽ハ輕シ然レ𪜈之ヲ積メハ能ク百鈞ノ重キヲ得可シ一掬ノ水ハ我喉ヲ濕スニ足ラス然レ𪜈其汎濫漲溢スルヤ人畜ヲ斃シ家屋ヲ流シ其勢決然トシテ防遏シ得ヘキニアラサルナリ一点ノ火ハ我手ヲ暖ムルニ足ラス然レ𪜈其炎々暴揚スルヤ猛烟天ヲ燒キ大厦高樓瞬間ニ灰燼トナルヤ勢猛然トシテ容易ニ撲滅シ得可ニアラサルナリ噫素ト是レ一掬ノ水一点ノ火何ヲ以テ此ノ如キ偉大ノ勢力ヲ生スルヤ他ナシ其結合ノ結果能ク之ヲシテ然ラシムルナリ千里ノ遠キモ歩ヲ重ヌレハ必ス達ス大木ノ古キモ斧ヲ重ヌレハ必ス仆ル是レ皆結合ノ力ノ然ラシムル所ナリ

凡ソ事ヲ社會ニ爲サント欲スルモノハ必ス團結ノ力ニ依ラサルヘカラス團結ハ多數ノ力ヲ合シテ共同ノ大權力ヲ作ルモノナリ夫レ人ノ力ニ度アリ人ノ財產ニ限アリ苟モ其限度ニ幾倍スルノ事業ヲ社會ニ興サント欲スルモノハ必ス共同ノ一大權力ヲ作リ以テ之ニ當ルニ非スンハ豈能ク其成就ヲ望ムヘケンヤ大達劍山ハ一人ノ力之ヲ仆ス可ラス然レ𪜈五人十人ノ力ヲ合スレハ之ヲ仆ス易々ノ業ノミ貿易業ヲ起シテ巨万ノ利ヲ得ントスルニハ茲ニ會社ヲ創設シテ多數人ノ合資ヲ計ラサルヘカラス若シ此團結ノ力ニ依ラサランカ大達劍山ハ益々名譽ヲ高フスルノミ貿易業ハ遂ニ萎靡ノ悲境ニ沈淪センノミ團結ノ必要ナル果シテ如何ンヤ

昔シ希臘カ波斯ノ大兵ヲ受クルヤ波斯ハ諸國ヲ征服シテ其威望赫々其希臘ニ來ルヤ甲兵百万一戰ノ下希臘全土ヲ蹂躪セントス而シテ希臘ハ其地勢山岳多ク小邦各所ニ散在シテ離群索居ノ狀アルヲ以テ殆ト波斯ノ大軍ニ對抗スルノ余力ナキカ如シ然ルニ尙ホ能ク波斯ノ軍ヲ破リ波斯ヲシテ再ヒ希臘ヲ顧ミルノ念ヲ絕タシメ而シテ希臘ヲシテ古代文明ノ中心タラシメ青史上燦然タル光輝ヲ放チ千歲ノ下欽慕ニ堪ヘサランメタル所以ノモノハ何ソ是レ斯波多安善ノ一旦私怨ヲ棄テ公益ノ爲メ團結一致シタルノ結果ニアラスヤ米國ノ初メ發見セラルヽヤ英國共殖民ヲ送リ而シテ其後英政府米國ノ殖民ヲ壓制シ苛酷ノ政令ヲ發シ重稅ヲ課シ剩ヘ置殖民ノ權利ヲ滅殺シ自由ヲ褫奪シテ之ヲシテ幽欝ニ沈淪セシムル者殆ント二百年而シテ遂ニ英政府ニ抵抗シ其抵屈ヲ伸ヘ幽憤ヲ散シ英政府ノ羈絆ヲ全脫シテ合衆國ノ新政府ヲ建立シ世界ニ雄視スルノ最强國トナリタル所以ノモノ何ソ是レ殖民一致合同ノ力能ク之ヲ然ラシメタルノ結果ニアラスヤ獨乙人ノ巴里府ヲ蹂躪シテ會稽ノ耻ヲ雪キ千歲ノ怨ヲ報ヒ獨乙帝國ヲ回復シタルモノハ是レ日耳曼聯邦團結ノ力ニアラスヤ夫ノ德川幕府三百年ノ基礎瓦解シテ明治中興ノ大業成リタルハ聖主賢明ノ致ス所ナリト雖𪜈抑亦志士團結ノ余力ナリ其他四十七義士ノ雪曉吉良ノ門ヲ襲ヒテ君讐ヲ報タルカ如キ櫻田門外血ヲ流シテ壯士其志ヲ遂クルカ如キ皆是レ團結ノ力ニ依ラスンハアラサルナリ

社會ノ未タ野蠻ノ域ニ在ルヤ人間ノ思想ハ單純ニシテ常ニ泰平無事ノ觀ヲ呈スト雖𪜈其文明ニ進歩スルヤ人間ノ思想ハ複雜シテ事物ノ必要上事業ノ起スヘキモノ日ニ其多キヲ加フ於是乎世間萬般ノ事皆團結ノ必要ヲ感シテ單獨孤立ノ有樣ハ昔日ノ夢ト化シテ事業ノ興起ハ團結ノ結果ニ在リト云フ社會トナレリ夫レ本邦今日ノ有樣ハ正ニ文明ノ境界ニ達シテ到ル所政治上學問上商業上工業上ノ團結ヲ見サルハナシ而シテ是皆一ノ目的ヲ有シテ多衆ノ力ニ依テ一大事業ヲ起シ以テ國家ノ福利ヲ增進セント希

圖セルモノナリ團結ノ力ハ強大ナリ其目的ヲ達スルヤ必セリ今日團結ノ多キヲ見ルハ國家ノ爲メニ賀スヘキノ至リナラスヤ

我村山會ハ一ノ團体ナリ然レ𪜈政治上學問上ノ團結ニアラス又商業上工業上ノ團結ニアラス故ニ社會ニ立チ公ケノ運動ヲナシ其直接ニ達セント欲スル目的ヲ有セスト雖𪜈亦間接ニ達セント欲スル目的アリ即チ村山會ハ村山四郡人士ノ親睦ヲ計ルニアリ即親睦ヲ今日ニ固フシテ他日各人社會ニ立テ運動ヲナスニ當テ緩急相救ヒ歡苦相俱ニシ以テ國家公共ノ利益ヲ計ラント欲スルハ我村山會ノ目的ナリ已ニ村山會ハ間接ニ國家ノ利益ヲ目的トスルヲ以テ村山會ノ盛衰ハ國家ニ間接ノ利害ヲ與フルモノト謂フ可シ故ニ余ハ村山會ノ和氣穆々其交際ノ圓活ニシテ以テ他日善良ナル美菓ヲ結ハンヿハ希望ノ至リニ堪ヘサルナリ然レ𪜈團体ハ常ニ必スシモ其善良ノ結果ヲ得ルモノナラス或ハ其基礎ノ鞏固ナラスシテ中途ニ破壞スルモノアリ或ハ皮想ノ完全ヲ示シテ裏面腐敗ノ情ヲ呈スルモノアリ是等ハ決シテ善良ノ團体ニアラス今吾村山會ハ如何ト云フニ其内情ヲ觀察スルニ風穩カナルノ日太平洋細波ヲ擧ケスト雖𪜈海底尚ホ幾多ノ暗礁出沒シテ航海者ニ危懼ノ念ヲ與フル如キノ觀ナキ能ハサルナリ皮想其完全ヲ示シテ内情稍紛糾ノ患ナキ能ハサルナリ是レ余輩ノ杞憂ニ堪ヘサル所ニシテ又諸君ニ向テ一ノ注意ヲ乞ハント欲スル所ノモノナリ

村山會ハ公共ノ目的ヲ有スルモノナリ村山會員ハ公共ノ心ヲ以テ集會セサルヘカラス又私交上村山會員タル公共ノ資格ヲ忘ルヘカラス若シ公共心ニシテ無カランカ交際上遂ニ軋轢ヲ生シテ兄弟牆ニ鬩クノ觀ヲ呈シ村山會ハ支離滅裂復拾収スヘカラサルノ結果ヲ來タサン果シテ如此ナレハ何ソ能ク其目的ヲ達シテ社會ニ對スルノ本分ヲ盡スヲ得ンヤ豈何ソ他日各人社會ニ立テ艱難ヲ嘗メ盤根ニ遭フノ日相慰メ相喜フノ益ヲ受クルヲ得ンヤ且ツ村山會員ハ他ニ一ノ重キ責任ヲ有スルモノアリ何ソヤ他ナシ東北人士ハ兎角團結ノ力ニ乏シ維新ノ功業ヲ西南人士ニ收メラレ而メ其背後ニ蹤若トシテ回復スヘカラサルノ不名譽ヲ今日ニ遺存セリ是レ東北ノ地勢タル山岳起伏氣候嚴寒活潑ノ運動ヲナスノ不便ナルノ致ス所ナルヘシト雖𪜈抑亦人士ノ公共團結ノ心ニ乏ク割據分裂シテ合同歸一スルヿナキニ之レ依ラスンハアラサルナリ此不名譽ハ吾人起臥忘ルヘカラサル所ノモノニシテ之レカ回復ヲ圖ルハ吾人東北人士ノ義務ナリ而メ村山會員ハ此責任ヲ負荷スルモノナリ嗚呼東北人士團結ノ必要ナル實ニ今日ヨリ甚シキハナシ吾人東北人士ハ宜シク今日ニ於テ團結ノ力ニ依テ西南人士ト拮抗シ以テ多年彼レカ專有スル名譽ト幸福トヲシテ之ヲ我ニ歸セシメサルヘカラサルナリ細故ヲ以テ交際ヲ破リ團結ヲ解クカ如キヿアルヘカラサルナリ彼ノ月山ノ巍々トシテ雲表ニ聳立シ白雪ノ皚々タルハ高尚廉潔ノ氣風ヲ現ハセリ最上川ノ洋々トシテ千里ニ流レ其水勢ノ急激ナルハ剛毅不拔ノ精神ヲ表セリ月山ト最上川トハ吾人ノ師表ナリ鑑ミサルヘケンヤ勗メサル可ケンヤ須ク公共心以テ其團結ノ力ヲ養成强固ナラシメ他日事ニ當ルノ準備ヲナサヽルヘカラサルナリ

夢ニ亡國ニ遊フ

仁科三也君

大厦高樓、甍落チ、檐傾キ、荆棘柱ヲ掩ヒ、蘆菅床ヲ出ヅ、蜘蛛網ヲ結ビ、燕子泥ヲ塗リ、苔滑ニ、草高ク、其寂寞陰鬱、又名狀スベカラズ、蟋蟀露ニ咽ビ、狐狸寒ニ叫ブノ外、他ニ棲息スル者アルヲ見ズ、予未ダ其何者タルヲ知ラズシテ、悽然憂愁先ヅ至ル、老翁アリ、蒼顔鶴髮、秋波額ニ漂ヒ、梓弓腰ニ張ル、氣息奄々將ニ斃レントスル者ノ如シ、予ニ告テ曰ク、是ハ此レ、一天萬乘國君ノ居城ナリ、嘗テ、金銀ヲ鏤メ珠玉ヲ飾リ、三千ノ宮女、錦繡ヲ裝ヒ、菅絃聲濃ニ、舞袖影輕ク、長生殿裏ノ優遊モ、不老門前ノ歡樂モ、皆此ノ閣ノ者ナリキ、然ルニ、一朝豺狼ノ暴敵來リ、人ヲ喰テ飽

クヿヲ知ラズ、硝煙彈雨ノ響ト共ニ、我ガ國君ヲ擒ニシ、遠ク海島ニ幽囚セリ、爾來虎狼ノ衆ヲ送テ、我カ國家ヲ蹂躪シ、暴虐至ラザル處ナシ、我ガ工業製造ヲ窘メ、我カ貿易結社ヲ害シ、我ガ教法教育ノ自由ヲ奪ヒ、我カ出版集會ノ自由ヲ禁ズ、苛稅ヲ課シテ我ガ膏血ヲ絞リ、膏血已ニ盡キテ、暴掠猶未ダ止マズ、勞役ニ驅逐シテ我ガ元氣ヲ殺グ、元氣已ニ空フシテ、又起ツニ力ナシ、見ヨ一掬ノ食鹽ヲ得ント欲スレバ、壯丁數日ノ賃銀ヲ拋タザルヲ得ズ、是レ唯ニ食鹽ノミナラズ、萬般ノ物皆然ラザルハナシ、已レノ額ニ汗シ、已レノ手足ヲ焦シ、已レノ種子ヲ蒔キ、己レノ土地ヲ耕シテ、作リ得タル穀物ハ、皆豺狼ノ餌食トナリ、己レノ腦力ヲ痛メ、已レノ思考ヲ費シ、己レノ腕ヲ揮ヒ、己レノ機械ヲ運轉シテ、作リ出シタル物品ハ、皆暴敵ノ倉庫ニ充ツ、夏夜ハ蚊嘴ヲ防クニ具ナク、冬夜ハ霜雪ヲ凌クニ襖ナシ、兄弟妻子離散シテ、互ニ共行ク處ヲ知ラス、餓莩道ニ横ハレ、骨ヲ拾フノ暇ナシ、嘗テ大家ニ人トナリタル公子令息ト雖モ、皆驅逐セラレテ、或ハ船底ニ石炭ヲ燒キ、或ハ坑裏ニ礦物ヲ堀リ、嘗テ深窓ニ養ハレタル令姫令孃ノ如キモ、亦今ハ豺狼ノ妾婢トナリ、或ハ炊爨ノ苦役ヲ負ヒ、雪ヲ欺クノ麗質ハ、變ジテ黑奴ニ漆スルカ如シ、枯骨老衰翁ノ如キモ亦、重キヲ負ヒテ遠キヲ行キ、一刻片時モ安坐棲息スルヿヲ得ス、何ノ日何ノ時カ、知ラズ此ノ苦痛ヲ脫スルヲ得ン、永野ノ蛇ハ毒アリト雖モ、舉國ノ人ヲ害スルヲ得ス、泰山ノ虎ハ猛ナリト雖モ、之ヲ防グ何ゾ術ナカラン、彼ノ豺狼其レ何者ゾ、赤色ノ帽ヲ戴キ、鐵馬長劍隊一隊、我ガ市中ヲ横行シテ、恰モ傍ラ人ナキカ如シ、今若シ一點ノ不平ヲ吐キ出ス者アレハ、豺狼忽チ之レヲ虐殺ス、切齒扼腕、血涙ヲ揮フニ至ルト雖モ、力足ラザルヲ如何セン、嗚呼、山河丘陵ハ依然トシテ、舊時ノ狀ヲ改メザルモ、國家ハ又我ガ國家ニアラズ、國君ノ宗廟ニシテ猶祀ラス、荒寞委塵今是ノ如シ、況ンヤ衆庶ノ宗廟ヲヤ、翁語リ了ツテ、血涙慘々タリ、予徐ニ其實況ヲ熟視スレハ、暴敵ノ豺狼雲ノ如ノ、霜刃林ヲナシテ日光ニ輝キ、常ニ四方ヲ睥睨シテ、國民ハ恰モ奴隸ノ如シ、否牛馬ノ如ク然リ苛酷……無殘……、未ダ一點ノ苦痛ヲ感ゼザル、局外ノ予ト雖モ、猶血涙ヲ揮ハザル得ス、其衝ニ當ル亡國ノ人民ハ、其レ果シテ如何ソヤ、一聲高ク叫テ、俄然覺メ來レハ、身ハ翠帳紅閨ノ内ニ臥シ、最愛ノ妻ヲ右ニシテ最愛ノ子ヲ中ニ抱ケリ、所謂川字一睡ノ夢ナリキ、嗚呼嗟々亡國ノ民ハ、此ノ川字ヲナスヿ能ハサルカ、

苦痛ト快樂　仝　上

是ハ哲學ニモアラザルベク、心理ニモアラザルベシ、唯、フト浮ミ出セル心ノマヽヲ、筆ノ言フタル迄ナレバ、人讀ミテ呵々ト笑フモ、我關セズ焉、我亦呵々ト笑ヘンノミ矣、

苦痛ニモ快樂ニモ二ツノ差別アリ、肉体ノ苦痛快樂ト、精心ノ苦痛快樂トナリ、サレド、其肉体ト精心トヲ問ハズ、苦痛ナルモノト、快樂ナルモノトハ、全ク別物ニテ、恰モ天地霄壤ノ差別アル樣ニ思ハルヽナリ、即チ、右ノ涯ヲ苦痛ノ極点トスルナラバ、左ノ涯ガ快樂ノ極点ノ樣ニ思ハルヽナリ、然レ𪜈、予ハ頃日考ヒ出セリ、其苦痛ト快樂ハ同一物ニシテ、決シテ別物ニアラズト考ヘ出セリ、譬ヘバ圓キ輪ノ如シ、即チ茶碗ノ緣ノ如シ、其緣ノ或ル一所ヲ、苦痛ノ極点ト假定シ、其ヨリ漸々一方ニ進ムニ從ヒテ、苦痛ノ薄クナルモノト見ルベシ、次第次第ニ薄クナリユキ、恰モ全緣ノ半ノ處ニ到リテ、愈薄ク、最早苦痛有ルカ無キカ分ラヌ程ニナルナリ、若シ苦痛ヲ黑、快樂ヲ赤ト定ムルナラバ、黑カ、赤カ、白カ、分ラヌ處ニ到ルナリ、其ヨリ一髮ヲ進メバ、赤即チ快樂ノ領分トナル、サレド、其處ハ、快樂ノ最モ薄クシテ、有ルカ無キカ分ラス程ノ處ナリ、是ヨリ進ムニ從ヒテ、次第々々ニ快樂厚クナリユキ、最早此上ノ快樂ハナシト云フ、極点迄、進ミユケバ、先ニ苦痛ノ極点ト、假定シタル處ニ至リテ撞キ當ルナリ、即チ苦痛ノ極

点ト、快樂ノ極点トハ、背中合セニナリテアルナリ、左レバ、一ッ輪一ッ茶碗ノ縁ノ物ニテ、是ガ苦痛、是ガ快樂ト、別レテアルモノニハアラズ、歡樂極ッテ、哀情生ズナド云フ事ハ、其背中合セノ處ニテ、是ヨリ彼ニ、鳥渡蹈ミ越タルモノナランカ、扨、此ノ浮世ハ、苦痛ト快樂トヲ以テ、經緯セラルヽモノナレバ、即チ茶碗ノ縁ト同シ、昔ヨリ一休禪師トカ、西行法師トカ、能ク悟道シテ、苦痛快樂ノ境界ヲ、脫離セレナド傳フレド、決シテ眞ニ脫センニハアラズ苦痛ノ最モ薄ク、快樂モ亦薄キ、即チ赤カ黑カ白カ分ラヌ處、或ハ快樂ノ極点ト、苦痛ノ極点トノ中間ニテ、苦痛トモ快樂トモ名狀ノ出來ヌ處ニ、彷徨セシ者ニ外ナラズ、左レド、矢張、此ノ茶碗ノ縁ハ、脫離スルコト能ハズ、今眞ニ此ノ苦樂ノ境界ヲ脫離セントナラバ、全ク茶碗ノ縁ヲ離レテ、茶碗ノ正中ニ立タヂバナラズ、即チ苦樂ノ浮世ヲ去リテ、無我、無他、無無、ノ界ニ至ラヂバナラス取リモ直サズ死ナヂバナラズ、死シテノ後ノ、空焉、寂焉コツ、眞ニ是レ悟道ナレ、」如是、苦痛ト快樂トハ、一環中ノ物ナレドモ其同一物中自ラ差別ナキニアラズ、即チ快樂ハ快樂ニシテ、苦痛ニアラズ、苦痛ハ苦痛ニシテ、快樂ニアラズ、嗚呼自ラ同一ニシテ、自ラ差別アリ、其玄妙、予言フコト能ハズ、唯信ズ、此ノ理法、獨リ苦痛ト快樂ニノミ、適スルモノニアラザル事ヲ、自ラ悟レ天下ノ衆生、喝、

体育ニツキテノ管見

近藤直次郎君

泰西ノ學ハ深遠玄妙ニシテ經國濟世ノ業ハ皆之ニ基キ東洋ノ技ハ精巧優美ニシテ富國利民ノ術皆之ヨリ起ル是ヲ以テ功名ヲ成シ鴻業ヲ企テシトスルモノハ必ス先ツ此學ヲ講シ此術ヲ修ム吾人ノ朝ニ腦力ヲ苦メタ夕ニ軀体ヲ勞シツヽアルモ素是レ此理ニ外ナラサルナリ然リ而メ智ヲ研キ業ヲ修ムルハ彼ノ峻山ヲ越エ激流ヲ溯ルニ均シク忽チニシテ嶇嶇崛立時アリテハ雨雪霏々吾人ノ前途ヲ遮リ忽チニシテ波瀾衝突時アリテハ風霾晦冥舟筏ヲ摧ク故ニ之ヲ越エントスルモノニシテ途ノ危險ニ驚キ攀躋ノ困難ニ忍フ能ハスンハ決シテ其顛ニ達スル能ハス之ヲ航セントスルモノニシテ水ノ奔激ニ駭キ破浪ノ苦楚ニ堪フル能ハスンハ是亦決シテ壯涯ニ達スルヲ得ザルナリ今ヤ我國文物日ニ進ミ事業日ニ張リ其學術ヲ講シ其技藝ヲ修ムルノ難キハ峻山ヲ越ユルヨリモ尙險シク激流ヲ溯ルヨリモ尙急ナリ宜ク剛毅ノ氣ト强健ノ身ヲ以テ之ニ當ラサルベカラサルナリ世間學問ニ攀チ事業ニ航スルモノ其幾万ナルヲ知ラサレトモ能ク其志ヲ遂ケ壯業ヲ全フスルモノヽ少ナキハ皆氣力ノ缺乏ト軀体ノ微弱ナルトニヨルモノナリ夫レ古來ヨリ威績赫々トシテ後世ヲ輝シ功名千載ニ薰スルノ人ハ極メテ氣力ノ旺盛ナリシト史乘ニ徵シテ明ナル事ニシテ此物ヤ目的ヲ完成セシメ其爲スヘキ事業ニ幾多ノ光彩ヲ添フルモノナリ而メ剛毅ナル精神ハ强健ナル身体ニ舍リ强健ナル身体又能ク剛毅ノ氣ヲ興サシメ心ト身トハ常ニ其作用ヲ連絡スルモノナレハ氣質養成ノ基本ハ身体練育ニ在ルヿ言ヲ俟タサルナリ泰西ノ學斯ノ如ク高シ東洋ノ術斯ノ如ク深シ故ニ此學ト術トニ志スモノハ又隨テ心力ヲ勞スルヿ多量ニシテ軀体ヲ苦ムルヿモ亦數多ナルハ止ムヘカラサルノ事ナリト雖モ爲メニ心力ヲ害シ身体ヲ傷ヒ有用ノ才識ヲ抱持シナカラ疾病ノ爲メニ惱マサレ半途業ヲ廢シ空シク窓下ニ呻吟シテ身ノ不幸ヲ哭シ或ハ志業全ク成リ聲名將ニ馳セントシ福利將ニ厚カラントシテ其功ヲ一簣ニ缺キ人ヲシテ天公無情ノ嘆ヲナサシムルモノアリ豈ニ憐ムヘク悼ムヘキヿニアラスヤ此痛ムヘキ境遇ニ陷ルモノハ畢竟腦力ノ費耗ト身体練育ト其權衡ヲ失スルニヨル吾人ハ切望ス我青年學生ハ心意ノ發達ニノミ偏スルナク費耗ト營養ト共ニ適宜ヲ得テ以テ其志業ヲ完成シ其學フ所ノ術智ハ以テ我國ノ文化ト元氣トヲ發揚セシメ修ムル所ノ技藝ハ以テ人民ノ福祉ト安寧トヲ增進セシメサルヘカラサルナリ後章ニ述フル所ハ素ヨリ警世ノ資ナシト雖モ幸ニ体育ノ成業ニ關係アル所ヲ知ル

ヲ得ハ幸甚々々

第一　体育ニツキ諸種ノ弊害及矯正スヘキ事項

規律ナキノ勉强ハ大ニ心力ヲ害ヒ規律ナキノ行爲ハ大ニ成業ヲ妨クルヿハ人皆識ル所ナリト雖モ恬トシテ意ニ屑セス終ニ恐ルヘキ病炎ヲ釀成スルモノ世間少ナカラサルナリ就中腦、胃、近視眼脚氣等ハ書生病トイヒテ吾人青年者ニ尤モ多キモノナリトス夫レ疾病ノ起ルハ其基スル所各異ナリト雖モ此等諸種ノ病ハ多ク不規律ナル勉强ト不規律ナル行爲ヨリ來ルコト大ナリトス世上幾多ノ青年ニハ三更漏盡クルノ深夜孤燈沈々尙案几ニ對シ讀書ニ餘念ナキノ勉强者アリ日暮レテ寢ニ就キ春眠曉鴉ノ喧シキヲ知ラサルノ好睡者アリ常ニ飲食ヲ節セス暴飲豪食私欲ヲ恣ニスルモノアリテ千態萬狀實ニ驚クヘシ而メ其局ヤ業ヲ廢スルニアラスンハ則チ死ニ瀕スルモノナリ是レ洵ニ憂フヘキヿニシテ此等數多ノ弊習ヲ矯正スルハ体育上必要ナルノミナラス今日ノ急務ナリトス前章既ニ論スル如ク學問ノ目的ハ社會ノ秩序ヲ正シ事業ヲ振興スヘキ手段ナレハ此等諸種ノ弊害ヨリ心力ヲ害シ身体ヲ傷クルハ實ニ愚トイハサルベカラス体育ノ事タル易々ノ事ニアラス食物、住居、運動、衣服等悉ク之ヲ論スヘキモノナルモ余ハ現時吾人青年學生ノ舉動ニツキ一二ノ注意ト非点トテ擧ケテ共ニ規正スル所アラントス

第一、日々ノ勉强ハ必ス制限ヲ立テ決シテ度ニ過クベカラサルヿ然ラサレハ心力ノ活動ヲ鈍クシ後來腦病等ノ諸病ヲ釀成ス

第二、飲食物ヲ節シ暴飲豪食スヘカラサルヿ然ラサレハ消化機能ヲ害シ胃腑ヲ虛弱ナラシム

第三、案几ハ成ルヘク高キヲ用ヰ讀書スルトキハ可成姿勢ニ注意スルヿ若シ案几ノ低キニ過キ頭部ヲ垂ルヽヿ甚タシケレハ血液ノ循環ヲ妨ケ腦ノ貧血或ハ充血ヲ起スノ恐レアレハナリ

第四、危坐スルヿノ永キニ過クベカラサルヿ然ラサレハ兩脚ノ發育ヲ妨害シ膝ノ關節ヲ構成スル靭帶ヲ弛メ脛骨ヲ彎曲セシムルノミナラス血液ノ經路ヲ壓迫シ其運行ヲ妨クルニヨリ痲痹ヲ起ス

第五、睡眠ニ過不及ナキヿ若シ之ニ過クレハ却テ精神ノ官能ヲ減退シ不足ナレハ精神ノ疲勞ヲ補フニ足ラス共ニ消化器ノ官能ヲ妨クルモノナリ

第六、住居ノ土他ヲ擇フヘキヿ若シ土地ト地質トニ注意セサルトキハ身体ヲ害シ脚氣等ノ諸病ヲ釀成ス

第二　運動ノ効果及吾人青年ニ適スヘキ技術運動

運動ノ功果ハ單リ筋骨ノ發育ヲ助クルノミナラス直接ニ軀体ニ及ホス所ノ影響ハ洪大ナルモノナリ夫レ血行器ハ之ニ因リテ其壓力ヲ增進シ心臟ノ機能ヲ亢進セシメ呼吸器ニアリテハ肺臟循環旺盛ナルヨリ多量ニ營養氣分ヲ吸收シ其活量ヲ高メ消化器ニアリテハ消化液ノ分泌ヲ增シ胃腸ノ作用ヲ進メ皮膚ニアリテハ其脉管ヲ膨脹セシムルヨリ老廢物質ヲ放散シ体温ヲシテ適度ナラシメ神經系ニアリテハ精神ヲ爽快ニスルヲ以テ神經力ヲ活潑ナラシムル等之ヲ詳說スレハ素ヨリ一朝一夕ノ談ニアラス而メ運動ニハ各部ノ營養ニヨリ其方法モ亦テ隨テ變異アリト雖モ今之ヲ大別スレハ三種ニ過キサルナリ第一ハ規定運動第二ハ自由運動第三ハ技術運動トス規定運動トハ一定ノ規律ヲ立テ筋肉關節ノ順正ナル作用ニ從ヒ身体各部平等ノ發育ヲ遂ケシムルモノ即チ現時官立諸學校ニ於テ行フ所ノ普通体操兵式体操ナリ自由運動トハ散步遊戲等凡テ一定ノ規律ナク各自ノ自由ニ身体ヲ運搖スルノ汎稱ニシテ遊戲中躍戲球戲等ハ能ク体育ノ目的ニ適フモノナリ技術運動ハ一定ノ方式ニヨリ其技術ヲ演習スルモノニシテ即チ劍術、柔術、馬術漕舟水泳等ナリ此三ツノモノ一モ欠クベカラサルモノナレ𪜈第一ハ少年ノ未タ身体發育ノ完成セサルモノニ適シ第二第三ハ共ニ少年青年ニ通シテ其功着シキモノナレ𪜈就中第三ノ諸運動ハ軀体ヲ運營スル

ノミナラス併セテ精神ノ娯樂ヲ兼ヌルヲ以テ勉强ノ後適度ニ之ヲ爲ストキハ鬱悶ヲ散シ意思ヲ爽快ニスル最良法トス

第三　結論

以上述フル所ヲ以テ見ルモ身体ノ健康ハ大ニ事業ノ成否ニ關係シ氣力ノ旺盛ハ學術進歩ニ稗益アルヲ知ルニ足ラン然リ而シテ余ノ運動ノミニツキ數十言ヲ費セシモノハ聊希望ナクンハアラズ夫レ身体健康ノ方法ハ運動ノミニアラサレ𪜈運動ナルモノハ体育上最近ノ方法ニシテ其功果尤モ着シク軀体ニ發顯スルモノナリ故ニ余ハ本論ヲ結ハントスルニ方リ希望スル所ハ世ノ青年學生ハ運動ヲ以テ最近ノ手段トシ勗メテ筋肉ヲ鞏固ニシ志業ノ間縱令ヒ幾多ノ嶮峻アルモ又幾多ノ激浪アルモ之ニ忍フヘキ健康ナル身体ヲ養成シ之ニ堪フルノ剛毅ナル氣象ヲ發育セシメ他日嶮峻山顛ニ旌旗ヲ翻シ激浪埠頭ニ凱歌ヲ奏スルノ功業ヲ立テラレンヿヲ渴望シテ止マサルナリ

親睦ヲ得ル方法

小松太次郎君

軍略ヲ以テ芳名ヲ後世ニ輝カセシ楠氏曰ク軍ノ勝敗ハ兵ノ多少ニアラズシテ離同ニアリト善イ哉言ヤ凡ソ物孤立スルトキハ必ズ破レ集ルトキハ必ズ成ル人ニ於テモ亦然リ各人苟モ其心ヲ心トシ協心同力スルヤクンハ大ニシテハ國家ノ隆盛鞏固ヲ計ル能ハズ小ニシテハ大事業ノ成就ヲ見ルヿ難シ看ヨ看ヨ彼ノ一掬ノ水一培ノ土ハ素ヨリ恐ルヽニ足ラサレトモ之ヲ集ムレバ忽チ滔々タル大河モ現出スベク巍々タル峻嶽モ造ルベシ無生物集合ノ勢力猶ホ此ノ如シ況ンヤ有生物ニ於テオヤ彼ノ蠢爾タル蟻ヲ見ヨ指頭ヲ以テ捻殺スルニ足ラズ然レ𪜈其群集スルニ至ツテハ能ク其身數倍ノ物品ヲ容易ニ運搬スルノミナラズ甚シキハ万里ノ長堤モ其孜々トシテ構造スル穴ヨリ破壞スルニ至ル殊ニ萬物ノ靈長トシテ智能ヲ有スル人類ノ協心同力スルニ於テハ何事カ成ラサラン唯其協心同力ノ度ノ多少ニ

アルノミ彼ノ天正ノ際中國ノ英雄トシテ威ヲ中國ニ奮ヒタル毛利元就氏其卒スルニ臨ミ隆景元春等ヲ病床ニ近ケ各一矢ヲ採リ來ラシメ戒メテ曰ク一矢ハ折レ易シ然レ𪜈此數矢ヲ合スル中ハ如何ナル多力者ト雖𪜈此ヲ折ルニ由ナシ卿等須ラク協心同力シテ宗家ヲ保護スベシト嗚呼毛利氏カ數百年間ノ名流トシテ尊重セラルヽモノ同族諸氏ノ協心同力シテ宗家ヲ保護シタルニ是レ賴ラスンバアラズ協心同力ノ勢力已ニ此ノ如シ現今日本國ノ狀況タル土地廣大ナルニアラスト雖𪜈人口無慮四千万人寡キニアラス若シ此衆ニシテ協心同力スルアラバ英佛ノ强ト雖𪜈恐ルヽニ足ラス强暴ノ暴ト雖𪜈憂フルニ足ラザルナリ共同ノ功豈ニ大ナラズヤ由此觀之世間万事大業ノ成ル皆此共同ノ力ニ依ラスンハアルベカラス

然ラハ此最モ必要ナル協心同力ヲ得ルニハ如何他ナシ各個人ノ親睦ニアルノミ其親睦ヲ得ルノ方法コヽ余ノ以下ニ論究セント欲スル所ノモノナリ

抑モ親睦ニ厚薄アリト雖𪜈要スルニ各人互ニ心ヲ知ルヿヲ必要トス詳言スレバ交ラントスル人ノ性質如何ヲ深ク探究シ過去現在ノ行爲ヲ調査シ將來施サントスル處ノ方針等ヲ詳知スルニアリ而シテ此ヲ知ルニハ如何言論文章及ビ所爲ヲ以テ各自ノ意思ヲ發表スルニアルノミ世人往々宴會又ハ遊技等ヲ以テ親睦ヲ得ルノ方法トシテ其當ヲ得タルモノト爲ス是レ實ニ謬レリ昔時ヨリ親睦方法トシテ宴會又ハ遊技ヲ採リタルモノハ唯酒食ノ力ヲ藉リ談笑ノ間平易ニ平素ノ意見ヲ吐露シ腹藏ナカランヿヲ欲スルニアルノミ然ルニ今日ノ所謂親睦會ナルモノハ唯是レ酒食ノ爲ニ集會スルニ過キス然ルニ世人直ニ宴會又ハ遊技ヲ以テ親睦ヲ得ルノ方法ト爲セリ奚ゾ此ノ如クニシテ眞正ノ親睦ヲ得ベケンヤ其人ヲ信シ其人ト親ムニアラザルヲ以テ一朝事アルノ日ニ於テハ素ヨリ以テ賴ムニ足ラザルハ當然ノ事ナルモ甚シキハ朝ニ刎頸ノ交ヲ爲スカ如キモノニシテ夕ニハ仇敵ノ思ヲ爲ス者アリ嗚呼是レ果シテ何

等ニ基因スルカ唯親睦ヲ得ルノ方法其當ヲ得ザルニアルノミ古諺ニ曰ク利ヲ以テ集ルモノハ利ヲ以テ散スト宜ナル哉言彼等ハ只利ヲ以テ集ル故ニ其利ノ爲ニ散スルヤ又深ク怪ムニ足ラザルナリ蓋假想的ノ親睦ハ小人ノ好ム處ニシテ酒食ヲ以テ買フヿヲ得ベシ故ニ宴會又ハ遊技ヲ以テ此ヲ得ルノ方法ト爲スモ不可ナカラン然レ𪜈眞正ノ親ハ決シテ小人ノ爲シ得ル處ニアラス酒食ノ能ク買フヿヲ得ル者ニアラス必スヤ各人互ニ其心ヲ知リテ相方間一ノ疑團ヲ存セス利害ノ關係ヲ共ニスルヲ必要トス

果シテ然ラバ親睦ヲ得ルニハ宴會又ハ遊技等ノ如キモノ少モ用ナキカ否決シテ然ラズ只此等ノ者ヲ以テ主要ノモノト爲スヲ欲セサルノミ故ニ前陳ノ如ク各人互ニ其心ヲ知ルベキ演說討論談話等ヲ以テ第一主要ノモノトシ宴會或ハ遊技ヲ以テ此ヲ補助セバ完全ト云フベシ去レバ宴會遊技モ又必要ナリト云フベキナリ而シテ衆多人ノ間ニ於テ此所謂眞正ノ親睦ヲ得ントスルハ決シテ容易ノ業ニ非ズ何トナレバ人心ハ其面ノ如ク同一ナラズ此同一ナラザル衆多人間ニ於テ互ニ人心ヲ知リ利害ノ關係ヲ共ニスルカ如キハ至難ノ事タルヲ以テナリ去リナカラ難易ハ素ト是レ其方法ノ如何ニヨリ變ズルヿヲ得ルモノナレバ其方法ニシテ可ナランカ之ヲ遂クルニ於テ又何カアラン凡ソ事ヲ爲シ事ヲ遂グルニハ必ズ順序アリ階級アリ彼ノ小ヨリ大ニ近ヨリ遠ニ易ヨリ難ニ及ボスモ皆此ニ依ラズンバアルベカラズ故ニ各團体ノ親睦ヲ得ント欲セバ先ツ一團体ノ親睦ヲ得ザルベカラズ一般ノ合同ヲ計ラント欲セバ先ツ一隅ノ合同ヲ計ラザルヘカラズ各團体ノ親睦一般ノ合同ヲ得ル易カラザルモ一團体一隅ノ親睦ヲ得ル豈ニ難カランヤ已ニ一團体一隅ノ親睦ヲ得レバ此ヲ引テ一般ニ及ボス又易々タルノミ然レバ則チ一國一縣ノ親睦ヲ得合同ヲ求ント欲セバ先ツ利害ヲ共ニシ榮譽ヲ同フスル一郡一鄉ヨリ始メズシテ他ニ道アランヤ我カ村山會ノ起ル又此處ニ基スルカ

噫諸君ヨ利ヲ以テ友トスルカ如キ小人ハ知ラス苟モ活潑有爲ヲ以テ自任スル堂々タル男子タルモノ眞正ノ親睦ヲ得ント欲セバ余カ主張セル前段ノ方法ニヨルノ外ハアラス請フ猛省セヨ

試ニ此理論ヲ我カ村山會ニ徵セン最モ利害ヲ共ニシ榮辱ヲ同フスル吾々同鄉人士カ親睦ヲ得ルヲ重ナル目的トナシ此處ニ一ノ村山會ヲ組成シタル以上ハ本會ト共ニ斃レ共ニ死スルノ決心ヲ以テ本會ノ目的ヲ達スルニ勉メザルベカラザルハ本會組成ノ分子即會員タルモノヽ免ルベカラザルノ責任ト云フベシ

由此觀之村山會ノ目的小ナラス此ヲ組成スル會員ノ責任又輕カラス然ラバ之ヲ達スルノ方法如何此レ余カ前ニ陳述セル理論ハ全ク此處ニ適合セルモノニテ本會ノ目的ヲ達スルニハ衆多人即會員各目ノ共同一致ニヨラスンバアルベカラス而シテ其共同一致ハ親睦ヨリ生シ親睦ハ利害ヲ同フシ榮譽ヲ共ニスル一小區域ヨリ始メ言論文章等ヲ以テ各自ノ思想ヲ知ラシムルニ起因スト然ラバ本會ニ親睦ヲ組成セル要素トナルベキ言論文章ノ道完備スルカ言論中重ナル演說ハ如何討論ハ如何談話ハ如何文章ハ如何此中最モ余カ疑團ヲ置クハ討論ニアリトス曩ニ某君ノ建議ニヨリ討論ノ實行アリシモ果シテ如何ナル理由ニ基キシカ僅ニ一二回ニシテ其跡ヲ斷テリ然ラバ則チ本會隆盛タルベキ一元素ヲ欠キタルモノト云フベシ惜イ哉

「井ンドー、スペース」ノ解

客員　井上章吉君

window space（窓ノ光線ノ入ル、面積）ハ其室ノ種類即チ講學室、食堂、應接所、書齋、寢室等ニヨリテ各異ナルベケレ𪜈要スルニ充分ノ光線ヲ入ルヽヲ以テ主眼トス、余カ學ビタル法式ハ左ニ

Cハ室内ノ空氣ノ容量ノ立方積 $\sqrt[c]{\ }$ ハwindow spaceノ平方英尺然ルトキハ $\sqrt{c}=\sqrt{216}=$（window space）Bハ室内

ノ廣サ H ハ其ノ高サ然ル ニ $\frac{B+H}{8}$ ＝窓ノ廣サナリ

窓ノ高サト廣サハ外觀ヲ斟酌シテ其宜シキヲ用ユベシト雖モ通例ハ高サ＝2×W 或ハ $2\frac{1}{2}$×W ナリ室內容積ノ100或ハ125立方積每ニ一窓ヲ設クルヲ以テ通例トス故ニ $\frac{100\text{或ハ}125}{50\text{或}55}$ ナリ病院ノ如キ分外ニ多クノ光線ヲ要スル場合ニハ $\frac{c}{50\text{或}55}$ トス若シ窓ノ數ヲ多クスヘキ場合ニハ以上ノ式中ノ分量ヲ窓ノ數ニ配分シテ可ナリ、窓ノ位置ハ床(floor)ヨリ窓ノ基ニテ二英寸七インチヲ以テ通例トス故ニ窓ノ高サヲ外觀ノ許ス限リ高クスレハ光線ノ点及ヒ空氣ノ流通ノ点ヨリ見ルモ良法ナリト謂フヘシ

夢ノ記

客員　高梨利雄君

好眠子一夜机ニ對シテ讀書ス睡魔頻リニ子ヲ誘何有鄕ニ導ク偶々在京ノ學友某來リ訪フ某ハ嘗テ子カ在京ノ時ニ訂交セシ益友ナルヲ以テ喜ヒテ之ヲ迎フレハ何ソ圖ラン蓬髮乱散襤褸僅ニ体ヲ掩フニ足ルノミ子其某カ往時美服燦爛一箇ノ貴紳土タルニ耻チザリシヲ追想シ驚嘆措ク能ハス唯嘿々某ノ顏ヲ注視スルノミ某徐ニ曰ク好眠子何ソ驚クヲ爲サン予斯ノ容姿ヲ以テ子ニ面スルハ最モ快トセサル所ナレ𪜈子今教育ニ從事スルヲ以テ予カ此ニ至リシ歷史ヲ語ケテ以テ大ニ子ヲ警戒セント欲ス子請フ之ヲ聽ケ、予カ子ト同窓學ヲ勸メシ時ハ予ハ自分ナカラ予ノ勸勉ニ驚キシ蓋シ予カ發鄕ノ時父母鄕党子ヲ郊外ニ送ルニ當リ予カ高ラカニ男兒立志出鄕關、業若不成死不還ト唱吟シテ辞シ去リシ狀況ハ常ニ目ニ存スルヲ以テナリ爾來子ト別レ子ハ故山ニ歸リ予ノ獨滯京シタルニ當リテ東京ノ紅塵ノ濛々タルハ忽チ予カ志氣ノ清廉ヲ汚シ艶妖媚ヲ賣ルノ纖手ニハ直チニ予カ勇氣ノ堅固ヲ摧折セラレ優柔不斷懶惰放逸ノ身ト變シテ今日ハ淺草上野明日ハ芳原洲崎日トシテ机ニ對シテ學ヲ勸ムルヿ無シ故鄕ノ父母ヨリ贈ラルヽ學資ハ敢テ寡シトハ云フヿ非サレ𪜈之ヲ掌握スル每ニ無益ノ事ニ消費シ去リテ顧ミルヿ無ク剩ヘ貴重ノブックハ親愛ノドレッスト俱ニ之ヲ質屋ノ庫ノ食客ト變セシメテ再ヒ世ニ出ツルヿ能ハサラシムルノミナラス予自身モ亦外出ダニ爲スヿヲ得ス依テ信書ヲ認メテ病氣ト欺キ書籍購求ト詐リテ金錢ヲ絞リ取リ父母朋友ヲ煩ハセシヿ其數ヲ知ラス然レ𪜈終ニ志ヲ回シ思ヲ改ムルヿヲ得スシテ可惜月日ヲ經過セリ回顧スレハ爾來殆ト十年一ノ學得シタル所ナク依然タル呉下ノ舊阿蒙ト云ヘハ大ニ自負スル所アレ𪜈予ハ實ニ舊時ノ予ニ如カサルヿ萬々ナリ今ニシテ之ヲ思ヘハ當初ヨリシテ上京セス彼ノ田圃ヲ耕シ彼ノ荒野ヲ耘リ以テ我財ヲ增殖スルノ優レリト爲スニ若カサルナリ今ヤ歸ルニ道ナク依ルニ人ナク困迫憂愁爲ス所ヲ知ラス嗚呼故國ノ山水今尙ホ舊ノ如ケン父母兄弟朋友モ亦舊ニ依リテ健全ナラン然レ𪜈予ハ今何ノ面アリテ其山水ニ逍遙シ其父母兄弟朋友ニ接センヤ嗟呼々々將サニ之ヲ如何セントスルカト其ノ顏色看ル々々蒼白土ノ如ク涕淚滂々トシテ下リテ予カ面ニ濺ク予驚キテ之ヲ拭ハントシテ眼ヲ開ケハ四顧闃寥人影ナク夜已ニ三時机上ノ洋燈汕已ニ盡キテ明又滅予カ身ハ依然机ニ凭リテ假寐シツヽ在リシ

嗚呼夢ナル哉夢ナル哉、夢ナレハコソ能ケレ、若シ事實ナラシメハ予ハ實ニ憂愁ニ堪ヘサルナリ、夫レ夢ナル者ハ偶然ニ生スル者ナラス當サニ平素實驗シタル現象カ睡裡ニ再現シ來リタルニ過キサルヘシ夢ノ起因ヲシテ果シテ然ラシメハ予ハ如何ナル實驗アリテ此夢有リシカ、予ハ固ヨリ夢裡ノ某ニ對シテハ斯ル事有リシヿヲ實驗セサルノミナラス曾テ想像ダニモ浮ヒタルヿ無シ而シテ予カ信愛スル學友ハ悉ク謹直方正ニアラサレハ勤勉鋭意、學ニ從事スルヨリ外ニ餘念アルヿ莫ク身ヲ放蕩ニ委シテ志ヲ摧折シタルヿハ決シテ之レ有ルヿ無シ、而シテ今忽チ此夢有リ、不可思議ナル哉予カ夢、奇怪ナル哉今宵ノ夢、予實ニ予カ夢ノ起因ヲ知ル能ハサルナリ

然リト雖モ予常ニ思ラク東京ニハ良師良友多々之レ有リ

ト雖モ少年輩ノ學問スヘキ處ニアラス何トナレハ鄉里必スシモ眞師友ナキニアラス又必スシモ研學ノ資ナキニアラス鄉里ノ師友ニ質シ鄉里ノ學問ヲ修メ盡シテ然シテ后ニ東京ニ出ツル固ヨリ其順路ナレハナリ然ルニ少壯血氣未タ定マラス志慮未タ確カラスシテ東京ニ出ツルトキハ東京ノ繁華ニ其志氣ヲ挫折セラレテ困斃ニ陷ルノ恐ナキ能ハスト予ヤ此想像ヲ懷クヿ久シ常ニ諸生ヲ誡メテ曰ク羽毛未タ成ラス以テ高飛スヘカラスト此是想像ハ予ヲシテ今宵ノ夢アラシメシ所以ナランカ嗚呼夢ナル哉々々々々予カ今宵ノ夢ハ予ヲシテ大ニ教育ノ方針ヲ悟了セシム何ソ一宵ノ夢想トシテ雲烟過眼ノ觀ヲ爲スヲ得ンヤ昔者堯帝夢ニ華胥ノ國ニ遊ヒテ怡然自得スル所アリ是ヨリ天下泰平ナリ高宗夢ニ傅說ヲ得テ國家ヲ鎮メ後醍醐帝夢ニ楠公ヲ得テ西狩ノ車ヲ回シタリト其事虛誕ニ近シト雖モ好眠子ハ實ニ夢ニヨリテ大ニ教育ノ方針ヲ悟了ス夢豈ニ輕々視スルニ足ランヤ玆ニ禿筆ヲ揮テ之ヲ記ス

法律ノ性質並ニ法律家ノ重ス可キヲ論ス

杉原小八郎君

我カ國民一度ヒ口ヲ開ケハ歐米ノ文化ヲ羨ミ一度ヒ口ヲ閉ツレハ本邦文化ノ尙ホ幼稚ナルヲ歎シ筆ニ海軍ノ擴張ヲ論スルト雖ヒ勢ヒ軍艦ノ製造ヲ列國ニ依賴セサルヲ得ス演壇ニ法律ノ編纂ヲ促スト雖ヒ勢ヒ編纂ノ勞外人ノ手ニ賴ラサルヲ得ス噫之レ何等ノ境遇ゾヤ噫之レ何等ノ原因ゾヤ即チ本邦人士ノ腦中理學思想ノ幼稚ト法律思想ノ缺乏ニアリト云ヘサルヲ得サルナリ其レ然リ然リト雖ヒ法律學ニ至リテハ獨リ思想缺乏ノミナラス獨リ思想ノ幼稚ナルニ止マラス反テ之ヲ猛虎視シ猛狼視ス諺ニ曰ク坊主憎クケリヤ袈裟マテ惡クシト法律ノ適用馬師ナヤリヲ一ノ妙ヲ得デモスヒヲスノ辨アル法律家ト雖ヒ尙ホ之レヲ蛇蝎視シ共ニ社會外ニ排斥セントスルノ感念ヲ抱ケル傾向アルヲ見ル實ニ奇怪ニ堪ヘサルナリ嗚呼法律ハ虎狼ニアラス害惡ヲ社會ニ流スモノニアラス法律家ハ蛇蝎ニ

アラス嫌惡スヘキ者ニアラサルナリ余今之レヲ思ヒ之レヲ考フルニ及ンテ轉々感慨ノ情禁スル能ハス是ニ於テカ本題ヲ掲ケ諸君ノ一讀ヲ煩ハサント欲スル處ナリ

抑モ法律ハ一種ノ權力ニシテ國家之ニ依テ其秩序ヲ存シ人民之レニ據テ安寧ヲ保持スル者ナリ」觀ヨ佛帝ナポレオン第一世百戰ノ末帝位ニ登ルニ及ンテ當時佛國ノ狀体ヲ觀察スルニ各郡各州其ノ順守スル處ノ法規ヲ異ニシ個々獨立ノ形アルヲ見ル是ニ於テナポレオン思ヒラク人民個々獨立シテ其ノ守ル處ヲ異ニスルニ於テハ一國ノ統馭望ムヘカラサルヲ覺リ即チ新法律ヲ發布シ人民ヲシテ盡ク之レニ服從セシト其ノ守ル處ヲ一ニシ以テ佛國ヲ平定シタルニアラスヤ又タ中古ヲ想見スルニ人民各處ニ散居シテ一少村落ヲ作リ各其ノ守ル處ノ法規ヲ異ニシ苟モ一國內ノ人民ト雖ヒ恰モ夷狄人視スルノ感念ヲ抱キ落門ニ他村ノ者入ルヘカラスト大書ス而シテ內幕ニ至リ之レカ法規ヲ觀察スルニ他村者ト結婚ヲ禁スル條文ノ規定アルナリ今ヤ是等ノ人民ヲシテ其ノ能ク守ル處ヲ一ニシ團結ヲ確固ナラシメ國家ノ秩序ヲシテ整然タラシメント欲セハ一ニ法律ノ力ヲ借ラスンハアル可ラス

法律ノ効力果シテ前述ニ存セハ其効ヲ奏センニハ必ス優勝劣敗ノ原則ニ基カサルヲ得ス即チ社會ハ社會進化ノ最適者カ生存處ナリ所謂社會ノ進步ニ伴フ者ハ進化ト共ニ生存シ社會ノ進步ニ逆フ者ハ除去セラレ優ル者ハ勝チ劣ル者ハ敗ル所以ナリ之レト同ク苟モ法律ニ服從スル者ハ保護セラレ法律ニ逆フ者ハ罰セラル是レ則チ法律ハ法律ニ逆フ者ヲ責罰シ法律ニ從フ人民ノ安寧ヲ保護スル所以ナリ

又タ曰ク法律ハ文化ノ反照ナリ換言セハ法律ハ其國ノ人情風俗文化等ヲ代表スル者ナリ即チ未開ノ國ニハ未開ノ法律アリ文明國ニハ文明ノ法律アル者ニシテ安ンゾ野蠻國ニ文明ノ法律アリ文明國ニ野蠻ノ法律アル理アランヤ觀ヨ日本中古ニ於テハ一藩一鄉ノ人ヲ以テ一國ノ要地ヲ

占有シ上ニ帝室ノ威嚴ヲ蔑シ下ニ專横跋扈ヲ恣ニシ自己ノ私利是レ事トシ人民ノ承諾如何ヲ問ハス己レノ欲意ニ任シ租税ヲ課シ或ハ己ノ憤怒ヲ霽ラサン爲メ己ノ强欲ヲ逞セン爲メ戰端ヲ開キ數千万ノ生命ヲシテ空シク雲煙ニ化セシメ徒ニ一落一鄉ノ人ヲ肥サン爲メニ全國ヲ擧ケテ之レカ犧牲ニ供シタルニアラスヤ余今考一考センニ萬民平等ノ權利地ニ脫落シ人倫ニ違背ス噫之レ何等ノ悲境ゾヤ噫之レ何等ノ處業ゾヤ其ノ慘憺ノ狀例フルニ言葉ナシト雖ヒ如何セン當時在朝在野ノ人士恬トシテ疑ハザル者中古ノ人智ト法律ノ定度其ノ宜シキヲ得タル所以カ豈然ラサルヲ得サランヤ

前論シタル如ク我國四五十年前ニハ世間知ラスノ高枕ニシテ支那朝鮮ノ外他國アルヲ知ラス而シテ國民中二三ノ外盡ク偏頗偏重ノ苛政ヲ甘受スト雖ヒ一朝開港論勝ヲ制シ歐米トノ通信繁劇ナルニ及ンテ該國政府カ施政ノ術常ニ其當ヲ得人民自由ノ文化ニ安居スルノ榮忽チ我國民ノ腦漿ヲ刺激スルト同時ニ我カ政海ニ一大猛浪ヲ起シ忽チ國民ヲシテ不平心ヲ起サシメ遂ニ國民之レカ封建政治ノ下ニ生息スルヲ欲セス是ニ於テカ滿腔ノ熱血ヲ吐露シ懸河ノ辨ヲ奮ヒ封建政体ノ非ヲ痛論シ新聞ニ建白書ニ立憲君主政体ノ必要否ナ順據スヘキヲ論ス噫何等ノ榮賀ゾカ今ヤ封建政体ヲ廢除シ立憲政体ニ移ラントシ我々待チニ待チタル明治二十三年ノ寶年ヲ迎ヒ自治体ヲ組織シ國會ヲ開設シ外ハ萬國ト對等ノ權利ヲ維持シ内ハ國民自由ノ權利ヲ保護スル所以ンノ者ハ之レ人智ノ發達ト法律ノ發達ニ由テ然ラシムル處ナリ

嗚呼法律ハ國ノ機關ナリ國ノ權力ナリ果シテ然ラハ之レカ運用ヲ司ル機關師ナカルヘカラス之レカ實行ヲ司ル適用者ナカル可ラス是レ法律家ノ依テ存スル所以ナリ然ルニ往々法律家ヲ目シテ閻魔王ナリ詐欺師ナリトシテ苟モ法律ノ二字ヲ口ニスルモノトハ共ニ伍セサラントスルノ感念ヲ抱キ恰モ嬋妍タル處女美髯公ノ御懸想ヲ辱フシ媒的八百口ヨリ說キテ姻談將サニ調ハントスルモ肝要ノ御職務カ裁判官警察官代言人ト聞クニ於テハ忽チ妖艶タル姿ニ似氣ナク顏ニ紅葉ヲ散ラシ遠山ノ眉ヲ顰メ芙蓉ノ眦ヲ逆立テ口頭泡ヲ飛ハシ口ヲ極メテ拒絶スルノ傾向アルヲ見ル（ヨモヤ期クハアラサルヘシ）實ニ歎一歎ニ堪ヘサルナリ實ニ奇怪ニ堪ヘサルナリ嗚呼法律家ハ閻魔王ニアラス恐怖スヘキ者ニアラサルナリ詐欺師ニアラス嫌疑スヘキ者ニアラサルナリ

夫レ法律家ハ一己人權利ヲ主張シ以テ萬民ノ自由ヲ保護スルナリ法律家ハ國權ヲ主張シ以テ國家ノ獨立ヲ保護スルモノナリ眼ヲ開テ佛國ノ歷史ヲ見ヨ王室己ニ暴虐貴族己ニ驕恣ナルニ及ンテ袖ニ悲歎ノ涙ヲ拂ヒ萬腔ノ勇膽ヲ皷舞シ一身ヲ犧牲ニ供シ彼ノ王室ヲ顚覆シ彼ノ貴族ヲ蹂躪シ手足尙ホ暖タカナル屍積シテ山ヲナシ淋漓タル鮮血流レテ巴里ノセーン河ニ漂フト同時ニ自由ノ旗ヲ颯風ニ乘シ巴里ノ大空ニ翻シ而シテ佛國ノ自由ヲ壓制ノ血流ヨリ援ヒ得タル者之レ佛國當時ノ法律家其ノ主魁ナラズヤ眼ヲ轉メ米國大革命ヲ見ヨ英國ノ苛政虐待ヲ憤リ獨立ノ義旗ヲメミシシッピーノ流レト共ニ米國中原ニ閃々タラシメ英名ヲロッキー山ノ高キト共ニ萬國ニ赫々タラシメタル者即チ佛國民權家ラフエット其人ニアラスヤ而シテ同國獨立以來大統領タル者ワシントングランド及ヒジャクソンノ三氏ヲ除クノ外盡ク代言人ヨリ出テサルハナシ唯ニ之レノミナラス今年選擧ノ大統領ベンジャミン、ハリソン氏又タ代言人ヨリ出テタルナリ亦タ同國々會議員タルモノ十中八九皆代言人ヲ以テ充塞ス是レニ由テ之レヲ見レハ法律家ノ名譽豈大ナラスヤ法律家ノ勢力豈又盛ナラスヤ

嗚呼苟モ國家ノ隆盛ヲ計リ國家ノ秩序ヲ整然タラシムル者法律ヲ措テ他ニ道アラサルナリ然ラハ米國ノ獨立、佛蘭西百年ノ盛時、日本今日ノ隆盛、唯タ之レ法律ノ力ニ依ルカ否ナ法律家ナクシテ可ナランヤ嗚呼法律ハ國家ノ基

礎ナリ法律家ハ國家ノ桂石ナリ豈輕々ニ觀過スベケンヤ豈ニ忽セニスベケンヤ

青年ニ對スル勸言

イー、エッチ、シヤピン　著
安喰長三郎君譯

如何ナル事業ニモ關與シ得ベキ青年諸君、諸君ハ人類事業ノ嚴肅ナル物体ハ尤モ高尚ナル希望及ビ尤モ尊重スベキ目的ニ對シ猶ホ種々ノ術策アルヿヲ忘却セザルベカラズ、生活ノ出立ハ郁郁タル花冠ヲ搜索スル彼ノ愉快ナル胡蝶ノ如ク啻ニ快樂ノ搜索者タラントノ觀念ヲ抱キテ前進スル勿レ、生存ノ眞實ナル目的ニ關シ熟考以テ活働スベシ

此ノ茫漠タル宇宙ハ神聖ナル生活ノ關門ナリ諸君ガ生活中ノ各活戲ハ永久後人ノ膾炙スル所トナル、諸君ノ意中ニ於ケル此レ等ノ思考ト感情ハ不朽ナル精神ノ搏脈ヲ感亂スルナルベシ、暫クモ山河ヲ跋涉シ、丘岡ヲ逍遙シ烱然タル日光ヲ愛シ、新鮮ナル空氣ヲ呼吸スル人々ハ此生活ヲ單ナル天造物トシテ活働スル勿レ諸君ガ高尚ナル天性ノ目的及ビ企圖ノ價値ヲ以テ永久トシテ活働シ且ツ運動シ決シテ一目的若シクハ一企圖ノ外着目スル勿レ、

宇宙ニ於テ重大ナル物体ガ攫取シ得ルノミ諸君ガ前面ニ座スルモノ是レ優美ナル目的ナリ――羨仰スベキ希望則チ完全ナル目的！青年ノ花環凋衰ノ時機至リ、權力ノ位階、活働ノ遺物共ニ塵埃ニ碎歸スルノ時機至ルモ、一定不變ニシテ美麗ニ生存スベキ事業ノ竣功ニ努力セヨ、結局一事ヲ成遂スベキ正鵠ハ此レ等人生ノ變遷、滅亡ノ嘆聲無限ニ靜默スルノ時、永久生存ノ詩ヲ賦シ凱歌ヲ唱ヘテ以テ生活スベキナリ

各々ノ結果ニ於テ諸君ヲ補佐シ、各々ノ誘惑物ニ於テ諸君ヲ防禦シ、各々ノ悲嘆ニ於テ諸君ヲ慰撫スルノ先導者ヲ諸君ガ意志ニ有スルハ諸君ノタメニ慶賀スベキノ一事ナリ、事ノ大小ヲ問ハズ先導者ト討議セヨ、其者ノ訓誡ハ決シテ諸君ヲ衰弱セシメザルナリ、眞實ヲ踏ミ善良ヲ追ヒ深遠ナル大志ヲ以テ其者ニ計リ靈妙ナル事實ヲ以テ諸君ノ事業ヲ赫々タラシムベシ

諸君ノ精神ヲ開キ此ノ神聖ナル勢力ヲ呼吸シ凡テノ欠乏ヲ滿スベシ、其ノ勢力ヲシテ諸君ノ心中ニ緊接セシメ惡事ノ突擊ニ抗抵スル矛盾トナスベシ、落膽悽衰ノ際ニ當リテ其ノ意見ヲ叩クベシ如何ナル朋友カ之レニ過ルモノアラン、生活ノ航路、困難ナルニ當リテ之ヲ開キ見ヨ、正ニ確固タル海圖タルベシ、貧窮ナルニ際シ之ト苦難ヲ共ニセヨ無限ノ富ヲ得取スルノ良因タルナラン、病床ニ臥スルニ當リテ之ト共ニ談議セヨ、靈魂ノ良藥之レニ超ユルモノアラザルベシ、死ニ至リテハ之ヲ懷抱セヨ此ノ勢力ヤ實ニ永久生存ノ特許ナレバナリ (charter of immortality).

國家ノ富强策ハ工業ヲ隆盛ナラシムルニアリ

安喰長三郎君

古今ヲ問ハズ將來ニ關セズ生存競爭ナルモノハ社會ノ原則ニシテ弱肉强食ハ社會ノ原理ナリ而シテ往古ノ强者ナルモノハ腕力的ノ强者ニシテ一己人ガ一己人ニ對比セル武力的ノ强者ナリ弱者ト稱スルモノ亦各人相互腕力的ノ弱者ヲ指呼セシモノナリ、彼ノ「ゴール」人ヲ制服セシ「フランク」人、「ブリテン」ヲ侵略シタル「ノーマン」人、世界ノ大王ト稱呼セシ歷山王、歐洲南部ヲ統一セシ「チヤーレマン」大帝ノ如キ皆古ノ强者即チ腕力的ノ强者ノ地位ニ立チタルモノニシテ皆此レ鐵ヲ奮ッテ富ヲ攫ミタルノ英傑ナリトス

是レ此ノ如ク往古ニアリテハ腕力富ヲ制スルノ時勢ナリシヲ以テ當時ノ國家富强策タル啻ニ鋭刄鋒鎗ヲ研磨シ武力ノ强盛ヲ是レ勉メ工業ノ如キニ至リテハ各國皆之ヲ顧慮スルノ士ナク漸ク發育シタルノ芽芽モ忽チ枯衰ノ狀ニ

陷リ腕力ノ氣焰ハ瞳々乎トシテ中天ヲ軋リ希臘ノ美術ヲ覆ヘシ羅馬ノ建築ヲ蹂躪シ埃及ノ殿堂ヲ燒キ拂ヒテ殆ント餘灰ノ再盡ヲ止メサルハ世人ノ常ニ追憾措ク能ハザル所ナラズヤ夫レ然リ而シテ星移リ物變リ進化力ナル一種ノ强風ハ歐洲全土ヲ一掃シ「ワット」ノ大發明ハ工業ノ餘灰ヲ炎々タラシメ雲龍相逢フノ勢ヲナシ一ノ必要ハ一ノ發明ヲ生ジ一ノ發明ハ更ニ一ノ必要ヲ生ジ進歩ヨリ進歩ニ進ミ發明ヨリ發明ニ移リ僅々タル五十星霜ニシテ此等ノ大作用ハ進化力ヲ益〻强勢ナラシメ突亢トシテ腕力的ノ社會ヲ震駭シタリ、是レ第十九世紀ノ進化力ナリトス、進化力ハ蒸氣機關ト歩ヲ競ヒ往古ノ如キ粗暴野蠻ナル富强策ヲ許サヾルノミナラズ武力的ノ弱肉强食ヲシテ工藝上ノ弱肉强食ニ變セシメタリ、活眼ヲ開キテ彼ノ佛、獨、墺、四强國ノ中間ニ孤立シ僅々タル三百有餘万ノ人口ヲ擁スル瑞西國ニシテ多少ダモ他ノ侮慢侵害ヲ受クル事ナク國人擧ゲテ太平ノ春ヲ唱ヘ哺ヲ含ミ腹ヲ擊ツ所以ノモノハ抑モ何ニ由リテ然ルヤ其ノ隆盛ナル時計製造業ノ結局此ノ殷富ヲ致シタルニアラザルナキヲ得ンヤ、建國以來僅ニ百有餘ノ年月ヲ經閲シタルノ北米合衆國ハ何ニ由リテ彼ノ如ク世界無比ノ富强ヲ致シタルヤ彼等ハ羅馬人ノ勇氣ヲ振ヒ七年間ノ弱風腥雨ヲ凌キ獨立ノ旗章ヲ「ルッキー」山上ニ飜翻タラシムルヤ、銃鉋ヲ曳カシメタル牛馬ヲシテ工具ヲ曳カシメ腰間ノ秋水ハ捨テ、一挺ノ鎌トナシ肩背ノ劍銃ハ去ッテ鋤鍬タラシメ土木ニ採礦ニ冶金ニ造船ニ或ハ機械ヲ發明シ或ハ運河ヲ開通シ鋭意屹々各自身ヲ挺シ險ヲ踏ミ工業ニ從事スル恰モ七年間ノ苦戰ニ異ナラザリシ結果ニアラズヤ、英書ヲ飜キタルノ士ハ記憶スルナラン、英京倫敦ハ各種製造所ノ煙筒ヨリ噴出スルノ黑煙ハ白晝ヲシテ晦ナラシムルト宜ナル哉海上ノ主權者タルヤ而シテ歐米各國ニ於ケル工業上ノ競爭タル甲國ニ於ケル無煙石炭ノ發見ハ乙國ニ於テ無煙火藥ノ發明トナリ、丙國ニ於ケル一丸「アルプス」ヲ貫ク巨礮ノ

製造ハ丁國ニ於テ之ヲ防グ鋼鉄ノ鍛練トナリ、一方ニ於ケル海底水雷ノ發明ハ他方ニ於ケル海中電燈ノタメニ探知セラルヽ等、夙夜汲々、其ノ競爭ノ激烈ナル實ニ筆紙ノ能クスベキニアラザルナリ嗟呼歐米各國ハ實ニ工業ノ一大戰場ナリ、工業上强者ノ位置ヲ爭フノ眞最中ナリ吾人東亞ノ同胞ハ豈對岸ノ火災視シ以テ枕ヲ高フスルノ時期ナランヤ況ンヤ其ノ餘響業ニ已ニ東亞ニ波及スルノ今日ナルニ於テヲヤ

退イテ我國工業ノ狀況ヲ視察セヨ、其進歩以テ歐米各國ノ戰場ヲ凌駕、否ナ寧ロ一ノ軍隊トシテ戰端ヲ開クヲ得ベキ程度ニ及ビタルヤ予輩ハ各地ノ水災及運輸ノ不便ニ由リテ土木ノ幼稚ナルヲ知リ鑛材綿糸等輸入ノ夥多ナルヲ見テ採礦冶金及機械製造ノ發達セザルヲ察シ日本海ノ浪、靜カナルニモ關ハラズ常ニ難破船ノ數多ナルヲ聞キテ造船ノ不完全ナルヲ見ル、其他舍密ニ、電工ニ、一トシテ未ダ成人ニ達セズ每ニ歐米人ノ牛後トナリ其ノ糟粕ヲ嘗メ歐米各國ニ於テ業ニ既ニ廢物ニ歸シタル物モ我國ニ於テハ輓近發明ノ利器トシテ尊重スルガ如シ、心アルモノ誰カ浩嘆セサランヤ、予輩ハ特ニ大聲疾呼○同胞ノ注意ヲ攪起シタキ所以ノモノハ昨年六七月ノ頃、奈良、和歌山ヲ主トシ全國ニ於ケル水害ハ何ヲ以テ斯ノ如ク慘毒ヲ逞フシタルカヲ考一考アランコヲ、若シ堤塘ヲシテ强固ナラシメハ豈ニ新十津川鄕ヲ北海ニ設クルノ必要アランヤ是畢竟封建制度ノ遺風未タ全ク痕ヲ滅セス工業ヲ賤シムノ氣風、一般同胞ノ腦裡ニ染浸アルニヨルナキ乎世人ハ前擧ノ逐例ヲ見ルモ尙ホ恬然トシテ悠々タルヤ予輩ハ之ヲ思ヒ之ヲ想ヒテ轉タ長大息ニ堪ヘサルナリ嗚呼歐州各國工藝上ノ强者ハ漸次東亞ニ進擊シ城ヲ拔キ砦ヲ毀チ凱歌ヲ口ニシ堂堂大牙ヲ擁スルノ大軍ハ吾人ノ眼前ニ横ハルニアラスヤ彼ノ埃及ノ零落セシモ印度ノ悲境ニ陷リタルモ緬甸ノ衰弱セシモ皆此レ强英ノ富力ニ壓抑セラレタル結果ニアラスヤ佛國ノ安南ニ於ケル獨逸ノ朝鮮ニ於ケ

ルモ亦然ラサルニアラザルカ嗚呼、我忠愛ナル同胞諸君今日ニアツテ勇壯ナル大和魂ヲ皷舞シ封建ノ遺風ヲ脫却シ彼ノ英米人ノ如ク精勵工業ニ從事セスンハ外ハ以テ歐米諸國ノ侮慢ヲ防クヿヲ得ルナク、內ハ以テ國家人民ノ災害ヲ防クニ暇アラサル可シ吾人安ゾ先人ノ忘想ヲ慕ヒ

日出國分有名實、百練精鐵所鍛造、
光鋩電閃夏猶寒、風蕭々分髮衝冠、
請見日出男兒膽、蹈白刃分犯礮丸、
犯礮丸分陷堅陣、

ト北門ノ鎖鑰未タ强固ナラス南海ノ門扉未タ竣ラサルニ優柔不斷工業ヲ顧ミサルノ時ナランヤ同感ノ士以テ如何トナス

村山地方々言彙集

松本慶次郎君

我鄉人ノ言語ノ粗野ニシテ最モ方言多ク、語調ノ澁濁喧噪ニシテ最モ不整ナル所以ノ起因ヲ探究スレハ其種一ニシテ足ラサルヘシ、之ヲ探究スルハ要用ナラサルニハ非スト雖ドモ我鄉人ノ最モ恥ムヘキハ其結果ノ不正ヲ矯治改良スルニ在リト謂フ可シ、蓋シ永ク我鄉里ノ空氣ヲ呼吸シ我鄉里ノ山水ヲ賞玩シテ絕テ他地方人士ト交際スルヲ欲セサル者ハ措キテ論セス苟モ有爲ノ才ヲ懷抱シ天下ノ人士ヲ對手トシテ事ヲ爲サント欲スル我鄉人ハ誰カ我鄉言語ノ改良ノ必要ヲ感知セサル者有ランヤ、然リト雖ドモ言語改良ノ事タル至大至重決シテ期月ノ間ノ能クシ得ヘキ者ナラサルノミナラス或ハ不幸ニシテ反對ノ結果ヲ表シテ著シク國人ノ氣象性格、風俗習慣ヲ變革シテ爲メニ固有ノ美質良風ヲ滅却セシムルヿ無キヿヲ保スヘカラス然レトモ方言ノ慣用ヲ禁遏シテ普通ノ言辭ヲ使用スルハ敢テ固有ノ美質良風ヲ滅却セサルノミナラス却テ益々其質ヲ善美ニシ其風ヲ改進セシムルヿヲ得、唯顧念スヘキハ數百年來因襲ノ久キ因テ以テ一地方ノ通語ト成リタル者ヲ急ニ使用セサラントスルハ實ニ至難ノ事ニ屬スルヿヲ予ヤ我鄉里ノ方言使用ヲ厭忌シ全ク之ヲ廢絕セシメント欲シ其方法ヲ研究スルヿ久シ爾來鄉入ニ接シテ所謂方言ヲ聽ク毎ニ之ヲ謄錄スルヿト爲セシカ積ミテ數百言ノ多キニ至ル今第四回村山會報告書ノ成ラントスルヲ聞キテ其中ニ就キテ最モ甚シキ方言ヲ拔キテ之ヲ左ニ揭クレハ

方言	東京語	方言	東京語
でいさま	下女が商家の妻ニ對して云ふ東京のおかみさんニおなじ	ぽんとく	東京ニテぽんやり
ねばッた	磯多ノヿ	ひよなこ	雛子ひよわとをなじ
ふたぶ	頰	にらご	頭のふけ
べこ	牛	れんつア	叔父
かんむり	蝙蝠	くッちやび	まむし 蛇
きやごこ	是は秋とんぼと稱する蜻蛉なり	てふま	蝶
あけあッけ	蜻蛉轉じて一般の蜻蛉ニ及ぼしたるものと思ふ	つれんぼ	杖
びる	無性火鉢	てんばた	凧
ぶしやう		こばた	仝上
ぶろ		つかく	仝上
ちゆうなご	犯手玉	あままへ	からくり
すぐれ	びく 漁ニ行く時腰ニつける魚籠		

方言	東京語	方言	東京語
もんだら	たわし	ねばし	真綿
さま	まど是は狹間はさまより來りたるならん	とまや	樋下 是は小間屋と云ふ意ならん
れしごれ	鹽せんべい	しびた	茄子苛瓜の尾を指して云ふ京ニてへたと云ふ又栗のしびたは東京ニてしいおと云ふ
れかだッ	雷	ゐがこ	溝川
つアま		ぼんだら	氷柱 つらら
ひしやわい	庶間	ぎんながし	外見を飾る者
はらり	口善惡なき者	ひとさがり	しだらなき者
ねつッぴり	しわんぼ	ぎらぶ	翠微是は蹴鉢の音響より來りしものならん
むかさり	婚姻是は池へ去るの意ならんか	かなづき	頭のこと
はらた	うう	にし	汝 ニさにしは界隈の男子ニ對する語
にさ	汝は婦人ニ對する惡言比は雛(三日の)より轉化せしものならんか きさま	うんだ	自己のこと
へな		うぬ	
くさま		なける	棄てること
わからない	出來難きこと	さなる	叫ぶ東京にて怒鳴る
ござる	死ぬる	はづむ	東京ニて威張る
かまない	世話をせぬ	やんだ	厭ダ東京にていだや

方言	東京語	方言	東京語
ししやね	知らぬ	わらんだ	自分
でかはがす	東京ようてにれる	でかさない	醜き、美事ようなるものを東京の俗言ようて是は出來たと云ふに正反對ようなる言ならん立ちたる
とびたがる	東京ようてくすぐたがる	つくばる	突張る東京にて平伏する
えんばい	詔諛する	がんなぐる	取上くる東京ようてひったくる
つかす			
すめづり	水滑り	むづこい	無態なる
うかい	余分	はどひ	東京にれッたい
よつばらか	久しくよッぽど（余程）轉ぜしならん	づは	薩摩の轉化ならん（國放）扇言する
とたえ	此樣ようて	やくど	故らに、東京ようて態と
ねな	何故ようて	なして	全上
とッつァら	却て	ぐいら	不意に
のべ	常々	でうやで	定メテ
はいつけな、はいつけな、あいつけな、あいつけな	アの樣な	かいつけなは	此樣な
はんだら	それなら、	はでない	うふでない
はだら	許かり	ばり	全上
ばし			

方言	東京語	方言	東京語
つかす	言ふ	こく	全上
あべ	行げ	うんぢや	歩り
れかた	女房	しびたれ	臭怯者
かんぼふ	機多	ちやッぱ	於顯婆
かしやれ	床に臥せよ	びッき	蛙
もッかへッた	顯例した	れだる	折る
れんつぁれる	叱られる	ごッたく	狼狽
けろ、くろ	呉れよ、頂戴よ	しやれ	去れ
ぺろり	のこらず	どうす	扁病
ねッちよ	强情	れがる	成長する
むッぱれる	老耄する	ごしやく	怒る
あんつァ	兄さん	たがく	持つ

等ノ如シ予試ミニ東京語ト對照シテ以テ其義理ヲ明カニス、諸君ヨ諸君ハ以上ノ方言ノ如キハ平時決シテ之ヲ慣用セサルヿハ予ノ保証スル所ナリト雖モ勉强ノ餘暇之ヲ一讀セハ或ハ些少ノ稗益タニ之レ無シト謂フヲ得ンヤ

予カ我郷里ノ方言ヲ蒐集スルニ付キテ最モ予ヲ補助シタルハ曾友佐々木忠藏君幷ニ忠藏君ヘ友タル佐藤雄能君（鶴岡人ナリ）予深ク二君ニ謝ス、聞ク二君モ亦郷地ノ言語改良ニ鋭意セラルヽト亦我黨ノ士ナル哉

樂の話

金田留平君

明治二十三年當第四回村山會報告書出るに際し不肖留平元より諸君之御參考ニなる事共は到底述る事能はずと雖も又幾分の經驗幾分の思慮無きにあらず是れ即ち短才と顧みず報告書の幾ページを埋め讀者諸君の寸陰と拜借する所以なり

偖是より述る話の題は（樂の話）とて大層面白そうなる觸込なるかさして面白き話にあらず寧ろ（手前味噌の効能）と改むるの穏當なるに如かざるなり

人の此世に生れ貴賤尊卑の別なく學問ヲ修め技藝を研き實業と取るに論なく各勉むる所あり已に勉むる所あれは又此勞を醫すに物なかるへからす其勞を醫する者は何ぞ樂即ち是なり然り樂は實に人生必要の一要具なり

樂の種類實に夥しく中々一一上くる事能はずと雖も摘て其一二を示さんに酒池肉林を盡し一夜の春を買ふて愉快なりとする者あり（我村山人にして村山會員たる者よは無論斯る所業無からんが世間間々有勝の事なり御注意の程是祈る余計の老婆心）當節なれはカルタ、トランプ等ニ夜を更しワイ〳〵と躁き起て無情の樂とする物あり芝居に行きて猥褻極る狂言等を見夜席に行きて講談師の扶螺萬八を聞て快と唱ふる者あり又仁者の樂む山智者の愛する水とか我は鳥を友とす我か一生を語るべき者は只庭前紅梅あるのみ等と山川草木禽獸等を樂む風流者あり又下等社會の粗食に甘し麁服を纏ふ者よても男はて〳〵ら女は二布して夕顔棚の下涼み此が無上の樂ありと云ふ已に反古庵白猿の歌にも

樂しみは　月雪花に　ほとゝぎす
　夫婦中よく　三度喰ふ　飯と味噌汁

と言はれし

因云　此歌は（施頭歌）とて萬葉集等にも問々見ゆ其一例を示せば

萩か花　尾花くづ花　なでしこの
　花ぢみなへし　あさがほの花　また藤ばかま

此は憶良大人の咏れし名歌なり恰も聖武天皇の頃歌道の盛なる時に大家の咏まれし者なれば決して間違等はなし白猿の歌も此類にて亦あやしむに足らず

又動植物學を修め深山幽谷に徘徊するを以て此上も無き樂しみとする者あり其外樂みの範圍内には千種万別限りなしと雖とも畢竟左の二ッ即ち

第一　肉體上の樂
第二　精神上の樂

より外ならず

肉體上の樂とは如何なる者か是れに一番適當なる定義は

（動物的の樂なり）

美食して甘とし一夜の夢を結ひて樂とするが如きは動物的の樂にて豈に人間に限るものならんや犬馬已に然り靈妙なる人間何んすれぞ犬馬と樂を同ふせんやカヽル肉體上の（即ち犬馬同樣なる動物的の樂）は諸君と共同一致して一刻も早く大呼一聲人間界より放逐せざるべからざるなり然らば如何なる樂を取らんか曰く精神上の樂なり

精神上の樂なり

精神上の樂の内よても美術てふ物程吾人に向て高尚優美なる樂を與ふるものはあらざるなり

此美術てふ者を西洋流に從ひ分類せば

第一　詩歌　第二　繪畫　第三　彫刻
第四　建築　第五　舞蹈　第六　音樂

の六ッなり斯く多き美術の内何れを取らんか是は一の研究すべき要点なり大体此六の者は相關係して離るべからざる者なるが取分け此頻繁たる世界に立つ所の吾人に向て適當なる者は音樂ならん（此處が手前味噌の効能とも云ふべき處なり）

私は一昨年の春櫻花爛熳たる頃より此道に志を屬し心身を委ねて研究せし經驗に因り考ふれば音樂なる者は實よ吾人に高尚優美なる感情を與へ心身を喜ばしむるのみならず

第一政事、第二交際、第三宗教、第四軍旅、第五教育等よは非常なる關係ありて一日だも離るべからざる者なり玆に一例を上げて各簡單よ証據立てん

○第一、音樂と政事との關係

昔支那よては音樂を以て政署の一として有りし已よ諸君も知らるゝか如く周禮地官大司徒云。以六樂防萬民之情而敎之和（註鄭司農云。六樂謂雲門（黄帝之樂）咸地（堯）大韶（舜）大夏（禹）大護（湯）大武（武）とあり又秦より唐に至るまで歷世一革命ある毎に必らず前朝の樂を破て愛慕するの念を去らしめ又新廷の樂を興して敬慕するの意を起さしむるとかや尤も新廷の樂を興す名義は表向き唯太祖の廟を祭る爲めに造るとして内實は革命禍亂の餘獘を治め專ら民心を和くる爲めてあるなり旨哉英雄の政署初めは武を以て變亂を治め終りには樂を以て餘獘を救ふ旨哉英雄の政署や是よても音樂の政事よ必要ある事は知るに足らん

○第二、音樂と交際との關係

一昔支那の周の世には諸侯王の會合する時には必ず詩經小雅の篇鹿鳴の章を唱ひしと云ふ（尤も唐の世にて壯年者及第せし時唱ふる者に變せしにや韓文公送揚少尹序中に揚侯始冠。擧於其鄉。歌鹿鳴而來也。とあり）兎に角其原は王侯會合の歌なりされば本邦よても外國諸賓を饗する所を鹿鳴館といひ現在日比谷操練場の向にあり

二、又現今日本の紳士達か公用を帶びて外國に行き外

國公使館等に至れは必ず先つ日本國歌君か代を奏し其後にあらざれは總ての用件はなさゝる由是を見ても音樂は交際を圓滑ならしむる者なる事知らるべし

○第三　音樂と宗教との關係

一、方今本邦にて諸所に耶蘇の會堂あり何れも其品の善惡に拘らず大概一ヶの（オるがん）の備附けあり此は說教等の前後に奏し且つ（讚美歌等を）唱ひ心を靜め敬神の心を起さしむる一の方法に組立るなり　二、又淨土眞宗杯にては僧侶音樂を奏し其門徒は和讚を謠ひ　三、天台宗にては聲明を謠ひ　四、西國三十三番詣御詠歌を謠ひ　五、富士講は登山の際掛念佛を唱ひ　六、日蓮宗は團扇太鼓を敲き立て御題目を唱ひ　七、其他諸宗の人々は木魚や伏鐘等を打ちて御念佛を唱ふる等音樂の宗教に關係の深き事斯の如し

○第四　音樂と軍旅との關係

一、諸君も知らるゝ通り昔より一軍を進退するには是非共貝、鉦、太鼓、は必要なりとせり昔し豐太閤の朝鮮征伐の砌小早川隆景が碧蹄關に於て明なる八十萬の大軍に當る時士卒皆震慄して戰ふ事能はず其時隆景先つ士卒に背面居敷を命じ徐に敵の近くを待ち而して馬上自ら貝を採りて大ゐ之を吹鳴し盛に士氣を勃興し遂に敵軍八十萬を壓倒せしとかや　二、又遠く漢土に於ては張良明月の夜獨り山上ゐ登り最も哀れに越天樂を吹澄し八十萬の楚軍をして皆望鄉の念を起さしめ以て遂に之を潰亂せしめたりとかや　斯る例甚だ多し現在海陸軍にて莫大の費用を投じて此道を廣張する又故あるなり

第五　音樂と教育との關係

一、音樂と教育の關係は非常の親密なる物にて音樂なかりせば到底教育の目的を全達する事能はざるなるべし現に文部省に於て音樂學校を建て各府縣に唱歌教師を置き各小學校にても盛に此道を研磨するを見ても教育との關係淺からざるを知るゐ足らん此にも漢土歐洲日本等の一々所例を上くべきなれ共余りゐ五月蠅ければ之す畧ゑ何に致せ六藝の一なれば敢て述る必要あらざるなり

頻繁たる新世界に徘徊する諸君ゐ考一考せられゐ諸君にして若し此道を以て樂とするならば只に高尚優美の立派なる樂を得るのみならず誠に世上ゐ起ちて士農工商の業を取る者は勿論政事、交際、宗教、軍旅、教育を取るに論なく苟にも人間と生れて是非知らざるべからざる一の要具を得る一舉兩得の策なり敏聰なる諸君は之を取るに暫て猶豫せざるべし　（完）

（二）詩歌

冷雲　那須　哲君

日光山雜詩二首舊作

追尋幽靜地。得意去京華。月白波山夕。泉清晃嶺霞。羽人遊已去。神廟敬殊加。避暑三旬暇。此來脫俗奔。

村田鶴汀曰、風塵奔走如予者一讀生欽羨

盡日忘炎熱。涼風滿袖輕。神橋烟霧好。蒼嶺月光清。旅館無吟友。鄉雲多感情。詩才吾零落。猿鶴爲誰鳴。

仝曰、七八大見蒼古之處

閨怨

一自戎衣戍遠陬。吳山越水歲三周。蘭燈影暗空閨夕。玉笛聲淸邊地秋。天涯雁行音信絕。窓前蟲語伴閑愁。自憐皎々今宵月。應照征人滿塞頭。

偶作

幾嘗辛酸氣益豪。休言孤客空悄勞。好將風物付吟咏。不忍池頭秋月高。

友人見訪分韻得杯字

客窓蕭寂夕陽催。偶有故人酒携來。休問世間榮辱事。評詩品畫共傾杯。

冷雲學人

立皇太子の盛典を祝して

御代を嗣く太子を立てらる今日なれば
野山の菊も色を添ふらん

旅　衣

れもふむかしは。なつかしく。今日よ殘る白河や。旅の途つれつれなくも。夜半の小舟のうれしくて。獨り氣樂の心地せり。去は云へむかし今は又。遠き東都の餌ょ居り。人の知らぬも知るとなし。あはれ霜降る朝の時。飛鳥の山路ふみ分けて。始めて知りし兩親の。御恩の影よちりつもる山に海原物もなや。拾ひし紅葉手に取りて。よく〳〵見れば一重。覺へすぬれて色を增す。赤き心の瀧の川。哀れをそゆる雁の音に。一しほ慕ふわが心。何時しか秋も過き去りて。又もや來つる白妙の。未だ見ぬ雪に肌寒き。冬のたそがれ悲しけれ

旅の身は物も哀れに見ゆるなり
なべて寂しき年の暮れかな

題しらす　　高橋庄次郎君

くもりなき心の玉もみがゝずばいかで光りをあらはさん
書讀む窓の白雪も机をてらす螢火も心の玉ょ光りそひ學びの道をてらすなりめぐる月日はかはらねどうつろひやすき人の身のやがて果てなんあづさ弓春さく花や秋の月綠ぞふかき木々の葉も紅葉ゑしとや見るひまにはや木枯風のふきそめて冬のなかめかしろ妙のふりぞしくなる白雪はわか年のむた積りしを今は鏡の影になり初めて悔ゆる人多かり老いての悔はなまよみの甲斐なきとおもひなば老いの至らぬそのさきに學ひの道をいそしみて心の玉をみかきおん心の玉をみがきれさめむ

れなしく返し歌

積みし雪あつめし螢も光をは
身よとりそひて世をやてらさん

花下步月　　鶯涯永澤朗君

一痕春月印青霄　數点梅花映小橋
無竹無絲獨吟步　天眞幽味在今宵

秋日送友人　　仝　上

秋風襲背旅情紛　況復旗亭於送君
別酒數行辭客地　分襟千里向鄉雲
哀猿叫處關山遠　征馬嘶邊白日曛
聚散何須空悵恨　唯期事業在斯文

武田郁藏君

村山會雜誌に題す

我里の筆の林ょ花咲きて
都もひなも香ふべらなり

四季の花合せ　　香稻原田源輔君

徒然さそふ、雨風も、野分も、梅雨も、厭ひなく、春初めより、冬かけて、咲きも殘さず、散もせぬ、盛り久しき、色々の、花を一間に、まき散らす、桐の一葉に、鳳凰の、ふの、かされて、いちはやく、姿つくろふ、梢より、登る旭の、影高き、松に壽く、田鶴も、豐ょ渡る、天の原、ふりさけ見れは、武藏野の、月のたゝ中、行く雁に、つれなきものは、つま戀ひて、終夜鳴く鹿の音も、通はす背戸の、破れ垣に、はこり貌にも、咲匂ふ、菊の盃、取りいたし、紅葉手折りて、暖たひる、酒もよしのや、みよしの、、櫻は花の、名所と、このもかのもに、燃ねむまて、陽炎ひとめし、まんまくに、綾織かくる、青柳の、糸より細き、春雨を、凌く蛇の眼ょ、燕め、飛ばして來る、羽根つぶて、地にしく星に、あとゝめて、花よりあくる、曙に、はや鳴き初る、鶯も、老て忍か、岡よりそ、新たに名のる、時鳥、ほとなく乱る、藤波に、かけて渡らむ、八ッ橋の、昔ゆかしき、かきつはた、ゆかりの色は、今もなほ、薄紫の、それなくて、契りも、深海、草かけに、狂ふ胡蝶の、ゆめうつゝ、さまして聞けは、曇りなし

磨あけたる、白露の、玉を袖の、荻原よ、臥猪のはての、はかなさは、たのみし宿は、霜はしく、ほこりし衣は、特更よ身をきる氷柱、薄氷に、なるものとては、崔嵬の、實はかりなふる、風を、幹よ聞かして、砌りには、獨りでに咲く、六ッの花、積り〳〵て、埋火の、有明近く、なるまでに、團居するこそ嬉しけれ、睦み合ふこそたのしけれ、

偶　詠　　仝上

こゝろしてふみな迷ひそ言の葉の林に通ふ道はひとつを

失　題　　仝上

種になる瓢もつるのふくべかな　　仁科三也君

高き屋にと咏み給ひたる聖天子を
あき果し君の宮居をもる雨よ賤がふせやの
うるほいにけり

西南の役に戰死の人を吊ふ　仝上

國のため築紫の野邊にこぼれにし露にぬる〳〵は
我か袂なり

春興　　仝上

咲く花よ仇ともしらで風車もつわらべ子の春ぞのどけき

閑居偶來　　仝上

山に樵り川に漁りて暮してん道ある美代に生れあふ身は

偶成東都客舍　　仝上

坐想前途事　轉深故園情　上野耶淺草　幽鐘夜半聲

題義士復讐圖　　佐々木訥君

風雪漫々銀一白。夜深闃寥絶人迹。四十七人百錬刀。欲報主讎慰怨魄。辛酸何顧五尺身。况復此身本委君。白刃閃處紅血迸。滿庭雪變忽殷々。君不見忠慨義憤烈士志。凝結磅礴滿天地。士峰之高琶湖深。千秋便能同位次。芳名遠及海西東。英米魯佛仰餘風。當時姦吏雖無眼。終古不湮純乎忠。歳之臘吾病凋瘵。忽見故舊惠斯畫。日夕不捐卷復舒。掃吾二豎特地搓。高樓夜半傾綠醅。對圖豪吟氣壯哉。乘醉揮毫題餘白。滿天風雪敲窓來。

早春鶯　　河合孝朔君

谷深み春の雪消の遲けれはまたうちとけぬ鶯の聲

憲法發布の時によめる

苔の下にたよりしあれはことつてん
今日鶯の初音きゝしと

秋日客中　　近藤藻陽君

秋風一氣晩蕭々。北馬南船奈路遥。尤恨故園三徑裡。繁霜恐使菊花凋。

夏日山行　　仝上

避炎偶向碧山行。出郭差知爽氣生。最好東溪々上路。竹林深處聽泉聲。

寄村山會友歌　　渡邊貞雄君

たのむかな吾友垣の竹馬は
老ての後も杖とこそなれ

磨上原懷古　（正岩代國磐梯山麓）

あな天晴れをしむべき身を捨て〳〵世よ
名を殘すなる磨上の原

袖ぬれてしのぶもあはれ磐梯の
やまの裾野にのこす石ぶみ

寒江釣雪　　風間金次君

侵雪銜寒釣水濱。荒磯投餌浪多紋。箬笠未見鮮魚潑。難奈凍天落日嚥。

（三）小説

わかれの涙　　花迺舍　長登淳君

其上　　親子のわかれ

あきの田の。かりほす稻もはや入れて。今かと雪を松の葉も。嚴霜にしほれてものすごし。四望の高峰の木々の葉も落ちてさびしき冬げしき。まして夜は丑三とふけ渡り。憂さを仲立ちふる雨や。檐よしたたる雨しつくは。風の窓うつ音につれ。いとものすごき小座敷に。人聲するは確と老女。『くりかへし〳〵いふ樣だが。なにより身体が大切だから。あんまりつめて勉强はせぬがよい。いくら學者になりたいとて。西洋で病氣でもしてごらん。誰れあゞて手厚く介抱して。くれるものもあるまいし。又東京に居った

ときともちがい。ソレ病氣だとて。內から人をやる譯にも行かず。ほんに身体は大切にしなくてはならん。日本で勉強しても。隨分立派な方もあるもの。洋行なんぞしなくてもよいんだが……若し難船でもしたなら。ただ〳〵命を捨てに行くやうなもの……妾だつて五十ざきにもなり殊よからだがよわいかられ前のかへらぬうち……」あとは言葉なく。貌をそむけ目をとちて。いとさびしき息をしぬ。

これまて悄然首をたれ。火鉢よ樂書なし居たる。廿一二の青年は。灰よ火箸をさし止めて「ねッかさんの樣に氣の弱いことではなりませんよ。此節は滊船といふ便利なものか出來て。大ていなことでは沈沒する樣なことはなし。殊に今度出帆する滊せんは。英國でも有名な滊船ですから。何にもれあんじなさることはありません。又西洋には日本より上手な醫者許り居りますから。病氣などでは決してれあんじなさることはありませんよ。ねッかさんだッて……」思はず老母をト見れば髮まだ霜よそまねども。茶色じみたる額には。いと波高く目も凹み。最早頬も落ちたれば。思はずホット息として。まゆ根をひそめ下を見ぬ。折りから次の一間にて。一時をつぐる時計の聲。「チヤ。モー一時……モーねやう……オー足が痛くなッた。」所れ惜しげに立ち上り。欠伸と共に向ふを見やり。「オヤッ……まだ雨戸がしまらない」と云つ〳〵自身窓をあけ。「マア大層雨が降ッて來た。明朝もこの通りなら明後日立てはどうだ「あまりふる樣ならさうしましよう」。

さるほどに母親は。今はになりて嘆うとも。詮ないことと〳〵あきらめては。一しつくの涙も流さで。已がふし床よ立ちかへり。眠らんものと目をとちても。ゆるさぬ夢想むら〳〵と。せまきむなまよ押しつとひ。眠るべくもあらず見えぬ。——「これから四年と云ひば妾が丁度五十六。たとひ身体がよわくとも彼子がかへるまでは大丈夫だちうまいし。この近處では一番出來るもの。それよりはよい嫁でもあッてやッて。早く初までの貌でも見るのが遙まさッてるのに。そして自分だッて。もはや六十にも近いとし。一人息子を洋行……氣つよいも程がある。たとひ書物が澤山よめる樣になつたとて。初孫の貌も見ずに死ぬ樣なことではほんに詰らん。私しだッて五十三になるところ。あと四年といひば五十六。それから嫁をとッて初孫の貌を見るまでは今六年もかゝること。それまで丈夫で居ればイーが……どうか分らんよ。妾が廿九のとしであッたが子が一人もないから夫樣に內々で觀音よ願をかけ丁度百日百夜目に男の子を產んだ夢を見て間もなく姙み。卅のとしの四月。忘れもしない廿六日の晩あんなになんざして產み落し。苦勞に苦勞して育て上げた一人息子を死んで歸るか生きてかへるか。知れもしないこんどの旅立……あの何ん千里さきの英國とやらに。あの波のあらい海を……なんせんでもしたらコ……こ

……併し老少不定なこの娑婆。殊にあの子は生をつき身体がよわいから……まさか……妾もあの子の產上りから始終からだがよわくッて藥で漸々これまで生きて來たものゝこれからだん〳〵年とれば。次第よよわるばかり。腕のやせた處や……これ……この腹の具合など見れば今ともいはれぬ……」思ひまわして涙組む「昔日は可愛子を戰場よ出した母親さへあッたに——あのあつ盛……死ぬと定まッたことではなし。なげくたけが損だ」と思ひ直して涙を拭ひ。目を見開けば行燈の。影うす暗くものさびし。「ヨク眠ッてると。男といふものは氣丈なものだ」夫の寢貌つく〳〵見て。已がこゝろの弱きを耻ちぬ「峯次郎もさうだ。チットモ別を惜しむ景しきもない……併し矢ッ張心の中では名殘惜しく思ふだらふよ。されども別れて行く氣になッてるかと思ふと尙は可愛さうよなるよ。ねとッさんも親父樣だ。なぜ洋行などさせるところだらう。出來ぬ子ではあるあの何ん千里さきの英國とやらに。あの波のあらい海を……なんせんでもしたらコ……こ

の世のワ……」夜具の襟をば貌よわて。又も涙にくれ竹のうきふし繁き浮世ぞと。嘆つも理りなるぞかし。さても望月峰次郎は。しほ〳〵ふしどに就きしかど。靜に風の窓うッ聲。簷にした〳〵る雨雫は睡眠のじやまとなるものから。いと〳〵ねつかぬ胸の中。何時しか浮ぶ夢想は八幡しらじに漫りぬ――「今度のたびは何にも心配なことはないが。只々氣にか〳〵るはねッかさんのお身の上あの頬のやせこけたこと。腕などは丸でほし大根同樣あの分では。已が歸朝するまで壯健で居ッて呉ればよいが困ッたもんだ」目に涙は流さねど心はしほれ氣もたゆみぬ「仕方がない大業を負ふこの身。男だ。……別が惜しい……

……なんだ女々しい。大丈夫の最も耻ッべきことだ」と我で我情を制しぬ「龍動」と思ふと共に東京の。銀座の市街は幻しに見えぬ。」容子が不審ッで隨分困るだらうよ。中橋が湯屋で小便して失策したさうだがさもありさうだ併し少々は誰しも失策は免れないから仕方ないが密賣買ッて失策した日にァ大變だワイ。密賣といひァ信夫ばかり如何したらよからう。實ァあれでは僕も失策したワイ。今よなッてはあの儘うッちやッて置く譯よも行かず去ればとて……困ッた」折りから響く時の聲。「オヤモー四時。……

かくて其夜も明方に。なく鷄も恨らめしく。聞く両親や峯次郎は。朝まだきに起きなせば。思ひもよらぬ好天氣。いよ〳〵今朝は發足と。定めなき世はいみじくも。可惜かあゆき一人子を。たとひ便利な世とはいへ。千里万里遠くはなれたる。外ッ國よやる両親や。別れ行く身の峯次郎が。こゝろの中は如何ならん。いかで悲しくあらざるべき。扨両親は。餞別に來りたる客人と共に。別れの宴致さんと。峯次郎を上座に招じ。別れの杯さしながら。自愛してよ。道中は氣をッけてよと諫めッ。慰めながら袂を沾す。中に一人なげく母。「漸く大學とやらを卒業して。先ッうれしいと思ふ間もなくこ……この別れ。……」あとは

言葉もないぢやくり。胸もはりさく老櫻。散りて果かなき心根を。さッしやッたる峰次郎。ッヽむ涙のしのび泣き。唯悄然たるばかりなり。

忍ふれど色に出でける父親は。哀と口に出さねども。胸の中なる苦しみは。ッヽむだけ尙ほはげしかるべし。「文明開化のこの世の中。英國でも佛國でも隣國に行くと同樣。……ナァ　よ道中なとは少しも案ずることはない。峰次郎この度は出世の首途出だ。名殘惜しむ樣なことではならんぞ……峰次郎」。と子をはけます親心。察ッしやられて哀れなり「ハ……ハイ……」力なげなる涙聲。聞く母親は尙ほはせき上げ其儘其處に泣きしづむ「なんで泣きめさる峰次郎が出世の旅立。却てよろこぶべきに。な……泣くよは及ばん」。怒氣とふくめど震へ聲。峰次郎始めまらうどまで却て涙をましにける。折りらか聞ゆる時計の聲「これ峰次郎今鳴るのは八時だ。モ身仕宅しな……サ……峰次郎」と淋しげに微笑を含みぬ。「ハイ……」と對ふるも口の中。悄然其座を立ち去れば。あとより續く母親は。涙をしやくり上げながらフロッコートを取り上げて。峰次郎が手よ渡すさへ。涙の種となる海潟。深き嘆きにたゝかねて。又もや其處よ取り乱す。峰次郎は只々すゝり泣き。鼻は詰れどつまらなしと。心を勵し一間を出で。別れのいやもいやなれど。仕方なく〳〵手をつかに。「サ……去らばとなたも……」あとは口の中。人知れず涙を拭ふて立ち上り。けなげにしきゐはまたげども……此れが……思はず後をふりむきて。堪ずや又も一重。「ァヽ女々しいこんなことではならん。

やがて車にうちのれば。母は矢庭よかけよりて。車にもたれなき沈む。胸は涙の五月闇。黑白分かぬ。涙聲「コ……コレ。モ……モオ……」ト云へど峰次郎は。應ひの言葉もなく。只々目をとぢて泣く計り。かくては果てトと峯次郎。「ヨ……由三車をひけッ。　（未完）

本會ノ役員ハ現時左記ノ四氏ニ候間本會ニ關シテ所用アル方ハ四氏ニ就キテ尋問アレ

東京本郷區臺町二十八番地羽陽舘內
安達峰一郎

幹事並圖書保管

神田區北神保町十二番地佐竹方
佐々木忠藏

幹事

同　麹町區中六番町二十九番地
松本慶次郎

幹事

同　芝區高輪臺町四十番地吉田政信方
鈴木太助

主計

明治廿三年二月廿四日印刷
明治廿三年一月廿五日出版

編輯兼發行人　神田區北神保町一番地　佐々木忠藏

印刷者　同　神田區柳原川岸第十四號地　田中正造

本會ノ役員ハ現時左記ノ四氏ニ候間本會ニ關シテ所用アル方ハ四氏ニ就キテ尋問アレ

幹事並圖書保管　東京本郷區臺町二十八番地羽陽舘內　安達峰一郎

幹事　神田區北神保町十二番地佐竹方　佐々木忠藏

幹事　同　麹町區中六番町二十九番地　松本慶次郎

主計　同　芝區高輪臺町四十番地吉田政信方　鈴木太助

明治廿三年一月廿四日印刷

明治廿三年一月廿五日出版

編輯兼發行人　神田區北神保町十二番地　佐々木忠藏

印刷者　同　神田區柳原川岸第十四號　田中正造

村山會報告書

第４回

国立国会図書館

203007-000-3

特67-964

村山会報告書 第4回

佐々木 忠蔵／刊

M23

EDH-0074